

平成 29 年度 事業報告書

社会福祉法人 北摂杉の子会

I. 事業報告

1. 法人本部

平成 29 年度方針

1. 第 3 次 5 か年中期計画未達成事業の達成

(1) 「ジョブサイトひむろ・萩の杜従たる事業所」の移転整備

【成果】

「ジョブサイトひむろ移転」については、郡家本町の候補地（市街化調整区域）が浮上し、高槻市審査指導課、障がい福祉課と何度も折衝を行うことや、家族会からも署名や要望書を提出いただくなど、取り組んだが、認められず、休止している状況。それ以外にも、8 か所の不動産関係社にお願いし、候補地を探している。

また、現在の土地の地主さんから提案があり、検討を進めている。

「萩の杜従たる作業場移転」については、奈佐原 2 丁目の土地を確保し、造成工事を終え、4 月から建設工事に入り、7 月の開設を目指している。

(2) 「グループホームみやた」の移転整備

【成果】

「グループホームみやた移転」については、奈佐原 2 丁目の三輪さんの土地をご紹介いただき、申請等を進めた結果、3 月より建設工事を開始し、平成 30 年 9 月の移転を目指している。

(3) 「第 2 レジデンスなさはら」の整備

【成果】

「第 2 レジデンスなさはら整備」については、萩の杜従たる作業場に併設するカタチで進めている。平成 29 年度補正による国庫補助金の申請を行い、2 棟とも満額の内示がおりた。現在、設計、入札の準備を進めており、9 月着工、2 月に完工。平成 31 年 4 月からの開設を目指している。

2. 支援の質の更なる磨き上げ

支援の質の磨き上げについては、その体制整備を含め、以下について重点的な取り組みを推進します。

(1) 利用者個々の障害特性に応じた「合理的配慮」に基づく支援

【成果】

地域における障害者虐待防止及び障害を理由とする差別の解消に向け、受託事業を通して理解の促進と啓発を行うと共に、関係機関との連携を図り権利擁護に努めた。

また、定期的にケース検討会議を行い所内全体でケースの動向や関係機関との連携状況について共有し、特性や 2 次障がい等の理解を更に深め、合理的配慮の不提供とならないよう留意した。中でも、合理的配慮の不提供や権利侵害の恐れのある案件については、事実確認を行った上で市町村と連携し解決に向けて危機的介入を行った事例も見られた。

(2) 「意思決定支援」と「表出性コミュニケーション支援」

【成果】

当センターの委託事業の中でも直接支援にあたる相談支援・就労支援において、ご本人の特性に応じたコミュニケーション支援を行うと共に、意向確認にあたっては実体験を通して自己決定できるよう同行支援も行う等意思決定支援を行った。併行して代弁機能を担い地域や職場との橋渡しを行った。また、セルフヘルプグループのサポートを行いART 展覧会を実施する等自己実現の場を提供した。

地域生活支援部では、重い知的障害とコミュニケーションに障害のあるご利用者の「意思決定支援会議」を開催し、「意思」にそった支援を行った結果、一時は歩けなくなったご利用者の潜在能力が発揮され再び歩けるようになったケースがあることや、なさはらでは、ご本人の「意思」を尊重した個別支援計画の立案を行っている。

この実績は、大阪府社会福祉協議会からも評価をいただき、サービス管理責任者の伊名岡さんが大阪府主催の「意思決定支援から個別支援計画へ」という研修の主講師を務めることにもつながった。

(3) 利用者の「高齢・重度化」対策、特に医療的ケア・入院時の支援体制の構築

【成果】

医療連携推進室会議を年 12 回開催し、「高齢化・重度化」対策について検討を進める。医療的ケアでは特定の利用者に対して痰の吸引・胃瘻からの経管栄養を支援員が実施できるように講習受講を推進。併せて実施マニュアルを整備し、萩の杜、ふれいす Be において、支援員による医療的ケアを実施できた。入院時の支援体制の構築については、6 月に入院者が発生した際、事業所を超えて法人全体で職員が対応した。入院時の付き添い可能な居宅介護事業所開設について検討を進めたが入院付き添いは制度上の壁があり今後の解決すべき課題である。また、退院後のリハビリ等が可能な訪問看護ステーション（訪問リハビリ）を既存の訪問看護ステーションと提携し試行的に開始した。

(4) 法人内における自閉スペクトラム症のある人へのシームレスな支援が可能となる体制の構築

【成果】

発達障がい者地域支援マネージャー事業を継続して受託し、各ライフステージを通して身近な地域において安心して暮らすことができるよう、アウトリーチ型で地域支援体制の機能強化を図った。

(5) 就労継続支援 B 型事業の安定的な運営と支給工賃の向上

【成果】

ふれいす Be と J ブランチよどと LaLa-chocolat TAKATSUKI の 3 事業所の工賃規程の法人で統一した考え方の整理をした。各事業所で工賃規程で改訂して 2 事業所の工賃が上がった。

(6) 就労継続支援 A 型事業立ち上げ検討の継続

【成果】

A 型事業推進室でドリームズのポップコーン事業の検討したが、事業継続が難しいと判断し、B 型の工賃向上に軸足を置いて取り組んでいくことになる。A 型事業推進室

は平成 29 年度をもって廃止になる。

3. 権利擁護・虐待防止の取り組みの推進

- (1) 「権利擁護・虐待防止委員会」を中心として、利用者に対する権利擁護・虐待防止の取り組みの推進

【成果】

「権利擁護・虐待防止委員会」では、年間の事業計画を策定し、また各部署においても権利擁護虐待防止計画を策定し、委員会で進捗管理を行った。また「権利擁護・虐待防止委員会」を中心に、虐待防止クレドを決定し、7月に法人全体で振り返りチェックを行うことで浸透度を測った。その際、まだ文言等で「意味の理解が難しい」といった意見もあったことから、文言についての説明文を作成することや、e-ラーニングの制作を行い、そのテーマを「権利擁護虐待防止」とし、クレドを説明するなど、全ての職員にクレドの浸透を図れるよう取り組んでいる。

- (2) 利用者に対する「利用者自らの権利を知り、守る（セルフ・アドボカシー）」支援の推進

【成果】

「セルフアドボガシー」については、まだ取り組みを実施出来ていない。30 年度に持ち越しとしている。

4. 人材確保と育成、法人内組織間におけるコミュニケーションの活性化

- (1) 非常勤スタッフの採用の仕組みづくりと意欲的に働き、学ぶことができる労働環境づくりの構築

【成果】

e ラーニングで職員に対しての権利擁護虐待防止の研修教材を作成する。嘱託慰労金を倍に上げる。パートタイマー職員の交通費改善の検討とする。人材育成 P J でアンケートを取り今後の検討材料とする。

- (2) 研修・教育プログラム内容の充実と中堅・管理職研修の在り方についての検討

【成果】

平成 29 年度には株式会社 lean on me とコラボし「権利擁護虐待防止」をテーマに e-ラーニングのコンテンツの制作（6 章）を行った。今回は非常勤職員の方や入職時に受講いただくことを目的に制作を行った。30 年 4 月から全ての部署で運用開始を予定している。

- (3) 法人内組織間におけるコミュニケーションの活性化や情報の共有化を進める仕組みの検討と実施

【成果】

ジョブサイトひむろ、レジデンスなさはら間で連携会議を持ち、利用者情報を交換した。それぞれの支援計画を共有できた。ジョブサイトよどで J J おおさか職員による講師で研修を実施し、CoMedix に内部研修を掲載しオープン参加にした。

5. 地域住民に向けた障害理解の啓発活動の検討と実施

- (1) 啓発活動について検討・実施するプロジェクトチームを組織する

【成果】

「地域を耕すプロジェクト」を立ち上げることになり、8月に法人内で募集を行い、ふれいす Be 副施設長の竹内をリーダーとして、若手スタッフを中心に 5 名のメンバーと担当部長（平野）で、プロジェクトを開始した。プロジェクト開始時は、なかなか方向性が決まらなかったが、5 ピクチャーの手法を取り入れ、目指すべき方向性や課題析を行い、プロジェクトの取り組みを進めた。具体的な成果物としては、全ての部署を対象にヒヤリングを行い、各部署で取り組んでいる「地域での活動」や「地域に向けて発信している取り組み」等をまとめ、11 月の法人研修で紹介できたこと。さらに磨きをかけて、地域に発信できるような取り組みの企画提案をまとめている段階である。

6. 安定した法人経営のための収益の確保と法人の社会的責任

（1）安定した法人経営のための収益の確保に注力する

【成果】

予算、補正予算の作成に際しては、詳細の事前資料に基づいて正確な予想を立てて、理事会にて的確で長期展望にも資するような判断材料となるように心掛けた。

公金を原資とし運営する社会福祉法人であるので、会計内容には透明性を持って、安定的な福祉サービスが供給できるように資金繰りには細心の注意を払っていた。

（2）固定費の削減や業務効率化に向けた業務改善の取り組みを推進する

【成果】

経理内容を閲覧できるように経理ソフトを各事業所に配備しており、各事業所部長がいつでも入出金明細を把握でき、経費節約に対する認識と対策が醸成されるようにしていた。また、各事業所との情報交換で固定費等に良いと思われる案件は極力採用するように心掛けた。

（3）社会の公器としての社会福祉法人の自覚に基づき、法令の順守に努め、社会貢献活動を進めるとともに、透明性の高い法人運営を更に進める

【成果】

平成 28 年度からの社会福祉法人制度改革を受けて、法令によって役員改選を行い、役員会の構成を再構成した。行政指導により、法人ホームページに事業報告、財務諸表を掲載した。

2. 総務部

（1）平成 29 年度重要実施事項

- ①地域移行事業の整備計画を図る。
- ②医療連携推進室において高齢化に伴う課題を検討する。
- ③法人人事の制度化を確立する。
- ④地域づくりに向けた取り組みを開始する。
- ⑤財務体質の強化を図るとともに、キャッシュフローの改善を進める。
- ⑥総務部の各業務における業務改善を目指す。

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

- ①グループホームみやた移転、高槻地区グループホームの建設はめどをつけることができた。
- ②訪問看護ステーションの開設に向けて、他事業所と協力して進めている。
- ③正職員の人材確保については、必要数に満たなかった。
- ④地域を耕すプロジェクトで検討を進めている。
- ⑤施設整備に向けて資金繰りを万全としている。
- ⑥萩の杜、ふれいす Be でストレスチェックを実施した。

(3) 評価

- ①移転や整備計画のひとつであったので大きな課題解決と考えられる。
- ②法人の地域支援サービスの足がかりとなる見込みであり力を入れて取り組むことが必要と思われる。
- ③さらに雇用数確保のために、法人説明会の回数を増やす取り組みを始める。
- ④成果物として、自主製品販売の統合やブログ等での発信などが提案されている。
- ⑤資金計画を綿密に進行しており、法人の財務状況は良好となっている。
- ⑥産業医と連携して職員のメンタル面での配慮を実施できた。

3. 萩の杜

(1) 平成 29 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 高齢・重度化を見据えた個別支援を事業所・職種間連携を図りながら遂行する。
- ii) 喀痰吸引等の医療的ケア・入院時の支援体制構築に取り組む。
- iii) 利用者像に応じた健康維持のための運動プログラムの開発を進める。
- iv) 利用者像の変化や長期修繕計画に基づき、生活環境改善に向けた検討を行う。
- v) 生活介護事業 従たる事業所の移転に向けた準備を引き続き進める。

②人権を守る砦となる

- i) リスクマネジメントや権利擁護・虐待防止活動に引き続き取り組む。
- ii) 利用者個々の障害特性に応じた“合理的配慮”に基づく支援に取り組む。
- iii) 利用者の“意思決定”や“表現性コミュニケーション”支援に取り組む。
- iv) 家族の高齢化に伴う状況変化に対応できるように取り組む。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人の人材育成計画とリンクしながら、個人研修計画を立案・実行する。
- ii) 効果的な内部研修を企画・実行する（年 3 回程度）。
- iii) 職員間のコミュニケーションを促進し、業務改善等の提案につなげる。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) グループホームを利用しての地域移行を前提とした新規利用者を受け入れる。
- ii) 施設実習や見学等の受け入れを積極的に進める。
- iii) 安全対策委員会等、家族会との協同を継続し透明性のある施設運営を目指す。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 強度行動障害支援者養成研修の計画的受講を引き続き行い加算取得を継続する。
- ii) 全体会議等において引き続き収支確認を行い、固定費削減等に取り組む。

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 計画通りのスケジュールで進めることができた。
- ii) 喀痰吸引等研修(3号)を4名が受講し12月より支援員による医療的ケア実施が可能となった。また、7月より夜間帯(22:00-翌6:45)に看護師を配置した。
- iii) 作業療法士と連携しながら歩行改善等のプログラムを実施した。
- iv) 必要な修繕や利用者像に合わせた施設設備環境について適宜おこなった。
- v) 建物設備等の検討や資金収支計画等の作成をおこない移転に向けた準備をおこなった。また、新規利用者確保等の活動もおこなった。

②人権を守る砦となる

- i) リスクマネジメント委員会(毎月)、安全対策委員会(3ヵ月毎)を計画通り開催した。また、施設実習や見学を積極的に受け入れた。
- ii) グループ毎に毎月の支援会議を開催し、適切な個別支援を実施できるように努めた。
- iii) PECS の研修に支援員3名を派遣し、研修後復命講習やワークショップを開催した。
- iv) 施設入所支援事業においてユニット毎の懇親会を開催した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 個人研修計画を立案することはできなかったが、各支援員が希望する研修受講ができるように取り組んだ。
- ii) 年3回の内部研修等、計画通り実施した。
- iii) 年3回の全体会議において事業計画や予算の進捗状況等共有し、各ユニットの目標等を話合った。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 高槻市障がい福祉課、相談支援事業所等を通して候補者の検討を図った。
- ii) 施設実習や見学等を積極的に受け入れ、実習生には実習後のアンケート協力をいただいた。
- iii) 安全対策委員会や家族会定例会等において、利用者状況や運営状況について定期的に報告をおこなった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)を3名が受講し、実践研修については1名が受講した。
- ii) 建物内のLED照明化について7月に実施した。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) サービス管理責任者を中心に、年間を通して各関係者間で連携して進めることができた。
- ii) 支援員の喀痰吸引等研修(3号)の計画的受講について次年度も継続していく。
- iii) 高齢・重度化が課題となっている為、今後も継続して実施する必要がある。
- iv) 高齢・重度化等、利用者像に合わせた施設設備環境改善については今後課題が多くなる見込みなので、検討を継続する必要がある。
- v) 計画に挙がっていた利用者や家族のニーズ調査について実施することはできなかった。7月の移転に向けて、利用者のグルーピングや活動内容等について検討を進めて行く必要がある。

②人権を守る砦となる

- i) 目標であった“服薬に関する事故0件”を達成することはできなかった。
また、1月から3月の期間中、利用者19名のインフルエンザ罹患があった。
- ii) 必要な環境整備等も含め、継続して進めていくことが必要である。
- iii) 個別支援への反映等、継続して取り組む必要がある。
- iv) 参加人数の減少や内容のマンネリ化等、今後の継続については一考を要する。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 強度行動障害支援者養成研修やサービス管理責任者研修、喀痰吸引等研修等、加算取得や事業運営に必要な研修受講が優先となる傾向が強くなっている。
- ii) 12月の実践報告会には他法人事業所の参加もあった。
- iii) 各ユニットの目標を共有することで、目標達成に向けた意識向上に繋がった。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 利用者像が異なり新規受け入れには至らなかった。
- ii) 実習終了後アンケート結果について、支援姿勢や施設環境等概ね良好な結果であった。
- iii) 適切な情報提供等、透明性のある施設運営に取り組むことで、一定家族の安心感に繋がっていると考えられる。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 2019年度以降の加算取得の為、計画的受講を次年度も継続していく。
- ii) 特に固定費削減については次年度も継続して検討する。

4. 短期入所(ショートステイセンター ぶれす・ふれいす Be 短期入所)

(1) 平成29年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 必要に応じてサービス担当者会議等に参加し、関係機関との連携を図る。
- ii) 利用者満足度調査を実施し、サービス内容の振り返りをおこなう。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りチェックシートを導入し、支援の振り返りをおこなう。
- ii) 引き続き萩の杜と合同でリスクマネジメント活動を実施する。※ぶれす

iii) 内部研修を年6回開催し支援者としての基本姿勢を深めている。※ふれいす Be

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 毎月の合同会議を継続し、情報の共有や課題解決に向けての検討をおこなう。
- ii) 年3回の内部研修を継続し、ケース検討等を通じて支援力を高める。
- iii) ストレスチェックを実施し、産業医との連携を図る。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 緊急時の受け入れや満床時などの利用調整をおこない、利便性を高める。
- ii) サービスの質の向上を図り、選ばれる短期入所事業所を目指す。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 定期的に収支の確認をおこない、収支改善に向けた取り組みを検討する。

(2) 平成29年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 必要に応じてサービス担当者介護等に出席した。
- ii) 合同会議において利用者満足度調査票の内容検討を図った。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りチェックシートを両事業所とも実施した。
- ii) リスクマネジメント活動を通して事故予防等に取り組んだ。
- iii) 年6回のふれいす Be 内部研修に参加した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 毎月の合同会議を継続して開催した。
- ii) 合理的配慮や満足度向上をテーマに年3回の合同研修を計画通り実施した。
- iii) ストレスチェックを6月に実施した(対象:週30時間以上勤務の職員)。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 緊急時や満床時等、必要に応じて両事業所間で利用調整を図った。
- ii) 【ふれす】活動の選択等、個々のアセスメントに基づいた支援に取り組んだ
【ふれいす Be】ふれいす Be 生活介護との一体的運用により重症心身障害児者への継続したサービス提供と受け入れに取り組んだ。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 合同会議等において定期的に収支状況等を共有した。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 事業所間で利用者状況の共有が図ることができ支援の質の向上に繋がった。
- ii) 調査項目等の検討に留まり実施に至らなかった為、引き続き取り組む必要がある。

る。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りチェックシートの改定には至らなかった。
- ii) 安心安全な生活環境提供に向けて引き続き取り組む必要がある。
- iii) 支援者としての基本姿勢をより深める為、引き続き取り組む必要がある。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 利用者状況や運営状況等を共有して、各課題解決等に繋げることができた。
- ii) 職員育成は重点課題の為、次年度以降も継続して実施する。
- iii) 法人全体の動きとリンクして継続して実施する。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 同法人内事業所のメリットを活かした利用調整について今後も継続する。
- ii) 【ぶれす】個別支援の充実について一定の成果があった。

【ぷれいす Be】重症心身障害児者へのサービス提供や受け入れについて、前年度と同様の実績をあげることができた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 支援員確保が課題であり、利用率向上に向けた取り組みを実施できなかった。

5. ジョブサイトひむろ

(1) 平成 29 年度重要実施事項

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
 - i) ジョブサイトひむろ移転整備の準備を進めた。
 - ii) 工賃向上の取り組みを継続した。
 - iii) 健康予防プログラムを推進した。
 - iv) ご家族、関係機関とのパートナーシップの強化に努めた。
- ②人権を守る砦となる
 - i) ご利用者の表出コミュニケーション支援に着手した。
 - ii) 権利擁護虐待防止計画の推進と進捗管理を行った。
 - iii) 説明責任と合理的配慮の徹底に努めた。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 職種や職階に応じた役割期待とそれに応じた働き方の確立に努めた。
 - ii) 職員が共に学び成長できる仕組みを検討した。
 - iii) 非常勤職員の確保と定着に努めた。
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 地域の社会資源を有効活用した。
 - ii) 地域で実施されるイベントには積極的に参加した。
 - iii) 地域ニーズの把握と掘り起こしを行った。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 事業所内で収支の進捗確認を定期的に行った。

(3) 評価

①生涯に渡る地域での暮らしの実現

- ・ジョブサイトひむろ移転整備については、市街化調整区域での開発が困難なため、現在の場所での建て替えを含めた市街化地区での候補地探しを始めている。
- ・就労支援事業収入は、軽作業の受託増と自主製品の売り上げ増により、前年比 3.4%増の 920 万円となった。また、事業所全体でご利用者のスキルアップに努めたことで、9 名のご利用者が賞与と併せて月額 5,000 円以上の工賃支給となった。
- ・リハビリテーション加算の算定人数は前年と変わらずだが、ご家族、職員それぞれに対し勉強会を実施したことで、作業療法についての理解を深めることができた。
- ・真野先生の勉強会、作業療法の勉強会＋事例報告を開催した。ご家族からは現場支援員からの報告を継続して実施するよう要望があがった。

②人権を守る砦となる

- ・常勤職員 6 名が PECS のレベル 1 ワークショップを受講したが、現場での効果的な実践は次年度以降の課題である。
- ・祝日や土曜開所の際に、主菜やデザートのアレンジ給食を実施し、昼食場面での選択の機会を提供した。
- ・グループホームとの連携会議をご利用者 1 名に対し年 2 回実施し、それぞれの立場でご利用者の意思を確認した。
- ・権利擁護虐待防止計画に基づき、業務の振り返りチェックシート、内部研修を実施した。
- ・RM 委員会が主体となり、サポートブックの作成、定期的なリスクマネジメントに関する支援員会議を実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- ・事業所内の業務を常勤職員間でシェアし、業務の偏りを改善したが、全体の超過勤務の減少にはつながらなかった。
- ・工賃向上委員会で受注作業の事例検討、また RM 委員会でケース検討会議を開催し事業所内での情報共有を図った。
- ・人員配置基準は満たせていたものの、次年度の定員増を見越して、人材派遣の活用を始めた。
- ・嘱託、非常勤職員それぞれ 1 名ずつ平成 30 年度からの正職員登用につなげた。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

たかつき〇まるしえを始め、地域で行われるイベントには多数参加したが事業所からの積極的な発信には至らなかった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

事業所内の毎月の全体会議において、収支の進捗を確認したが、水光熱費の上昇が課題として残った。

6. グループホームみやた・とんだ

(1) 平成 29 年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 衣食住の環境改善を行う（移転の推進と環境改善）。

衣類の購入と劣化した衣類の処分を大幅に行なった。寝具等の買い替えも状況に応じて行なった。食事に関しては、写真等も使用したご本人への嗜好調査を基に今年度も工夫を高め、満足度の高いものを提供できるようにした。「美化の日」を基本的に毎月設定し、出勤している職員で普段行き届きにくい場所の清掃を行なった。

- ii) 個々や集団での余暇活動を継続する。

夏季に電動のかき氷器を使用してご自身でかき氷を作って食べてもらうことを試行した。

- iii) 居宅介護事業所の開設に向けた検討を開始する。

当初、行動援護や居宅介護も含めた事業所の開設を考えていたが、人的資源の不足している状態を鑑みて移動支援のみでの開設を目指す方向に決定した。

②人権を守る砦となる

- i) アセスメントに基づき、個別性と「意思」を十分に考慮した支援を行う。

アセスメントを更新した。「意思」に関しては研修を行なった。

- ii) 意思決定支援のシステムを構築する。

会議で意見を出し合った。

- iii) 障がい特性や個別性の把握のための情報交換を定期的に行い合理的配慮につなげる。

毎月の会議の中での情報交換でご利用者の共通理解や障がい特性理解に努めた。③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) S Vシステムを確立させる。

機会あるごとに OJT や簡単な相談も含めて、SV に近いものを行なった。

- ii) 法人内外での交流研修を推進する。

レジデンスなさはらへの交流研修を 28 年度末から計 3 名行なった。地域生活支援ネットワーク会議を通じて他法人の事業所を見たり意見交換したりして見識を広めた。

- iii) 内部、外部での研修を活かし、個々のレベルアップを図る。

外部研修の復命講習をすることで、研修内容の振り返りとともに理解を深めてもらう機会とした。例年ではあるが、食中毒や感染症予防など、知っておくべき研修には必ず一人は参加している。

④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 地域資源の活用を継続する。

近隣スーパーや公園、医療機関の活用を継続、また新規開拓を行なった。

ii) 状況に合わせて移転の進捗を管理、推進を行う。

移転の推進、決定を行なった。

iii) 必要に応じて地域住民の方への説明会等を実施する。

説明会開催の必要は無かったが、戸別訪問を行なった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 会議を通じてコスト意識をより高め、固定費の削減を行う。

会議時に固定費の話を行なった。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 衣食住の環境改善を行う（移転の推進と環境改善）。

衣類の入れ替えや寝具の変更はご利用者の笑顔も見られ、経済状況を考えながら今後も計画的に行なっていきたい。食事に関しても、調理の方の工夫で今まではなかなか見られないメニューでご利用者が笑顔で食事されている姿がよく見られた。特に好み焼きやレストラン風にワンプレートに盛り付けての食事提供、手作りの趣向をこらしたデザートなどが好評だった。

ii) 個々や集団での余暇活動を継続する。

夏季の行事的なものとして週末にかき氷をする際はご自身で好きなシロップをかけて食べておられ、満足そうな表情がうかがえた。また、手動では無く電動にすることで、力の弱い方でもスイッチ一つでかき氷を作ることができ、作る工程も含めて楽しまれていた。

iii) 居宅介護事業所の開設に向けた検討を開始する。

居宅介護、行動援護、移動支援に可能であれば重度訪問介護までの事業開始で検討をしていたが、実際に募集をしても人が集まらないことや共同生活援助の人員配置もぎりぎりのラインであることを考慮し、最低限の人員配置で事業開始が可能な移動支援のみでの事業開始と考えた。みやた移転後の状況も含めて考えると移転後あまり間を置かずに事業の開始ができるのが理想的である。

②人権を守る砦となる

i) アセスメントに基づき、個別性と「意思」を十分に考慮した支援を行う。

アセスメント記録は取り直したものの、日常的なアセスメントで職員の観察眼育成や日々の情報を蓄積することからご利用者の理解につなげていきたい。また、「意思」に関してはまだ入り口に立った段階で、今後も継続した研修や会議等での摺合せを行なっていきたい。

ii) 意思決定支援のシステムを構築する。

会議の中でご利用者の「意思」について発散する機会はあったものの、のステップには進めていない。会議の合理化や「意思」と「表出される言葉」の差も深めながら次年度も「意思」について考える機会を設けシステムとして機能させていきたい。

iii) 障がい特性や個別性の把握のための情報交換を定期的に行い合理的配慮につなげる。

会議の中で普段の様子の情報交換からその行動の背景にある障がい特性の説明や、支援する際にも特性を考えて行なっていくこと、強みを活かした支援を考えてきた。1年間を通して少しずつ道筋を立てて考えていく習慣が芽生えてきた。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) SVシステムを確立させる。

SVという形で行なったものは数回だったが、OJTや相談があった際はその都度応え、SV機能に近いものがあった。即応できるメリットはあったのだが、記録に残るものがなく、定期的な振り返りという意味で機能としては足りない部分があったので、次年度も継続して取り組んでいきたい。

ii) 法人内外での交流研修を推進する。

レジデンスなさはらへの交流研修はご利用者像が違うため、みやたでは取り組みにくいことも多かったようだが、いい刺激を受けたようだった。繰り返し行なうことでみやたでも取り組めることを吸収するよう今年度も継続したい。地域生活支援ネットワーク会議での他法人との交流も、違いを知ることが今後の財産になるため今後も継続予定である。つながりさんのコラム富田の見学会では色々な発見があった。

iii) 内部、外部での研修を活かし、個々のレベルアップを図る。

例年、外部でも内部でも取り組んでいる食中毒や感染症に関してはかなり理解が進んでいる印象を受けた。反面、障がい特性や強度行動障がいといった分野ではまだまだ理解が浅く、研修を継続する必要性を感じる。内部研修の講師を常勤のほとんどの方になって頂くことで、理解が深まった部分もあると感じる。外部で話をする機会があった職員もおり、資料作成から発表までの流れを経験してもらえたことは大きかった。

④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 地域資源の活用を継続する。

近隣資源の活用は今年度も継続、活用するご利用者も微増した。また、医療機関では継続してご本人に通院してもらうために近隣の整形外科を探し、ご自身で行かれる通院を継続している。

ii) 状況に合わせて移転の進捗を管理、推進を行う。

年度当初は昨年度の候補であった土地での建設を再開できないかと考えていたが、最終的に断念し、別候補での土地探しや具体的な打ち合わせを進めていっ

た。年度内で借地契約や建設に向けての契約と工事開始と順調に移転に向けて進んでいる。

iii) 必要に応じて地域住民の方への説明会等を実施する。

説明会はしないこととし、戸別訪問で施工業者の方とともに説明に回った。ほぼどのご家庭でも建設に対して好感触であった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 会議を通じてコスト意識をより高め、固定費の削減を行う。

毎回では無かったが会議時に固定費の話をする事で意識作りが進んでいき、職員間でも無駄な水光熱費の削減を行なおうとする土壤が形成されつつある。

7. レジデンスなさはら

(1) 平成 29 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) ご利用者が人生を楽しく、豊かに暮らせるよう、さらに余暇を充実する

ii) 知的障がいの高齢化について学習を行う

②人権を守る砦となる

i) 意思決定支援のシステムを構築する。特に、昨年度開催出来なかった意思決定会議をジョブサイトひむろ等と開催する

ii) 職員のアセスメント能力が向上することで、根拠に基づいた合理的配慮を展開する

iii) 表出コミュニケーションの研修機会を設定する

iv) 権利擁護・虐待防止の取り組みを継続する

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 外出時の費用負担や、生活記録の記号などを整備し、支援ガイドラインを作成する

ii) 法人内外での人材交流を実施し、アセスメント能力の向上、視野の拡大を行う

iii) 研修システムを研鑽し働く人の成長を支える

iv) 働きやすい勤務環境を構築し、ライフワークバランスを整える

v) ニーズベースとチャレンジの支援を継続する

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 地域の方々から、親しみやすい職員集団となる

ii) ご利用者の地域での当たり前の生活を支援する

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 利用率の安定とニーズベースの支援を創設する

ii) なさはら会議で収支報告を行い、固定費 3%削減を行う

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) ご利用者が人生を楽しく、豊かに暮らせるよう、さらに余暇を充実する
 - a. 平成 29 年度から 3 年間かけ、宿泊旅行を実施する。今年度は、特に 2 番館、3 番館の一部で実施した。
 - b. 前年度からの余暇支援は、継続的に取り組んだ
 - c. 家事活動の支援を開始した。
 - d. レジデンスなさはらの食事提供方法を、食品衛生に考慮しつつ、ニーズベ-ースの食事提供できるように工夫を重ねた。特に、土日のご飯を見直した。
- ii) 知的障がいの高齢化について学習を行う
 - a. 高齢化についての学習会を行う準備をした。
 - b. 知的障がい者の学習会を開催した。講師は、真野 Dr.。
 - c. 先進的な取り組みをしている事業所（高齢者の日中活動事業所、看取り支援ホーム等）の視察研修を実施した。

②人権を守る砦となる

- i) 意思決定支援のシステムを構築した。特に、昨年度開催出来なかった意思決定会議をジョブサイトひむろ等と開催できた。
 - a. 厚生労働省が作成した意思決定支援のガイドラインをレジデンスなさはらに落とし込み、それに沿って意思決定支援を進めいった。
 - b. ひむろと定期的に合同会議を行い、その会議に意思決定会議の要素を含めた。頻度は、1 人につき年 1～2 回。
- ii) 職員のアセスメント能力が向上することで、根拠に基づいた合理的配慮を展開する
 - a. モデルケースに対して、チームを作成し、短期間で PDCA サイクルをしていくシステム（ミニトレセミ）を実施した。モデルケースは、1 番館 1 名 2, 3 番館 1 名。
 - b. 課題分析表、評価キットの導入を行う。導入の際は、萩の杜 山根課長に講師依頼した。
- iii) 表出コミュニケーションの研修機会を設定する
 - a. P E C S 研修受講後、コミュニケーションについて内部研修を行った。
- iv) 権利擁護・虐待防止の取り組みを継続する
 - a. クレドに基づく振り返りチェックシート（グリーゾーンアンケートを含む）を実施した。
 - b. 権利擁護強化週間を作り、宣言文と共に、実施を行い権利擁護の習慣化を行った。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 外出時の費用負担や、生活記録の記号などを整備し、支援ガイドラインを作成した。
 - a. 外出時の費用負担や、生活記録表の表記方法などレジデンスなさはら内で統一できるものは統一し支援ガイドラインを作成した。

- b. 上記のガイドラインを使い、流動的人員配置、人材交流を進めた。
- ii) 法人内外での人材交流を実施し、アセスメント能力の向上、視野の拡大を行う
 - a. 「アセスメント」、「構造化のアイデア発想」に重視した人材交流を行った。
具体的には、萩の杜との人材交流、部署間交流研修、他法人見学を活用して実施した。
- iii) 研修システムを研鑽し働く人の成長を支える
 - a. 昨年同様、15分研修、週刊クイズを継続した。
 - b. 昨年同様、個別研修計画、交流研修を継続した。
 - c. 通信講座、週末講座参加などで自己研鑽を行っている職員への勤務調整をこまめに行った。
- iv) 働きやすい勤務環境を構築し、ライフワークバランスを整える
 - a. 年間勤務表を作成し、勤務の見通しをたてた。
 - b. 自己研鑽（通信講座等）に必要な勤務希望は、可能な範囲で調整した。
 - c. 嘱託職員の3連休キャンペーンを継続した。
 - d. 育児、介護の状況に応じて総務部と連携し、ライフワークバランスを考える。特に、業務量に関しては、当事者と定期的に面談をし、調整した。
- v) ニーズベースとチャレンジの支援を継続する
 - a. 本人のニーズ、意思を確認した。
 - b. 昨年行ったミーティングを、今年度は、チャットセッション（井戸端会議）、ミーティング、ケース会議の3つに整理し、効率的かつ合理的なミーティングシステムにした。
 - c. モニタリング用紙を改訂し、ニーズが達成されているか確認を行った。
 - d. 計画と振り返りを行い、「チャレンジの支援」から「シンプルかつ継続性のある支援」に前進させた。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 地域の方々から、親しみやすい職員集団となる
 - a. なさはら3か条を、地域支援を意識したものに改訂作業を行った。
 - b. なさはらの物品の買い物は、地産地消、地域資源を活用した。
- ii) ご利用者の地域での当たり前の生活を支援する
 - a. 「代理」での支援を減らし、可能な範囲でご本人参加の支援を進めた。
 - b. ガイドヘルパーを利用、調整、コーディネートすることで、包括的に地域で支援を受けられるようにし、本人にとって必要な支援を展開した。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 利用率の安定とニーズベースの支援を創設する
 - a. 希望者を募り、送迎サービスの検討を続けた。
 - b. 送迎サービスを維持するために、利用者負担を検討した。

- ii) なさはら会議で収支報告を行い、固定費 3%削減を行う
 - a. レジデンス会議にて、予算の進捗報告を行った。
 - b. ジャパン、コーナン、アスクル、フォレスト、amazon の 5 社で、価格調査を行い、品質を維持したまま、日用品費を下げた。
 - c. インフラ整備を行い、予算削減できるところは、削減した。
 - d. 支援ガイドライン作成時にスペシャル余暇、宿泊旅行時、通院支援時（駐車場代等）の自己負担額を整理し、完成したガイドラインに沿って、実費負担をしていただいた。
 - e. 日用品の使用ベースラインを作成し、過度に日用品を使用する人へは、構造化の支援を行った上で、個人負担による個別物品の使用を求めた。

(3) 平成 29 年度の取り組み評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) ご利用者が人生を楽しく、豊かに暮らせるよう、さらに余暇を充実する
 - ・平成 29 年度から実施を始めた宿泊旅行は、上半期 4 回下半期 1 回実施。行き先は、天神の湯 1 回、白浜 3 回、名古屋 1 回。参加者は 1 番館 3 名、2 番館 3 名、3 番館 2 名実施。
 - ・スペシャル余暇は、前期は 8 割実施。後期は 6 割実施。特に 2 番館は、年末は鍋パーティーを実施するなど外出以外の「スペシャル」に取り組み、ご利用者の表情も良かった。
 - ・余暇活動の一部として、家事活動も取り組んでいる。平成 29 年度は歯みがき粉を自分でつける等小さなことから実施している。
 - ・食事については、朝は選択メニューを 2 番館で実施。また、冷凍食品を活用し、ご本人が食べたい物をリアルタイムで提供できるように工夫をした。全体的な喫食率は挙がっている。
- ii) 知的障がいの高齢化について学習を行う
 - ・ケアマネジャーの資格を持つ嘱託職員に高齢化の研修に行ってもらい、講師として研修準備を進めた。研修は、平成 30 年度に実施予定。また、3 月の巡回相談時に真野先生から知的障がいの高齢化について研修をしていただいた。
 - ・先進施設の視察として、9 月に（社福）伊達コスモス 21 へ平野、伊名岡で視察へ行く。高齢化した時の必要な設備、支援員の姿勢を学んだ。

②人権を守る砦となる

- i) 意思決定支援のシステムを構築する。特に、昨年度開催出来なかった意思決定会議をジョブサイトひむろ等と開催する
 - ・連携会議に意思決定支援ガイドライン、SDM の要素を取り入れ、実施。意思決定支援に基いた個別支援計画作成のためのワークシートを作成。来年度から実用予定。

- ii) 職員のアセスメント能力が向上することで、根拠に基づいた合理的配慮を展開する
 - ・上半期は、F 本様、M 様でミニトレセミを実施するも成果段階まで至らず。
 - ・アセスメント向上のため、評価キットの導入を行う。5 月に萩の杜山根課長より評価キット研修を受講。その後、嘱託職員を主体に 3 名のご利用者の評価を取る。また、アセスメントから構造化のアイデアがでやすいようにワークシートを作成。1 名で支援開始。
- iii) 表出コミュニケーションの研修機会を設定する
 - ・7 月に 1 名 PECS 研修に参加。10 月 31 日に内部研修を実施。実用までは至っていない。
- iv) 権利擁護・虐待防止の取り組みを継続する
 - ・7 月、1 月にクレドを含めた振り返りチェックシートを実施。クレドの周知に努め、一定の浸透があったと評価する。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 外出時の費用負担や、生活記録の記号などを整備し、支援ガイドラインを作成する
 - ・一部ガイドラインを作成。周知は平成 30 年度の予定。
- ii) 法人内外での人材交流を実施し、アセスメント能力の向上、視野の拡大を行う
 - ・交流研修は、3 事業所に行く。事業所先は、ふれいす Be、萩の杜、GH みやた。萩の杜へは全 4 回、のべ 17 名実施。ふれいす Be は、全 1 回、のべ 1 名。GH みやたへは全 2 回、のべ 6 名実施。
- iii) 研修システムを研鑽し働く人の成長を支える
 - ・研修は、個別研修計画は実施した。また、15 分研修も昨年度に引き続き実施している。平成 28 年度から開始した、週刊クイズも、年間通して実施。1 月に週刊クイズから発題する内部研修を行った。内部研修を行うことで、週刊クイズの注目度が高まった。
- iv) 働きやすい勤務環境を構築し、ライフワークバランスを整える
 - ・GW とお盆、お盆と正月の間で嘱託職員は 3 連休を取得していただき、長期休暇を取得いただいた。また、1 名のライフワークバランス取得者へは、前期は 2 か月に 1 回面談を行い、後期は 1 回実施。働きやすい環境を整えたが、まだ、発展途中である。
- v) ニーズベースとチャレンジの支援を継続する
 - ・各利用者、個別支援計画として実施。また、意思は、ひむろとの連携会議でも確認した。また、外出支援は、公用車だけでなく、将来的にガイドヘルパーとでかけることができるように交通機関での外出機会を設定し、実施した。それに伴い、外出への構造化支援が高まった。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 地域の方々から、親しみやすい職員集団となる

- ・なさはら 3 か条を、地域支援を意識したものに改訂し、作成途中である。
また、引き続き、なさはらの物品の買い物は、地産地消、地域資源を活用した。

ii) ご利用者の地域での当たり前の生活を支援する

- ・1 部ご利用者にガイドで本人が必要としている日用品を購入していただく等を実施。ガイドの調整を行い、H28 年度と比べ、ご本人のニーズに近い外出に近づいた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 利用率の安定とニーズベースの支援を創設する

- ・現在、1 名の利用者にお試し実施したが、ご本人の意思により、タクシーでの送迎に変わった。

ii) なさはら会議で収支報告を行い、固定費 3%削減を行う

- ・会議で収支を報告し、予算を意識していただいた。また、日用品は、価格調査を行い、ラップ、洗剤を詰め替えに変更し経費を削減している。またさらに、ご利用者の日用品の実費負担のガイドラインは作成し、ガイドラインよりオーバーしている方へトイレットペーパー、タブレット代の個人負担をおねがいした。

8. ふれいす B e 通所部門

(1) 平成 29 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 支援員による医療的ケア実施の仕組みをつくる。
- ii) より高度な医療的ケアへの対応をすすめる。
- iii) 医療機関、他事業所等との連携を深める。
- iv) 工賃規程を生活介護・就労 B 型で切り分け、工賃の見直しをおこなう。

②人権を守る砦となる

- i) 表出コミュニケーションに関する内部研修を実施する。
- ii) 法人 S V、外部研修を積極的に活用する。
- iii) 業務の振り返りチェックシートの実施と振り返りをおこなう。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 若手職員をはじめに事業所内でのジョブローテーションを実施する。
- ii) ストレスチェックを実施する。
- iii) 産業医との連携を図り、職場環境の改善をおこなう。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) カフェを活用した地域向けのイベントや講座の検討をすすめる。
- ii) 施設外就労、生産活動の拡大を通じて地域との関係作りをすすめる。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) デマンド監視システムを導入し、固定費削減に取り組む。
- ii) 電力自由化に伴う、電気・ガスの契約見直しをすすめる。

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 支援員 2 名が実地研修、1 名が基本研修を受講し、それぞれ修了した。
- ii) 受け入れにあたってのマニュアル作りに取り組んだ。
- iii) 高槻市内で喀痰吸引研修実施委員会に管理者が委員として参加した。
- iv) 8 月から事業ごとに工賃規程を改訂し、ご利用者・保護者への説明会をおこなった。

②人権を守る砦となる

- i) 中山清司 S V を講師に、コミュニケーションをテーマに内部研修を実施した。
- ii) 中山清司 S V には毎月訪問いただき、講義やケース相談等をお願いした。また個々の職員のニーズや課題に応じて外部研修の受講をおこなった。
- iii) 7 月と 3 月の 2 回、振り返りチェックをおこなった。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 新卒採用の支援員 2 名が約 1 ヶ月間、事業所内の様々なチームでの現場実習をおこなった。
- ii) 6 月にストレスチェックを実施した。
- iii) 産業医との連携は具体的にできなかった。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 9 月と 3 月にカフェコンサートを実施した。また、近隣自治会への貸し出しや他団体での活動にも使用いただいた。
- ii) 6 月から新たに施設外就労先を 1 カ所開拓した。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) デマンド監視システムを導入し、目標値の設定をおこなった。
- ii) 先行して契約先を変更しようと考えていたが、法人全体での取り組みとしてすすめた。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 実地研修を修了した支援員 2 名については大阪府への登録も済み、特定のご利用者の特定の医療的ケア（鼻腔ならびに口腔内の喀痰吸引をおこなうことができるようになった。
- ii) 人工呼吸器が必要なご利用者の受け入れを念頭に進めてきたが、具体的な進展までには至らなかった。
- iii) 委員会を通じて、各事業所での状況や課題等の共有や情報交換をおこなった。
- iv) 工賃規程を改訂することで、就労 B 型のご利用者については月平均 2,000 円程度の増額を支払えることになった。また開所以来初めて一時金を支払うことができた。

②人権を守る砦となる

- i) コミュニケーションに関する講義を開催し、モデル利用者を選定しての評価等もおこなった。
- ii) 毎月の訪問時に上記の講義やその時々ケース相談等をおこなった。また家族会向けの勉強会も開催した。
- iii) 振り返りチェック実施前に内部研修をおこない、内容の説明や取り組みの意味等を説明した。また集約した意見のフィードバックをおこなった。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 新卒 2 名については 4 月中は担当チームを固定せず、様々なチームでの業務を理解する機会とした。
- ii) 6 月にストレスチェックを実施した。
- iii) ストレスチェック前に産業医との打ち合わせをおこなったが、ストレスチェックの匿名性が高いため、具体的な連携をおこなうまでには至らなかった。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 例年に続き、年 2 回のカフェコンサートを実施した。また地域での子ども会での会合やあんだんてのセミナー、保険セミナーや珈琲教室など、単発ではあるが催し物をおこなった。
- ii) 6 月から新たに施設外就労先を 1 カ所開拓した。またクリーニング作業ではスポットではあるが大口の仕事を定期的に受注した。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 夏季と冬季のデマンド目標値を設定し、電気見える化をおこない、電力削減に取り組んだ。
- ii) 法人全体としての取り組みとして運営会議で検討をおこなった。

9. あんだんて

(1) 平成 29 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 地域と繋がっていくための社会資源の開発をおこなう。
- ii) ボランティアワークやインフォーマルサービス等の開拓を進める。

②人権を守る砦となる

- i) ご利用者の意思や権利が尊重されるよう支援を進める。
- ii) 成年後見人等との連携を深め、健全な制度利用をサポートしていく。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) ストレスチェックを実施する。
- ii) 産業医との連携を図り、職場環境の改善をおこなう。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 保健所等と連携し、心理教育の導入について検討をおこなう。
- ii) 「当事者」や「家族」等の支援グループの立ち上げを検討する。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 収支と業務のバランスを意識しながら、サービス等利用計画の目標件数を具体化する。

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) wish と定期的に現場会議を開催した。
- ii) 高槻市障害者就業・生活支援センターと連携し当事者の食事会を毎月開催した。

②人権を守る砦となる

- i) サービス等利用計画（計画相談支援）に加え、病院から地域移行（地域相談支援）を 1 件実施した。
- ii) ロングライフサポートの一環として「親・きょうだい向けのお金に関するセミナー」を開催した。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 6 月にストレスチェックを実施した。
- ii) 産業医との連携は具体的にできなかった。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 高槻保健所が実施する家族心理教室の運営支援に参加した。
- ii) 具体的な検討にまでは至らなかった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) サービス等利用契約については年度末で 186 件の契約件数となっている。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) wish との定期的な現場会議を実施し、円滑な支援のために情報共有や連携を深めた。
- ii) 当事者の余暇活動支援として「エンジョイサークル」という名前で毎月 1 回、食事会を開催し、当事者間の交流をサポートした。

②人権を守る砦となる

- i) 精神科病院からの地域移行を 1 件対応した。退院後は一人暮らしをスタートし、継続してサポートを続けている。
- ii) ゆうちょ財団の金融教育事業を活用しセミナーを開催した。49 名が参加し、アンケートでは好意的な評価が多かった。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

- i) 6 月にストレスチェックを実施した。
- ii) ストレスチェック前に産業医との打ち合わせをおこなったが、ストレスチェックの匿名性が高いため、具体的な連携をおこなうまでには至らなかった。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 保健所と連携し、家族心理教室の運営支援に参加することでノウハウを学んだ。
- ii) 具体的な検討にまでは至らなかった。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 相談支援専門員 1 名が下半期より産休育休に入ったこともあり、9 月以降は新規での受け入れを絞って対応した。

10. 生産活動支援部

(1) 平成 29 年度重要実施事項

《LaLa-chocolat TAKATSUKI》

- ① 生涯にわたる地域での暮らしの実現。
- ② 人権を守る砦となる。
- ③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
- ④ LaLa-chocolat 店舗について、地域に溶け込む運営を目指す。
- ⑤ LaLa-chocolat TAKATSUKI の経営の安定を図る。

《A 型事業推進室》

- ① 生涯にわたる地域での暮らしの実現。
- ② 人権を守る砦となる。
- ③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
- ④ やさしさあふれる地域を耕す。
- ⑤ 健全でタフな財政基盤の構築

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

《LaLa-chocolat TAKATSUKI》

- ① 生涯にわたる地域での暮らしの実現。
 - ・ 法人内就労継続支援 B 型事業所全体で工賃規程の考え方を整理したが、今後
もより良くなるよう検討を進めていく。
 - ・ また平成 28 年度平均 23,424 円だった工賃が、平成 29 年度の実績平均 26,186
円となった。
- ② 人権を守る砦となる。
 - ・ 利用者個々のニーズや目標を支援計画に反映させ、毎月 2 回の個別面談で着
実な支援計画の進捗管理等を行なった。
- ③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
 - ・ 内部研修として、DVD 教材「繁盛店の法則」を視聴しての研修を行なった。
 - ・ 年度初めに職員個々の研修計画作成のための面談を行ない、各職員の研修計
画を立案した。
- ④ LaLa-chocolat 店舗について、地域に溶け込む運営を目指す。
 - ・ 12 月に久遠チョコレートから完全に独立し、自社商品を充実させたことで、
一日の最高売上げを 2 月に更新するなど、固定のお客様確保が出来た。
- ⑤ LaLa-chocolat TAKATSUKI の経営の安定を図る。

- ・ 出張所での生産活動充実を目指し新規開拓を行ない、2ヵ所増加させることが出来た。
- ・ 定員充足率は平均 87%であったため、充足率 100%を実現することは出来なかった。

《A 型事業推進室》

- ① 生涯にわたる地域での暮らしの実現。
 - ・ 就労継続支援 A 型事業の立ち上げに向けて、上半期は取り組んでいたが、平成 29 年 11 月より、まずは就労 B 型事業の磨き上げを行なうこととなった。
- ② 人権を守る砦となる。
 - ・ A 型事業推進室の久保支援員が中心となり、株式会社 Dreams での施設外就労を行なう利用者個々のニーズを、ジェイブランチよどおよびふれいす Be のスタッフと協働し、支援計画に反映させることができた。
- ③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
 - ・ 久保支援員が孤立しないよう、管理者との定期的な面談を実施した。
- ④ やさしさあふれる地域を耕す。
 - ・ 法人内外の就労系事業所との積極的な連携を行ない、たかつき・しまもと就労支援ネットワークでの情報交換を密に行なった。
- ⑤ 健全でタフな財政基盤の構築。
 - ・ 株式会社 Dreams での施設外就労の利用者を増やすことを目指したが、ポップコーン人気の落ち着きもあり、実現することは出来なかった。

(3) 評価

《LaLa-chocolat TAKATSUKI》

- ・ 高工賃を目指す事業所として、平成 28 年度平均 23,424 円（全ご利用者週 5 換算）の工賃が、平成 29 年度平均 26,186 円（全ご利用者週 5 換算）で、110% 増となった。ただ平成 29 年度目標であった 120% 増には届かなかったため、来年度も引き続き、工賃向上を目指していく。
- ・ 繁忙期である平成 30 年 1 月～3 月の店舗売上げは、3 ヶ月連続で昨年度の月間売り上げを更新するなど、営業開始から 3 年目に入り、地域のお客様に、LaLa-chocolat を選んでご来店いただけることも増えてきた。今後も、地域のお客様にとって、「高槻には LaLa-chocolat がある。」と思っていただけるような店舗展開を目指していきたい。
- ・ 今年度、ご利用者の高齢化の課題も出てきており、高工賃を目指す事業所で一生懸命働き続けるニーズから、ゆったりと働くニーズへの移行等にも配慮する必要が生じてきた。そのため来年度は、ご利用者お一人お一人の生活全般のニーズも踏まえ、スムーズな事業所間移行も行えるような取り組みも進めていきたい。
- ・ 繁忙期における職員の業務過多は大きな課題の 1 つであり、今年度も解決させることが出来なかった。今年度は久遠チョコレートからの独立などもあり、

繁忙期に入るまでに商品ストックができなかったことも要因の一つではあるが、来年度も継続してこの課題解決を図れるよう、閑散期に計画的に取り組んでいきたい。

《A型事業推進室》

- ・ ポップコーンパパを運営する株式会社 Dreams との A 型事業立ち上げを目標に 2 年間取り組んできたが、ポップコーンブームが全国的に落ち着き、新規出店が難しい状況となったこともあり、今年度で A 型事業推進室は終了となる。
- ・ 今後は、法人全体の就労継続支援 B 型事業での高工賃を目指し、B 型事業の磨き上げを行なっていく。

1 1. ジョブサイトよど・ジェイブランチよど

(1) 平成 29 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

【ジョブサイトよど】

- i) コロケの多様な販売方法を検討する
- ii) コロケにまつわる様々な仕事にすべてのご利用者が関わるができる仕事づくりと環境調整を行う
- iii) グループホーム開設に向けた準備を行う

【ジェイ・ブランチよど】

- i) ご利用者の働く場作りを行う
- ii) 地域で働く場作りを行う
- iii) グループホーム開設に向けた準備を行う

②人権を守る砦となる

- i) ご利用者の意思を反映した個別支援計画の改訂をする
- ii) 表出コミュニケーション支援（P E C S 等）の研修を進める
- iii) リスクマネジメント委員会の更なる充実を図る

IV) 法人の権利擁護・虐待防止のクレドに基づく業務の振り返りを実施する

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 職員満足度調査の実施とフィードバックをする
- ii) 法人内の事業所間交流を継続して実施する
- iii) 外部研修への積極的な参加を推奨する

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 地域自治会との交流や会合へ参加する
- ii) 地域の方々に来て頂けるイベントを再開するための準備を行う
- iii) グループホーム開設のために地域の方に理解を得られるように働きかける

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 利用者確保のための定期的な施設見学会の開催を継続する

- ii) よど運営会議にて収支や定員充足率について職員全体で共有する
- iii) グループ毎での経費の管理を実施する

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現（ジョブサイトよど）

- i) コロッケ弁当を作成し、月に 2 回、1 日に 25 個のお弁当を大阪府庁で販売した。
売上向上のため、フライヤーを購入しイベントの際には現地で揚げて販売を行った。
- ii) 厨房のコロッケ製造に携わっているご利用者は 10 名と増やすことはできなかった
が、1 名は作業時間が増えた。各ご利用者が自立して作業できるように作業環境を整えた。また、構造化を行うことでご利用者の作業の幅が広がった。

iii) グループホーム開設に向けた準備を行う

始めから検討していた十三東 3 丁目の土地は工事車両が入れないなどの関係で他の土地探しを行うこととなった。なのでジョブサイトよどの近隣の土地探しに奔走したが、見つけても断られたりすることも多く未だ探し続けている状態である。

中商さんと協力してグループホームの建設のために積極的に動いて行きたい。

①生涯にわたる地域での暮らしの実現（ジェイ・ブランチよど）

- i) ジェイ・ブランチよど 1 階をカフェに改装し、ご利用者様の働く場をつくる計画であったが、新規事業検討委員会にて検討を重ねた結果、自主製品の製造と販売へ舵を切ることになった。(1 階で活動されている方々の居場所を確保するため)
平成 31 年度より和紙雑貨の製造と販売を行なうことを目指し、現在は余暇活動の一環として、和紙を使った創作活動を実施している。
なお、十三にお住まいの和紙人形作家嶋操先生にご指導とご協力を頂いている。

ii) 地域で働く場を広げる

年度中に施設外就労先を 2 拠点開拓した。ひとつは昨年 6 月より施設近くの鍼灸整骨院内の清掃作業で毎週火曜日に 2 名体制でスタートした。参加されている利用者の方もモチベーションも高くやる気を持って作業されている。

もうひとつは(株)フルカウントより委託を受けてクリニックへのお菓子、日用品の出張販売業務を本年 1 月より毎週木曜日に 5 名体制でスタートした。販売は 2 名 1 チームとしてローテーションで仕事をしている。今後は参加出来る利用者を更に増やして働く場を広げていく予定である。

iii) グループホームに向けた準備を行う

上記ジョブサイトよどと同様

②人権を守る砦となる

- i) 個別支援計画書式を「長期目標あり・なし」と「ご本人頑張る欄あり・なし」の 4 種類から選べるようにし、ご利用者それぞれに合う書式で作成した。
- ii) PECS 研修に参加し、ジョブサイトよどの内部研修でアウトプットする機会を設けた。

PECS の取り組みを始めたフロアにおいては、フロア会議等で研修や支援方法の共

有を行なっている。しかし、職員の知識やスキルが不十分なので、来年度継続してワークショップへ参加等で質を上げていく必要がある。

- iii) 月 1 回、よど運営会議内でヒヤリハットと事故報告書の件数と概要を共有し、検討の必要があるものに関しては、会議参加者で対応検討した。
- iv) 法人の人権擁護・虐待防止のクレドに基づく業務の振り返りを実施する（奥平）
7 月と 3 月に実施し、上長よりのコメントを添えて返却した。クレドについては、その内容や意味についての質問も多く、今後も引き続き丁寧な説明と浸透をはかっていく必要がある。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人の運営会議において職員満足度調査についての取り組みが進めて行けなかった。
- ii) ジョブサイトよどとジェイ・ブランチよどの正職員は全員年度内に他事業所に 1 日間実習に行った。他事業所を見てくことで、日頃の自分のいる事業所での参考になったり、今いる事業所の良い点を感じる事も出来たようだ。
- iii) 1 年目の職員に関しては淀川区内の事業所連絡会の仕組みを使い、他法人の事業へ実習に 1 日参加した。他の研修にも積極的に研修に出た。施設長より良さそうな研修に関しては職印に積極的に案内をし参加してもらった。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 十三地域活動協議会に月 1 回参加をし、啓発活動や法人、事業所を知ってもらうために機関誌やよど新聞などを配布した。地域主催のイベントにはコロッケ販売で参加し、準備や片づけなども積極的に行った。十三地域以外の淀川区の南ブロックの協議会にも足を運び積極的に参加した。
- ii) 地域の方々に来て頂けるイベントを再開するための準備を行う
委員会を年に数回行い、平成 30 年度によどまつりを復活させるところまで決定した。
- iii) グループホームに向けて地域活動協議会に参加は続けていたものの、いざ話になるとグループホームが建設されることに不安な不動産会社や地域の方の反対を受けたこともあった。今後も理解を得られるように活動していきたい。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 定期的に施設見学会を行った。ジェイ・ブランチよどでは合計 6 名の利用に結びついた。ジョブサイトよども契約に結び付いているが、利用頻度やじかんは短い方が多く、在宅や他の事業所での失敗された方の受け入れを多くした。
- ii) 毎月のよど運営会議において正職員と確認を行った。収支に関しても報告し、具体的に何が予算よりかなりオーバーしているかなどを知れせて行った。
- iii) グループ毎に日用品費や教養娯楽費を割り当てる事でそれぞれが節約して使用するようになった。毎月のそれらの費用に関しては事務から報告をしたので把握もしやすかったと思われる。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

【ジョブサイトよど】

- i) コロケ弁当などの販売ができた。
- ii) 環境整理をさらに進めたことをご利用者の自立度が上がった。
- iii) 土地探しに奔走してるがグループ用地を見つけるところまで行けていない。

【ジェイ・ブランチよど】

- i) 委員会を開催し、カフェ以外の事で何ができるかの検討を行い、和紙小物の自主製品を考え余暇活動に入れ込み試作を試みている。
- ii) 施設外就労先が2か所新たに広がった。(整骨院の清掃と訪問販売業務)
- iii) よどと同様である。

②人権を守る砦となる

- i) 改訂を行いご本人の意思を反映できる支援計画のフォーマットも作成しパターンの支援計画書ができた。
- ii) PECS の研修に3人が参加し、振返り研修をそれぞれの事業所で行った。
- iii) リスクマネジメント委員会をよど運営会議内に設けその中でひやりはつとや事故報告書から抜粋されたものを検討した。
- iv) クレドの基づく振り返りを年2回実施した。クレドの内容の意味が分からない職員のために法人の権利擁護・虐待防止委員会に提案した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 職員の満足度調査は出来ていない。毎年の課題である。法人運営委員会での動きがない。
- ii) 事業所間交流は積極的に行い、正職は全員参加した。
- iii) 外部研修にも積極的に参加した。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 十三地域活動協議会に月1回定例で参加する。それ以外にも地域でのイベントには準備から後片付けまで参加した。さらに大きな淀川区南部の情報交換会にも参加した。
- ii) イベント委員会にて30年度に祭りを復活させるところまで決定した。
- iii) 活動協議会には出ているものの実際の土地が決まらずグループホーム周辺の方への啓発活動はできていが、自閉症継発デーの際に十三西口の見返りトミー君に興味を説明し銅像を青くさせてこらえるように喜八洲さんをお願いに行き当日啓発活動を行った。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 施設見学会から利用に繋がったケースが多かった。ブランチは6名の利用に繋がった。
- ii) 収支や充足率は毎月共有した。
- iii) グループ毎で経費の管理をすることで職員の意識が変わった。

12. ジョブジョイントおおさか・ジョブジョイントおおさかたかつきランチ

(1) 平成 29 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- (i) 多様な利用者ニーズに応じた就労準備プログラムの更なる充実
- (ii) ワークサンプルの作成目標の達成
- (iii) 就労支援（実績）の数値目標の達成
- (iv) 雇用の質と職場定着の質の追求
- (v) 働くチカラ PROJECT の更なる深化

②人権を守る砦となる

- (i) 権利擁護・虐待防止に関する取り組みの定期実施
- (ii) 人権をメインに考えた JJ おおさか独自の行動指針の検討

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- (i) 全スタッフ対象にした内部研修の定期的な実施
- (ii) 他事業所や企業等への視察研修の充実
- (iii) 自主的で積極的な外部研修参加の推奨

④やさしさあふれる地域を耕す

- (i) 就労先企業を対象にした意見交換会の定期的な開催
- (ii) JJ おおさか主催の「就労支援勉強会」の開催（年 1 回）
- (iii) 特定の大学 2 校へのコンサルテーション（SV）の実施

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- (i) 財務状況の定期的な共有
- (ii) 外部でのコンサルテーションや研修講師等による収入増を目指す

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) アセスメントパックを試行実施した。

また、リアルな場で効果的に職業訓練ができるよう、企業内での職業訓練を 4 箇所を実施でき、それぞれの企業には週 1 回の頻度で企業内訓練を実施した。

ii) 年々数を増やしていきたくワークサンプルについては、29 年度も数を増やしつつも内容やねらいの整理に向けて進めた。

iii) 就職者 18 名、実習件数 92 件（延べ）であった。

iv) 就職前のジョブマッチングを会議等で話し合い、就労定着の質の向上を目指した。

v) 大学生プログラム「働くチカラ PROJECT」参加学生等の実績としては、就活のススメ 32 名、就活のハジメ 27 名、インターンシップ参加学生 22 名、受入企業 20 社であった。

②人権を守る砦となる

i) 業務の振り返りチェックシート等を定期的に活用し、振り返りを行った。

ii) JJ おおさかオリジナルの行動指針策定に向けて 3 回の内部研修を実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 行動指針の内部研修実施に加え、中山さんの講義、スタッフの研修報告、ジョブコーチの支援技術（システマティック・インストラクション）のロールプレイ等を実施した。
- ii) 視察研修として、PASSO（放デイ）、エンカレッジ（就労移行）、GS ユアサ（特例子会社）を企画実施し、パートスタッフも交えて視察させていただいた。
- iii) 全スタッフの研修参加を推奨し、無料有料問わず学ぶ機会を提供した。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 就職先企業の担当者の方を対象に意見交換会を3回実施した。
- ii) 就労支援勉強会を実施する予定であったが、予定日程が大規模研修会と重なってしまい、実施には至らなかった。
- iii) 大阪学院大学、大阪保健医療大学へ月1回程度のコンサルテーションを行なった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 主任職員を中心に不定期ではあるが収支状況を共有した。
- ii) 上記の大学2校のコンサルに加え、外部講師、エルムおおさかのコンサル協力、企業へのコンサル等、兼務できる範囲で収入アップを目指した。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- ・ アセスメントパックは試行実施ができたが、下半期の本実施には至らなかった。次年度において本実施を実現し、事業所全体でアセスメントパックの取り組みを定着化していきたい。
- ・ ワークサンプルの作成と内容・ねらい等の整理は一定の成果があった。今後も利用者の方の多様なタイプに対して柔軟に実施できるワークサンプルとなるようブラッシュアップを続けていきたい。
- ・ 就職者は目標の21名に届かず18名ではあったが、4月に就職予定の方も複数人いることを考えると、概ね達成できたと評価できる。実習についても1人の利用者の方に対して3～5社の実習を提供できており、実習件数92件も評価に値する。
- ・ ジョブマッチングや定着支援の質については、定量として評価しづらいができるだけスタッフ間で話し合う場を作り、多面的に議論を進めることができた。今後も引き続き取り組んでいきたい。
- ・ 働くチカラ PROJECT は、例年通り多くの学生さんが参加され、各プログラム内容も充実していくことができた。

②人権を守る砦となる

- ・ 行動指針の策定に向けて、内部研修を通して3回の話し合いを全スタッフで取り組んできた。ただ、テーマが大きくパートスタッフにとって難しいないよであったこともあり、3回でまとまりきらなかった。30年度の上半期に内容を確認

定させ、全スタッフへの浸透にも取り組んでいきたい。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- ・ 内部研修や中山さんの講義等、所内で様々な研修が実施できたことはスタッフにとってもよかったと言える
- ・ 正職員においては、管理者が月 1～2 回の 1on1（個別面談）を実施し、ケースワークや業務の進め方等についてじっくり話を聞く機会をつくった。また、1on1 で話題となったことについては、正職員を対象にした星明ゼミで勉強会を開催し、1on1 と研修の連動が少しでも図れるよう取り組めたことは評価でき、職員の反応もまずまずであった。
- ・ 視察研修については、全スタッフからアンケートを実施し、希望を聞いた中で PASSO（放デイ）、エンカレッジ（就労移行）、GS ユアサ（特例子会社）の 3 つの視察研修を企画。主任が中心となって企画・調整し、参加したスタッフの反応もよかった。

④やさしさあふれる地域を耕す

- ・ 28 年度に試行実施した就職先企業の担当者を対象にした意見交換会を 29 年度は 3 回実施。内容についても毎回スタッフで議論し、企業の方の率直なお悩みを企業同士で意見交換してもらい、企業同士のつながりに加え、スタッフにとっても学ぶことの多い場となっている。今後も年 3 回程度の継続実施を目指していきたい。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- ・ コンサルテーションに加え、研修講師等の業務で収入アップを目指すことができた。担当者は主に管理者ではあったため、主任や正職員等にも担ってもらえるよう取り組んでいきたい。
- ・ 収支や財務の状況については、不定期ではあったが主任会議で共有を進めてきたが、主任育成のため定期的な共有と議論の場もつくっていききたい。また、現場の正職員においては星明ゼミで報酬改定の内容を勉強したが、主任に限らず正職員への収支・財務に対する勉強の機会は増やしていきたい。

1 3. アクトおおさか

（1）平成 29 年度重要実施事項

- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
- ②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
- ③生涯にわたる継続したサポートの実現
- ④職員の人材育成

（2）平成 29 年度の取り組み内容

- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
 - i) 発達障がい者地域支援マネージャー事業の実施

- ii) 公開講座の実施による啓発
 - iii) 家族支援として
 - a. 大阪府発達障害団体ネットワークに参画
 - b. 「大阪府ペアレント・サポート事業」として、
 - ア) ペアレント・メンターの活動にかかる調整
 - イ) ペアレント・メンター養成研修、交流会、公開講座の実施
 - ウ) ペアレント・メンター事業運営委員会の実施
 - エ) ペアレント・トレーニングインストラクター養成研修の実施
 - iv) 支援機関ネットワーク（地域支援を考える会）の継続実施による連携維持
 - v) 直接相談（ケース）を通しての地域支援
- ②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
- i) 直接支援ケースを通しての、支援機関との地道な連携
 - ii) 既存のサービスにつながりにくい人たちへの支援のあり方を継続して模索する
- ③生涯にわたる継続したサポートの実現
- i) 行政、福祉、医療、司法、教育機関との組織的な連携強化を目指し、発達障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する
 - ii) 大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会等での施策提言
- ④職員の人材育成
- i) アセスメントのスキルアップ（個別ケース及び地域アセスメント）
 - ii) 相談支援のノウハウを法人内に広げて行く（他部署の研修受け入れを継続実施）

（３）評価

①発達障がいに対する地域の支援力の強化

i) 発達障がい地域支援マネージャー事業の実施

地域での支援体制整備に向けて、7市町村のニーズ把握や地域自立支援協議会などへ参画し、研修や地域が抱える困難ケースへのSVを実施した。

訪問回数延べ54回、参加機関延べ556機関、参加者数延べ899人。

市町村名	事業担当窓口
豊中市	豊中市 健康福祉部 障害福祉課 障害福祉センターひまわり
高槻市	高槻市 子ども未来部 子育て総合支援センター 高槻市健康福祉部 障害福祉課
岸和田市	岸和田市 福祉部 障害者支援課 岸和田市障害者基幹相談支援センター
門真市	社会福祉法人門真共生福祉会 門真市障がい者基幹相談支援センターえーる

羽曳野市	羽曳野市 保健福祉部 福祉支援課
摂津市	摂津市障害者総合相談支援センター
太子町	太子町 健康福祉部 子育て支援課
	太子町 健康福祉部 福祉課
泉佐野市	社会福祉法人泉佐野市社会福祉協議会
田尻町	泉佐野市・田尻町基幹相談支援センターあいと

ii) 公開講座の実施による啓発

a. 支援者対象公開講座（参加者 249 人）

平成 29 年 7 月 31 日（月）14：00～16：30

「自閉スペクトラム症の理解と支援」

講師：医療法人サヂカム会 三国丘病院 院長 河口 剛 氏

b. 府民及び支援者対象公開講座（参加者 269 人）

平成 29 年 10 月 3 日（金）13：30～16：30

アクトおおさか 15 周年記念セミナー

発達障がい児者支援のいま ～身近な地域での支援を目指して～

講演：「自閉スペクトラム児者の早い気づきと、切れ目のない対応への
取り組み～大阪府の取り組みから～」

講師：プール学院大学 教授 医学博士 永井 利三郎 氏

発表：「アクトおおさかのあゆみを振り返る」アクトおおさかスタッフ

シンポジウム：「発達障がい児者支援のいま～身近な地域での支援を
目指して～」

シンポジスト：プール学院大学 教授／医学博士 永井 利三郎 氏

武庫川女子大学 教授 新澤 伸子 氏

厚生労働省 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏

大阪府発達障がい児者グループ 参事 田中 忠 氏

◇コーディネーター 松上 利男

iii) 家族支援として、

a. 大阪府発達障害団体ネットワークに参画（3 回）。

b. 「大阪府ペアレント・サポート事業」として、

ア) ペアレント・メンター活動にかかる調整。

今年度活動実績 21 件。

※大阪府ペアレント・メンター登録者 42 名（平成 30 年 3 月末時点）

イ) ペアレント・メンター養成研修、交流会、公開講座の実施

ベーシック研修の実施、新規ペアレント・メンター15 名を養成。

登録ペアレント・メンターに対し、交流会及びスキルアップ研修の
実施、参加者は交流会 17 名、スキルアップ研修 19 名。

ウ) ペアレント・メンター事業運営委員会の実施（2 回）

エ) ペアレント・トレーニングインストラクター養成研修を実施。

25 名を養成（18 市町村）。

iv) 地域支援ネットワーク会の継続実施による連携維持

アクトおおさがこれまでにコンサルテーションを実施したことのある府内の支援機関に対し「発達障がい者の地域支援を考える会」と称した講座及び事例検討の研修会を 3 回実施。

v) 直接相談（ケース）を通しての地域支援を実施

相談支援：実支援人員 982 名 延件数 1,605 件

就労支援：実支援人員 256 名 延件数 1,089 件

②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく

i) 直接支援ケースを通しての、支援機関との地道な連携

ii) 既存のサービスにつながりにくい人たちへの支援のあり方を継続して模索する

グループミーティング「Art 展覧会」の実施

	日程	プログラム	内容
1	8 月 26 日（土）	コラージュで自分の好きを表現	自分を表現したコラージュを用いて、自己紹介。作品のテーマを発表する中でお互いを知る。
2	9 月 16 日（土）	グループ内で作品や特技を披露	小グループで自分の作品説明や演奏を行う。支持的な関係性の中で行うことで自信につなげる。
3	11 月 11 日（土）	芸術×こだわり×発達障がい”ある”を話し合う	同じテーマでメンバーと盛り上がり（類似性認知）、その中で他者とどう違うのかを知る（差異性認知）。最後はありのままで良いことを実感。
4	12 月 9 日（土）	ART 展覧会の準備を中心に活動	緊張や不安感をメンバーと共有し、具体的に見通しがつけられることはつけていく。
5	1 月 27 日（土）	ART 展覧会本番	大阪市阿倍野区の「まつむし音楽堂」にて、1 日 ART 展覧会とピアノコンサートを開催。

③生涯にわたる継続したサポートの実現

i) 行政、福祉、医療、司法、教育機関との組織的な連携強化を目指し、発達障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する。

16 機関に参画依頼。2 回実施。

ii) 大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会等での施策提言

体制整備検討部会（3 回）、こどもワーキング（2 回）、成人ワーキング（2

回)にそれぞれ出席。

④職員の人材育成

- i) アセスメントのスキルアップ（個別ケース及び地域アセスメント）
- ii) 相談支援のノウハウを法人内に広げて行く（他部署の研修受け入れを継続実施）

1 4. 児童発達支援部

(1) 平成 29 年度重要実施事項

- ①サービスの継続に向けた手続きと高校卒業後の移行システムの構築
- ②利用者本人の意思決定と権利擁護虐待防止に向けた取組み
- ③業務管理の効率化及び人材育成に向けた組織ラインの再編
- ④wish 相談業務効率化で週 1 回の会議を開催、アクションプラン等の受諾と遂行
- ⑤予算の進捗管理と制度外の柔軟な独自サービスの開拓

(2) 平成 29 年度の取り組み内容

①サービスの継続に向けた手続きと高校卒業後の移行システムの構築

- i) az の委託終了に伴う再公募で 40 人の事業継続。an80 名について大阪市との協議において 31 年度を境に新たな定員による公募が開始される予定になった
- ii) willLink において、行政との協議で事業継続するも利用定員に地域差がある
- iii) グループ療育実施に向け準備委員会発足。30 年度高槻地区でモデル実施
- iv) 高校 3 年生で移行支援をした利用者は 5 名（就労移行支援事業所、生活介護事業所、就労継続支援 B 型）20 歳までの本人相談利用者で相談支援事業所、就労・生活支援センター、企業などに移行支援をした利用者 2 名。専門学校への移行支援や、地域支援が整っていない地域の利用者の移行【在宅】が進みにくい。一方で、一旦、地域につないだ利用者の保護者からの療育相談が減らず、また PASSO の相談に帰ってくる。外来の療育相談を受けないことにすると、アシスの会員数が減る可能性がある。

②利用者本人の意思決定と権利擁護虐待防止に向けた取組み

- i) PASSO では 27 年度の開所当初から、本人参加型の個別支援計画面談を実施しており、利用者の理解度や状態に合わせて全員実施している。29 年度については、利用者様にとって理解しやすかったと評価できている方法（日常の療育での自己理解支援の支援ツールの形態）で目標についての頑張りたい順位や、やってみたい目標を表現していただくように変更するなど、よりご利用者様の意思を表現していただきやすい方法をスタッフで模索しながら実施した。相談支援事業所である「wish」については、意思決定を尊重した支援会議のモデル実施を行った他事業所については、未就学や低学年にとって良いモデルの形を見つけることを

計画していたが、未実施に終わった。

- ii) 管理職会議の中で「権利擁護虐待防止委員会」を発足し、地区会議でクレド、職員行動チェックリストの振り返りを行い、職員の虐待の気づきと支援の向上で虐待の予防を図った。また、Link2 件、PASS01 件については、行政への通報義務を果たし、常に子ども家庭センター、学校などと情報を共有していく事ができている。加えて、リスクマネジメントについては主任を中心に検討し、災害時、感染症、避難訓練、事故対応、不審者対応、個人情報保護のマニュアルについて、各事業所の現状把握をして、不足している物は共有して作成を行った。現在、どの事業所にも上記のマニュアルは一定整備済み。今後事業所の職員への周知や必要に応じてマニュアルの追加や改良を行っていく。

③業務管理の効率化及び人材育成に向けた組織ラインの再編

- i) 大阪地区（an・az・PASS0）、高槻地区（will・wish/枚方Link）2つのエリアに分けて副部長をリーダーにして主任、児童発達支援管理責任者を含めた会議を開催した。
- ii) 事業所の組織ラインもそれに沿って実施したことで、「広域・複数事業所」の管理が見えやすくなった。これにより職員にも組織ラインが明確になり管理職もマネジメントにおける整理ができた。

④wish 相談業務効率化で週 1 回の会議を開催、東淀川区委託事業等の受諾と遂行

- i) 職員異動に伴い、業務や担当ケースの見直しを実施。担当月により、ケース数のばらつきがあったので整理を行った。
- ii) 週 1 回会議を持つことで計画相談の進捗管理やケースの共有を図り、市の会議等の情報共有を行った。
- iii) 東淀川区役所からの「東淀川区 4・5 歳児子育て支援事業」受諾した。受諾後は、事業遂行に向けて区役所と連携を図りながら進めた。また、事業の専従となるパート職員の雇用を行った。人材確保が困難だったことで多くの業務が管理職や人材育成研修室の職員等が担うこととなったが、面談等の対象となった保護者や幼稚園・保育所、区役所からは高い評価を得ることができた。

⑤予算の進捗管理と制度外の柔軟な独自サービスの開拓

- i) 毎月の地区会議で各事業所の利用率や予算の進捗管理を図り、サービス向上とその課題改善に向けた検討を図った。利用率向上に向けて振替療育の目標について、月の支給量の制限等もあり PASS0 のみが実施、ほとんどを振り替えて実施を行い高い利用率となった。
- ii) 部内の管理職・児童発達支援管理責任者・事務職員等がチームとなって、実施指導項目に即しサービス管理等のチェックを行う体制のしくみを作る事ができた。実施については大阪地区のみであったが情報の共有も図れて今後につながるしくみとなった。

- iii) 現状あるコンサルテーションのしくみを部内の人材育成に活かすにはどうするのが効果的か職員のニーズ等も含めて検討を行った。

(3) 評価

①サービスの継続に向けた手続きと高校卒業後の移行システムの構築

- i) an・az について、80 名という枠を減らして事業を検討することができる事で職員にとって、次の事業展開を検討する余裕ができた
- ii) 通所支援事業【委託】の終了が決まり、外部コンサルを有料化し地域の放課後デイなどを育成する事を検討できた。巡回専門員事業の件で、高槻市と振り返りと協議を実施（11 月 9 日）早期発見、療育についての課題をお伝えし、保健センター、早期療育の機能（パンダ、めばえ）の見直し等を提案する。
- iii) サビ管、主任を含め部の方向性を再確認する必要があることが明確になり、建設的な話し合いの場が設けられる事となった
- iv) 高校 3 年生においては、TTAP の結果、個別支援計画やモニタリング、引継ぎ書や写真などにより具体的に次の事業所に引き継ぐ事でスムーズな移行ができた。本人や保護者の安心にもつながった。20 歳までの本人相談の利用者は法人内相談支援事業所「あんだんて」職員に面談のとり方も引き継ぐ事で親子ともども信頼を寄せて成人の相談支援事業所に引き継ぐ事ができた。一般就労された利用者さんの移行支援で、PASSO としては初めて就労・生活支援センター職員と電話や書面でやり取りを実施することができ、引き継げる場所の拡大につながった。18 歳以上の保護者の療育相談について、PASSO はいざというときの保険のようにもなっている現状があり、公開講座などで先輩お母さんの話をしていただく際には、連携させてもらえる関係は保っている。現在の PASSO 利用中の保護者にとっては心強い先輩の存在となっはいる。

②利用者本人の意思決定と権利擁護虐待防止に向けた取組み

- i) PASSO の個別支援計画面談や本人用の「ぼくの、私の目標」を参考に、他事業所でも利用者参加型個別支援計画面談や自己決定支援について低学年の個別支援計画の自己選択・意思決定方法を評価し共有する事となった
- ii) 虐待チェックリストを活用し、職員が定期的にチェックする習慣と、家庭センター、子育て支援室などとの連携について地区会議で検討できる体制を作る
- iii) 部内の各地区【大阪地区、高槻地区】に主任を中心とする「権利擁護虐待防止委員会」を設置し、具体的な活動計画を立案し実行する事となった

③業務管理の効率化及び人材育成に向けた組織ラインの再編

- i) 大阪地区（an・az・PASSO）、高槻地区（will・wish/枚方 Link）2つのエリアに分けたことで、事業所や地域の課題が見えやすくなったことと事業所の範囲が少なくなったことで情報の共有が図りやすくなった。

ii) 事業所の組織ラインもそれに沿って実施できたことで、職員にも組織ラインが明確になり人材育成につながった。主任や管理職が他の業務と兼務のため、広域に出向くことの制限があった。

④wish 相談業務効率化で週 1 回の会議を開催、アクションプラン等の受諾と遂行

i) ケースの見直しを図ることで、個々の職員の業務の見直しにもつながった。

ii) 週 1 回会議を持つことで、ケースの情報共有が図れ、相談の進め方や伝え方等検討し、個々人で抱え込まないよう働きかけることにつながった。

⑤予算の進捗管理と制度外の柔軟な独自サービスの開拓

i) 地区会議で各事業所の利用率や予算の進捗管理を図ったことで主任や現場遂行者などの意識向上が図れた。PASSO の振り替え療育の実施によりサービス向上と収支増につながった。

ii) 実施については大阪地区のみであったが情報の共有も図れて今後につながるしくみとなった。

iii) 終了児のサービス向上と現状のノウハウを活かした部内の独自サービス実現に向け、グループ療育の検討を図り 30 年度モデル実施をする事となった。

II. 各組織・事業の実施報告

1. 法人本部

(1) 理事評議員会

理	評	開催日	決 議 事 項	その他の事項
第 108 回		平成 29 年 5 月 28 日	第 1 号議案 理事・監事候補者推薦の件 第 2 号議案 役員等の報酬に関する規程 改正案の件 第 3 号議案 平成 28 年度 事業報告承認の件 第 4 号議案 平成 28 年度 決算承認の 件 第 5 号議案 平成 28 年度 監事監査報告の件	
	第 61 回	6 月 11 日	第 1 号議案 平成 28 年度 事業報告承認の件 第 2 号議案 平成 28 年度 決算承認 第 3 号議案 平成 29 年度 事業計画の 件 第 4 号議案 平成 29 年度 予算の件 第 5 号議案 役員等の報酬に関する規程 改正の件 第 6 号議案 理事、監事選任の件	

第 109 回		6 月 11 日	第 1 号議案 理事長、副理事長選任の件	
第 110 回		7 月 13 日	第 1 号議案 理事報酬承認の件 第 2 号議案 苦情解決第三者委員選任の件	①今後の理事会日程について
第 111 回		9 月 7 日	第 1 号議案 経理規程改正の件 第 2 号議案 萩の杜従たる事業所移転に係る造成費の件	①事業計画、予算進捗状況について
第 112 回		12 月 7 日	第 1 号議案 萩の杜従たる事業所にかかる建設と入札の件 第 2 号議案 グループホームみやた移転にかかる建設と入札の件 第 3 号議案 平成 29 年度補正予算案の件 第 4 号議案 諸規程類の改正の件	①事業計画、予算進捗状況について
第 113 回		平成 30 年 3 月 29 日	第 1 号議案 法人組織再編の件 第 2 号議案 平成 30 年度 事業計画（案）の件 第 3 号議案 平成 30 年度 予算（案）の件 第 4 号議案 三菱 UFJ 銀行からの借入に係る抵当権設定の件 第 5 号議案 定時評議員会開催の件	①来年度理事会日程の件

(2) 職員定期健康診断

健診内容：年齢 35 歳以上の社会保険加入者は「生活習慣病予防健診」を受診。

上記以外の職員は「一般健診」を受診し、35 歳および 40 歳以上は「心電図」もあわせて受診。

【高槻地区事業所】

日程：平成 29 年 10 月 10 日から平成 30 年 1 月 18 日まで

場所：愛仁会 総合健康センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 237 名。

【十三地区事業所】

日程：平成 29 年 10 月 2 日から平成 30 年 2 月 1 日まで

場所：医療法人健昌会 淀川健康管理センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 47 名。

【枚方地区事業所】

日程：平成 29 年 9 月 11 日、21 日、22 日、11 月 2 日

場所：医療法人 敬節クリニック

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 5 名。

【長居地区事業所】

日程：平成 29 年 9 月 26 日、28 日、29 日

場所：住吉民主診療所

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 4 名。

【内本町地区事業所】

日程：平成 29 年 10 月 6 日、23 日、24 日、26 日、11 月 1 日

場所：橘甲会 大阪予防医学健診センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 7 名。

(3) 高槻地域生活総合支援センター会議

①目的

- i) 第 4 次中期計画の具体案の検討
- ii) 第 4 次中期計画の進捗管理とまとめ

②構成メンバー

- ・萩の杜 勝部真一郎（施設長）、山根和史（副施設長）
- ・ジョブサイトひむろ 森田耕平（施設長）
- ・ふれいすBe 下裕幸（施設長）、竹内恒（副施設長）
- ・児童発達支援部 谷岡とし子（部長）、古東千鶴（課長）
- ・地域生活支援部 平野貴久（部長）、原田智弘（副部長）
- ・生産活動支援部 木戸貴之（部長）
- ・医療連携推進室 小林哲理（室長）

③検討内容

- i) 具体案の検討
 - ・ 4 月～8 月にかけて中期計画の「地域一般」と「共通項目」について、具体的な取り組みや担当部署について検討を行った。特に平成 29 年度～30 年度に取り組むべき、ビジョンを検討し表に落とし込んで進捗を行った。
- ii) 第 4 次中期計画の進捗管理
 - ・ 1 月、2 月にかけて、平成 29 年度のビジョンについての進捗の確認を行い、30 年度に取り組むべきビジョンを確認した。

④平成 30 年度の取り組み

- ・ 第 4 次中期計画ビジョンの平成 30 年度進捗管理
- ・ 「地域一般（高槻地区）」で、今後取り組むべき課題の検討と共有

(4) 大阪発達障がい総合支援センター会議

①目的

大阪発達障がい総合支援センターの各事業所における管理運営についての協議

②構成メンバー

- ・ アクトおおさか 柳屋 美香 岩城 望

- ・ジョブサイトよど 田端 たまみ 奥平 健正
 - ・ジョブジョイントおおさか 星明 聡志 山田 優
 - ・児童発達支援部 谷岡とし子 大澤 佳世子
 - ・総務部 佐々木 寛昭
- 以上 9 名

③検討内容

- i) 第4次中期計画に基づく十三地区の進捗管理
 - a. A型事業の実施と検討について
 - b. 大学生向けサービスの検討・実施について
 - c. 相談支援事業 従事者の人材育成とSV体制について
 - d. 児童発達支援センターの立ち上げに向けた検討について
 - e. 放課後等デイサービスを活用した中高生の療育について
 - f. よどの外部作業場の移転およびanの移転について
- ii) 十三地区のGHの立ち上げ準備について
- iii) 事業所間交流について
- iv) 淀川区の自立支援協議会 相談支援部会について

④検討経過・議事内容

回	開催日時・場所	議事内容
第1回	4月27日(木) 16:00～18:00 az	・29年度出席メンバーの件 ・今年度の会議のあり方の件 ・各事業所報告
第2回	5月25日(木) 16:00～17:45 Link	・第4次中期計画の件 ・各事業所報告
第3回	6月22日(木) 16:00～18:00 ジェイ・ブランチよど	・第4次中期計画の件
第4回	7月27日(木) 16:00～17:30 本部会議室	・第4次中期計画の件
第5回	8月24日(木) 16:00～18:00 アクトおおさか	・第4次中期計画の件
第6回	11月30日(木) 16:00～17:30 Link	・ケース検討会の件 ・職員研修の件
第7回	1月25日(木) 16:00～17:30 本部会議室	・パンフレットの改定の件 ・(十三)自閉症啓発デーの件 ・TTAP研修の件

		・ 30 年度の事業計画の件
第 8 回	3 月 22 日（木） 17:00～18:30 ジョブジョイントおおさか たかつきランチ	・ パンフレットの改定の件 ・ (十三) 自閉症啓発デーの件 ・ 会議の持ち方の件

⑤平成 29 年度検討課題

- ・ 第 4 次中期計画の取り組み
- ・ 事業所間交流

(5) 医療職会議（4 回開催）

各施設の医療に関わる情報交換と疾病予防活動の検討を行う。

- ① 5 月 16 日（火）熱中症の予防対策
- ② 7 月 18 日（火）感染症（0-157）の予防対策
- ③ 10 月 17 日（火）インフルエンザ・ノロウィルスの予防対策
- ④ 2 月 20 日（火）真野先生巡回検討、今年度会議振返りと来年度の計画

(6) 権利擁護・虐待防止委員会

①目的

- ・ 第 4 次中期計画「人権を守る砦となる」の遂行と進捗管理
- ・ 平成 29 年度権利擁護虐待防止計画（法人全体、各部）の遂行と進捗管理
- ・ 権利擁護虐待防止クレドの浸透

②平成 29 年度権利擁護虐待防止責任者および委員

部署名	責任者	委員
萩の杜	山根 和史	勝部 真一郎
グループホームみやた	原田 智弘	
レジデンスなさはら	伊名岡 宏	
ジョブサイトひむろ	森田 耕平	
ふれいす Be	竹内 恒	下 裕幸
ジョブサイトよど・ジェイ ランチよど	奥平 健正	田端 たまみ
ジョブジョイントおおさか	星明 聡志	
生産活動支援部	木戸 貴之	
児童発達支援部	古東 千鶴	谷岡 とし子
アクトおおさか	内田 郁江	柳屋 美香
担当理事	平野 貴久	

③平成 29 年度委員会経過および検討内容

▼第 1 回定例会 4 月 9 日（金）13 名参加 ・ 各部進捗 ・ クレド検討 ・ 29 年度権利擁護虐待防止計画の確認
▼クレド検討ワーキング 5 月 11 日（木）4 名参加 ・ クレドの詳細説明資料検討

▼第2回定例会 6月9日（金）16名参加 ・クレド最終案確認 ・クレド振り返りチェックフロー検討 ・各部権利擁護虐待防止計画のカクニン・進捗確認
※7月に全ての部署でクレド振り返りチェック配布→集計を行う
▼第3回定例会 8月24日（木）15名参加 ・クレド振り返りチェック集計確認 ・各部進捗確認
▼緊急虐待防止委員会 10月10日（火）15名参加 ・萩の杜通報「薬の過剰投与の疑い」の件を検討 ・今後の対応について確認
▼第4回 定例会 10月13日（金）10名参加 ・クレド振り返りアンケート結果検証 ・各部進捗確認
▼緊急虐待防止委員会 11月16日（木）9名参加 ・萩の杜通報案件について「虐待認定はされず」 ・今後の対応について検討を行う。
▼第5回定例会 12月8日（金）14名参加 ・クレドの内容確認 ・進捗確認 ・2月法人研修人権研修内容検討
▼第6回定例会 2月9日（金）11名参加 ・権利擁護虐待防止計画進捗確認 ・2月法人研修人権研修内容の最終確認 ・平成30年度権利擁護虐待防止計画策定の確認

(7) 杉の子農園プロジェクト

① 平成29年度の取り組み内容

- i) 10月11日（水）に、第6回杉の子農園収穫祭を開催した。今回は法人の20周年記念事業の一環として行ない、奈佐原地区の方への呼びかけも行い、ご利用者、ご家族、地域の方、職員合わせて、200人程度の方に来ていただいた。
- ii) ジョブサイトひむろの高槻市役所での「たかつき〇まるしえ」の出店にあわせて、収穫物を出品することで、法人関係者だけでなく地域の方々へ、広く知ってもらえる機会を設けた。
- iii) 大阪知的障害児者サポート協会の助成事業で杉の子農園収穫祭に対して、100,000円の助成金をもらうことで、プロジェクトの収支の改善を行なった。
- iv) 定期的に農園担当者会議を行ない、各事業所と農園の取り組み、収穫祭の準備、振り返りを行なった

② 杉の子農園プロジェクト 構成メンバー（11名）

ふれいすBe	竹内恒（プロジェクトリーダー）	小路裕章
アドバイザー	沖本卓郎	
地域生活支援部	黒木由希子	藤野清
医療連携推進室室長	小林哲理（作業療法士）	

生産活動支援部 木戸貴之
 ジョブサイトひむろ 森田耕平 中原智美
 萩の杜 久保友圭子
 杉の子農園実務職員 楠目守

③ まとめ

- i) 今年度も、「地域に生きる」の実践モデルの一つとして、休憩所を地域の方々に活用していただきながら、ご利用者や職員、ご家族とも交流されるなど、コミュニティの場としての機能を果たすことが出来た。また事業所の協力を得ながら、地域の方々に杉の子農園を知ってもらえる機会を設けることができた。
- ii) 今年度は、大阪知的障害者サポート協会からの助成を受けることで、収穫祭の費用だけでなく、農園にかかる購入費用（種や用具など）も含めた支出を、農作物の売り上げと助成金による収入で、執り行うことができた。
- iii) 農園収穫祭においては、今年度の実施時期が良かったため、来年度も平成30年10月17日（水）の開催とする。ご家族、ご利用者、職員が事業所の枠を超えて参加できる貴重な場であるので、今後も継続的に行っていきたい。一方で地域との交流の面では、不十分な面があった。開催日や時間帯などご利用者の参加と地域との交流のバランスを考えながら、今後どのような形で開催すればよいかを検討していきたい。

(8) 法人全体研修

研修日	研修内容	講師
平成 29 年 4 月 22 日	・平成 29 年度理事長方針の発表 ・各事業所の事業方針の発表 ・資格取得表彰 ・業務貢献表彰及び内容発表 ・大阪 10 区選出の衆議院議員と語ろう① 障がい者福祉のこれからのカタチ ～私たちの夢や想いをカタチに～ 講演&対談	松上理事長 各部長 総務部 該当部及び事業所 衆議院議員 辻元清美 氏
10 月 7 日	・講演会 自閉症スペクトラムの人たちとのコミュニケーション～年齢・発達・状態に合わせた伝え方や表出の工夫～	講師:Elizabeth O'Toole (エリザベス・オトゥール) 氏 通訳: 社会福祉法人はるにれの里 吉岡 俊史 氏
11 月 18 日	・大阪 10 区選出の衆議院議員と語ろう② 障がい者福祉のこれからのカタチ ～私たちの夢や想いをカタチに～ 講演&対談	衆議院議員 大隈 和英 氏 各プロジェクトリーダー

	・法人プロジェクトの進捗報告 ・ノースカロライナの視察報告	視察参加者
平成 30 年 2 月 17 日	・理事長とご利用者ご家族との座談会 ・虐待防止委員会より報告 ・e - ラーニングのお披露目試写 ・地域を耕す PJ より報告	松上理事長と家族会の方々 虐待防止委員会 e - ラーニング担当者 地域を耕す PJ

(9) 内定者職員研修

研修日	内容	講師
平成 29 年 10 月 7 日	自閉症スペクトラムの人たちとのコミュニケーション～年齢・発達・状態に合わせた伝え方や表出の工夫～	講 師 : Elizabeth O' Toole(エリザベス・オトゥール) 氏 通訳: 社会福祉法人はるにれの里 吉岡 俊史 氏
11 月 18 日	・大阪 10 区選出の衆議院議員と語ろう② 障がい者福祉のこれからのカタチ～私たちの夢や想いをカタチに～ 講演&対談 ・法人プロジェクトの進捗報告 ・ノースカロライナの視察報告	衆議院議員 大隈 和英 氏 各プロジェクトリーダー 視察参加者
平成 30 年 1 月 15～ 17 日	ふれいす Be・ジョブサイトよど 体験実習	ふれいす Be 下施設長 ジョブサイトよど 田端施設長
平成 30 年 2 月 17 日	・理事長とご利用者ご家族との座談会 ・虐待防止委員会より報告 ・e - ラーニングのお披露目試写 ・地域を耕す PJ より報告	松上理事長と家族会の方々 虐待防止委員会 e - ラーニング担当者 地域を耕す PJ

(10) 新入職者研修

研修日	研修内容	講師
平成 29 年 6 月 27 日	労務管理・人事考課・予算	総務部
8 月 23 日	法人設立の経緯	松上理事長
10 月 24 日	障害理解について	発達障害スーパーバイザー 堀内
11 月 22 日	コミュニケーションについて	ふれいす Be 下施設長 生産活動支援部部長 平野
12 月 26 日	虐待防止について	生産活動支援部部長 平野 萩の杜施設長 勝部
平成 30 年	現状の課題と今後の抱負	総務部

2月23日	グループワーク	
-------	---------	--

2. 総務部

(1) 平成 29 年度 機関紙発行状況

発行月	主な内容	発行部数
4月	平成 29 年度方針、第 4 次中期計画策定にあたって、業務貢献表彰報告、LaLa-chocolat バレンタイン大作戦	3,500
7月	業務貢献表彰報告、高槻市巡回支援専門員整備事業について	3,500
10月	第 3 回はるにれの里・北摂杉の子会ジョイントセミナー報告 第 4 回北摂杉の子会研修セミナー報告、業務貢献表彰報告	3,500
1月	新年のご挨拶、業務貢献表彰、法人設立 20 周年記念イベント 作品展、アルバマーレ GHA 視察見学報告①、アクトおおさか開設 15 周年記念セミナー	3,500

(2) 医療連携推進室

- ①医療連携に係る会議の実施（12 回開催）
- ②法人全体の医療に関する政策を整備
- ③医療職会議の管理
- ④真野先生との連携についての検討
- ⑤利用者の重度化・高齢化、医療的ケアに関する検討
- ⑥訪問看護ステーションについての検討
- ⑦医療的ケア講演会の企画
- ⑧法人内作業療法士の配置等についての検討

(3) 人材育成研修室

平成 29 年度 人材育成支援室 事業実績

- ・強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修
前期（法人本部 4/28・5/26・6/30・7/28・8/25・9/29：5 事業所 9 名参加）
後期（法人本部 10/27・11/24・12/22・1/26・2/23・3/23：4 事業所 6 名参加）
- ・施設コンサルテーション事業
社会福祉法人来島会 南海学園（3 日間/月 年間 12 回：@高知県南国市）
社会福祉法人来島会 今治福祉園（2 日間/月 年間 11 回 12 回目は南海学園と合同：@愛媛県今治市）
社会福祉法人名張育成会 名張育成園（年間 7 回 7/18・8/18・9/22・10/25・11/17・12/15・3/28：@三重県名張市）
社会福祉法人大阪府社会福祉事業団：みずほ・おおぞら（年間 9 回 7/11・8/4・9/12・10/5・11/10・12/7・1/12・2/16・3/20：@豊中市）
社会福祉法人さざんか福祉会 めふプラザ（年間 3 回 4/6・6/13・3/7：@兵庫県宝塚市）
社会福祉法人まほろば まほろば光司園（年間 4 回 6/15・9/14・12/6・3/27：@

兵庫県三木市)

社会福祉法人二色福祉会 夢二色 (年間 2 回 12/26・3/9 : @貝塚市)

有限会社 ウェルビーエンタープライズ (2/7 : @群馬県高崎市)

有限会社 スバルトータルプランニング (3/6 : @羽曳野市 :)

ジョブサイトよど (法人内 : 4 回/月 通年)

・学校巡回コンサルテーション事業

和泉市教育委員会 職員研修 (5/11)

小学校学校巡回 (北池田小学校 : 3 回 6/27・10/20・2/9)

(和気小学校 : 4 回 5/11・9/21・11/22・2/9)

中学校学校巡回 (郷荘中学校 : 3 回 6/16・10/20・1/16)

(南池田中学校 : 4 回 6/27・9/21・11/22・2/16)

実践報告会 (3/2)

泉大津市教育委員会 職員研修 (6/2)

学校巡回 (旭小学校 : 3 回 5/29・10/13・1/25)

実践報告会 (3/1)

・講師派遣事業 (連続講座)

寝屋川市障害福祉課 福祉事業従事者・市民向け研修 (2/13・3/9 : @寝屋川市)

兵庫県知的障害者施設協会播磨地区職員研修会 (7/7 : 3 講義・2 演習 : @兵庫県
神崎郡)

鳥取県社会福祉司会 障害者虐待防止研修 (1/31 : 3 講義・事例検討 : @鳥取県倉
吉市)

社会福祉法人新緑福祉会 採用 5 年目から 9 年年目の職員向け研修 (2/27・3/16 :
@兵庫県神戸市)

・講師派遣事業 (単回講義)

NP0 法人 障害者の自立を支えるサポートネットワーク

「強度行動障害の特性理解とその支援」(5/23 : @豊中市)

枚方市役所生活福祉室 生活保護ケースワーカー研修

「大人になった発達障害の人の理解とその支援」(6/14 : @枚方市)

摂津市教育委員会子育て支援課 学童保育スタッフ研修

「児童心理研修」(7/7 : @摂津市)

門真第七中学校支援協議会 校区の学校職員、保護者、市民向け講演

「発達障害って何? 知ること広がるコミュニケーションの輪」(9/16 : @門真市)

社会福祉法人猪名川町手をつなぐ育成会 保護者向け研修

「自閉症スペクトラム障害の支援方法ー3 つの大きな特徴についての理解と支援ー」

(9/19 : @兵庫県猪名川町)

大阪府立大学社会福祉学会 公開講座

「成人してから発達障がいと診断された方々への支援を考える」(12/16 : @大阪

市)

社会福祉法人息吹 もみじの家 精神障害者理解促進事業ハートパーク
「発達障がいってなんだろう？」(1/20：@箕面市)
社会福祉法人南風荘 セルプときわ 法人職員研修
「自閉症の人たちの障害理解と支援を学ぶ」(1/27：@山口県宇部市)
大阪社会福祉司会南河内支部 福祉専門職研修
「大人の発達障害について」(3/17：@松原市)
社会福祉法人草の根共生会
「自閉症などの発達障害の方への支援について」(3/30：@東大阪市)
平成 29 年度 大阪府発達障がい児支援のための幼稚園教諭・保育士合同研修
(8/6 @twin21・8/9・9/20 @TKP 会館)
東淀川区 4・5 歳児子育て支援事業 (8/1 @こみち幼稚園・9/1・9/5・10/3・11/9 @
東淀川区役所)
Will 保護者研修 (9/15 @現代劇場)
新規採用者職員研修 (10/24 @現代劇場)
全自者協発達障がい支援スーパーバイザー養成研修 (11/16 @ジョブサイトよど)
法人内 利用者さんアセスメント (4/7・4/14・4/2 @will 7/12 @ジョブサイト
ひむろ)

3. 萩の杜

(1) 施設入所支援・生活介護・(以下①及び⑦にはショートステイセンターぶれす含む)

①萩の杜会議：毎月 1 回開催

i) 萩の杜内各部署間の連絡調整

②萩の杜運営会議：毎月 1 回開催

i) 管理職-現場職の連絡調整

ii) 事業計画、職員体制の検討

iii) 内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
4 月 28 日(金)	人権研修(合理的配慮)	中山清司 氏
10 月 4 日(水)	精神科医療について	津本学 医師
12 月 13 日(水)	萩の杜 実践報告会	各ユニット担当者 (講評：中山清司 氏)
1 月 17 日(水)	服薬の効果について	津本学 医師

③萩の杜連絡調整会議：四半期ごとに開催

i) 施設入所支援-生活介護間の連絡調整

④リーダー会議(施設入所支援)：毎月 1 回開催

i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討

ii) 業務等に関する事項の共有、検討

iii) 利用者支援に関する事項の共有、検討

⑤ふれっと支援会議(生活介護)：毎月1回開催

- i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討
- ii) 業務等に関する事項の共有、検討
- iii) 利用者支援に関する事項の共有、検討
- iv) レクリエーションの企画、立案、評価

日程	行き先	日程	行き先
4月5日(水)	山田池公園	9月27日(水)	ドライブ
4月12日(水)	スーパー銭湯	10月4日(水)	ニフレル
4月19日(水)	エキスポシティ	10月6日(金)	外食
4月26日(水)	エキスポシティ	10月18日(水)	本屋
5月10日(水)	星田園地	10月25日(水)	カラオケ
5月17日(水)	エキスポシティ	11月1日(水)	津乃江公園
5月24日(水)	カラオケ	11月8日(水)	耳原公園
5月31日(水)	京都市動物園	11月15日(水)	箕面公園
6月7日(水)	漫画喫茶	11月22日(水)	新幹線公園
6月14日(水)	プール	11月29日(水)	イオンモール茨木
6月21日(水)	箕面キューズモール	12月6日(水)	カフェ Be
6月28日(水)	イオンモール桂川	12月9日(土)	カフェ Be
7月5日(水)	樟葉モール	12月13日(水)	スーパー銭湯
7月12日(水)	プール	12月16日(土)	作品展
7月19日(水)	カフェ	12月20日(水)	果物狩り
7月26日(水)	耳原公園	1月17日(水)	外食
8月9日(水)	箕面キューズモール	1月24日(水)	カラオケ
8月23日(水)	スーパー銭湯	2月21日(水)	外食
8月30日(水)	外食	2月28日(水)	海遊館
9月13日(水)	カラオケ	3月14日(水)	森林観光センター
9月15日(金)	外食	3月21日(水)	カラオケ
9月20日(水)	プール		

⑥旅行担当者会議(施設入所支援)：随時開催

- i) 旅行ニーズ、旅行先の調査及び開拓
- ii) 旅行の企画、立案、評価

日帰り旅行

日程	行き先
5月25日(木)	岡山 後楽園、鷺羽山ハイランド
6月15日(木)	神戸海洋博物館
7月6日(木)	牛滝温泉いよやかの郷
7月20日(木)	大阪歴史博物館

9月28日(木)	神戸クルーズ
10月12日(木)	有馬温泉
10月26日(木)	大阪市内(天王寺動物園等)
11月9日(木)	京都鉄道博物館、京都水族館

⑦リスクマネジメント委員会：毎月1回開催

- i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
- ii) 再発防止策等の検討

⑧安全対策委員会(萩の杜家族会と協同)：隔月開催

- i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
- ii) 再発防止策等の検討

(2)保健看護

①保健衛生業務

- i) 身体測定(年2回)、体重測定(月1回)、血圧測定(有所見者のみ月1回)
- ii) 健康診断
 - a. 内科健診(年2回)
 - 前期：6月22日(木)、7月13日(木)
 - 後期：11月30日(木)
- iii) 職員健康診断(年1回)
 - a. 期間：10月-12月(愛仁会総合保健センターにおいて実施)

②保健看護業務

- i) 疾病予防
 - a. 内科嘱託医(なかじま診療所 中嶋医師)との連携
 - b. オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導(希望者のみ・毎週水曜日)
 - c. 柏瀬歯科クリニックによる歯科治療(希望者のみ・毎週水曜)
 - d. 看護処置
- ii) 精神科相談(毎月1回金曜日：啓友クリニック 西山医師)
- iii) 受診件数(上記精神科相談・オーラルヘルスケアサービスを含む)

受診科	件数	受診科	件数
内科	374	婦人科	1
外科	1	小児科	1
整形外科	1	精神科	283
脳神経外科	3	形成外科	2
眼科	11	麻酔科	1
耳鼻科	14	歯科	300
皮膚科	113	入院	3
泌尿器科	3	手術	3
消化器科	5	救急	3

合計：1,122件

※上記入院期間及び入院先：

- ・ 6 月 9 日(金)～7 月 14 日(金) 大阪大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ・ 11 月 22 日(木)～11 月 29 日(水) 大阪医科大学附属病院 眼科
- ・ 3 月 29 日(木)～3 月 31 日(土) 大阪医科大学附属病院 眼科

(3) 栄養管理

①給食会議：毎月 1 回開催

- i) 利用者に関する報告
- ii) 食事内容等に関する検討

②その他

- i) 下記の通り給食委託会社の変更があった。

時期	委託給食会社	委託終了理由
～6 月 30 日	株式会社 東テストパル	・ 調理補助非常勤職員確保難
7 月 1 日	株式会社 ニチダン	・ 調理補助非常勤職員確保難
12 月 25 日	高槻給食 株式会社	

(4) 避難訓練

- ① 5 月 30 日(火)：生活場面からの避難訓練(ショートステイセンターぶれす合同)
- ② 8 月 25 日(金)：生活場面からの避難訓練(ショートステイセンターぶれす合同)

4. 短期入所(ショートステイセンター ぶれす・ぷれいす Be 短期入所)

(1)ぶれす利用実績(延べ人数・カッコ()内は児童利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			
	宿泊	4 時間 未満	4-8 時間	8 時間 以上	合計
4 月	58(2)	138(13)	44(8)	6(1)	188(22)
5 月	62(2)	145(21)	44(2)	3(0)	192(23)
6 月	60(2)	149(12)	35(0)	4(1)	188(13)
7 月	54(1)	112(6)	34(2)	5(0)	151(8)
8 月	53(0)	111(3)	51(4)	3(0)	165(7)
9 月	56(3)	122(13)	25(3)	4(0)	151(16)
10 月	67(1)	148(13)	34(2)	3(0)	185(15)
11 月	72(0)	138(13)	36(2)	4(0)	178(15)
12 月	69(2)	139(17)	51(4)	7(0)	197(21)
1 月	70(1)	117(15)	29(0)	6(0)	152(15)
2 月	66(1)	130(16)	35(0)	3(1)	168(17)
3 月	61(1)	131(12)	43(8)	14(2)	188(22)
合計	748(16)	1,580(154)	461(35)	62(5)	2,103(194)

(2)ぶれす送迎実績

月	回数	月	回数
4 月	456 回	10 月	487 回
5 月	454 回	11 月	482 回
6 月	455 回	12 月	473 回
7 月	373 回	1 月	429 回
8 月	394 回	2 月	448 回
9 月	383 回	3 月	448 回

合計：5,282 回

(3) ふれいす Be 利用実績

(延べ人数・カッコ()内は児童利用者数、カッコ〈〉内は重身利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			
	宿泊	4 時間 未満	4-8 時間	8 時間 以上	合計
4 月	71(3) 〈4〉	161	25	4	190(41) 〈61〉
5 月	68(1) 〈3〉	138	21	6	165(27) 〈48〉
6 月	76(4) 〈2〉	166	21	4	191(33) 〈58〉
7 月	75(4) 〈3〉	140	22	7	179(35) 〈50〉
8 月	68(8) 〈5〉	125	40	5	170(32) 〈52〉
9 月	77(4) 〈2〉	164	20	4	188(32) 〈54〉
10 月	74(4) 〈4〉	158	22	5	185(30) 〈51〉
11 月	75(4) 〈4〉	141	19	4	164(31) 〈43〉
12 月	62(3) 〈3〉	145	24	5	174(25) 〈53〉
1 月	68(4) 〈3〉	135	24	5	164(27) 〈52〉
2 月	75(2) 〈3〉	148	20	5	173(30) 〈52〉
3 月	68(2) 〈3〉	153	35	8	196(44) 〈64〉
合計	857(43) 〈39〉	1,774	293	62	2,139(387) 〈638〉

(4) ふれいす Be 送迎実績

月	回数	月	回数
4 月	304 回	10 月	290 回
5 月	273 回	11 月	245 回
6 月	301 回	12 月	263 回
7 月	285 回	1 月	251 回
8 月	233 回	2 月	270 回
9 月	293 回	3 月	230 回

合計：3,238 回

(5) ふれす-ふれいす Be 合同会議：毎月 1 回開催

①業務等に関する事項の共有、検討

②合同内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
6月13日(火)	合理的配慮について	勝部 真一郎
10月10日(火)	満足度向上を目指して	下 裕幸
2月13日(火)	事例検討(3ケース)	

5. ジョブサイトひむろ

(1) 生活介護係

① ジョブサイトひむろ会議：毎月1回開催

- i) 利用者関係等、各グループ報告
- ii) 事故、ひやりはっと報告について
- iii) 事業計画、予算の進捗確認

② ジョブサイトひむろ支援員会議：不定期

- i) 事例検討
- ii) 日帰り旅行グループینگ検討、事前説明会
- ii) アクションプラン検討

② リスクマネジメント委員会：毎月1回開催(前期)、後期は不定期で実施

- i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
- ii) 再発防止策等の検討
- iii) マニュアルの作成および説明会の実施

③ 工賃向上委員会：不定期

- i) 新規受注作業の検討
- ii) 作業評価シート(賞与支給)の進捗確認
- iii) 工賃向上報告会の実施

物販

日程	イベント名
4月5日(水)	たかつき〇まるしえ
6月3日(土)	雑貨マーケット@二十四節記
7月22日(土)	さにすば夏祭り
9月7日(木)	たかつき〇まるしえ
9月26日(火)	事業所連絡会ミニバザー
12月2日(土)	福祉展
12月6日(水)	たかつき〇まるしえ
2月25日(日)、26日(月)	天神祭り

③ レクリエーション委員会：不定期

- i) レクリエーション企画の集約、調整
- ii) 日帰り旅行の企画、立案
- iii) その他地域で行われるイベントへの参加調整

作業グループ別レクリエーション

日程	行き先	人数	日程	行き先	人数
5月11日(木)	伊丹空港	4	9月29日(金)	服部緑地公園	3
5月19日(金)	イオン茨木	3	10月9日(月)	和食さと・西河原公園	3
5月24日(水)	不二家	3	11月23日(木)	元禄寿司・ジャンカラ	5
5月31日(水)	大山崎山荘	1	11月24日(金)	ロイヤルホスト	2
5月31日(水)	京都市水族館	3	12月6日(水)	イオンモール京都桂川	2
6月7日(水)	エキスポシティ ニフレル	3	12月11日(月)	海遊館	1
6月15日(木)	長岡天満宮	3	12月15日(金)	京都鉄道博物館	4
6月23日(金)	エキスポシティ スイーツパラダイス	2	12月18日(月)	エキスポシティ	3
6月30日(金)	伊丹スカイパーク	3	1月8日(月)	宴どころつきの井	2
7月14日(金)	エキスポシティ	2	1月17日(水)	京都 河原町	1
7月22日(土)	ドルチェモスカート	5	1月18日(木)	ロイヤルホスト カラオケ	3
7月27日(木)	不二家	3	1月19日(金)	千里阪急ホテル	3
8月11日(金)	バスターボール 阪急茨木店	10	1月24日(水)	和食さと・ボーリング	4
9月6日(水)	西河原市民プール	1	2月12日(月)	くら寿司	2
9月15日(金)	京都ブルワリー	5	2月16日(金)	イタリアン+39	2
9月15日(金)	山田池公園	2	3月23日(金)	なかなかの森	2
9月22日(金)	山田池公園	2			
9月27日(水)	大阪科学技術館	3	合計	34	98

日帰り旅行

日程	行き先
10月20日(金)	A: みさき公園 B: 六甲牧場
11月10日(金)	C: みさき公園 D: 明石天文科学館

サッカー

日程	内容	場所	参加人数
7月27日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
9月21日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
10月19日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
11月16日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
12月2日(土)	サッカー大会	ノアステージ茨木	6名

祝日プログラム

日程	内容	場所	参加人数
----	----	----	------

5月2日（火）	こいのぼりフェスタ	芥川桜堤公園	6名
7月17日（月）	ジョブサイトひむろ祭り	ジョブサイトひむろ	全員
3月21日（水）	おやじバンド演奏会	ふれいす Be	46名

地域イベントへの参加

日程	内容	場所	参加人数
6月24日（土）	ハートウォーミング コンサート	緑町 Cafe	2名
7月11日（火）	ふれあいプール レクリエーション	高槻市民プール	6名
7月11日（火）	イオンイエローレシート キャンペーン	高槻イオン	3名
9月11日（月）	イオンイエローレシート キャンペーン	高槻イオン	3名
10月1日（日）	高槻市市民ふれあい運動会	高槻市立第一中学校	9名
11月22日（木）	高槻事業所連絡会交流会	高槻現代劇場 レセプションルーム	20名
2月28日（水）	ボランティア体験プログラム	ゆうあいセンター	1名
3月16日（金）	ふれあいレクリエーション スポーツの集い	古曽部防災公園 体育館	8名

⑤その他

内部研修

日程	内容	参加人数
4月10日（月）	てんかん講座（真野先生）	10名
6月12日（月）	生活習慣病について（真野先生）	12名
8月2日（水）	発達検査フィードバック研修（堀内氏）	15名
10月4日（水）	サラヤ手洗い講習会	13名
10月14日（土）	救命救急講習	17名
12月11日（月）	作業療法勉強会	19名
1月15日（月）	薬について（真野先生）	6名
2月28日（水）	虐待防止・権利擁護研修（伝達研修）	11名

ボランティア

日程	ボランティア	人数
11月23日（木）、3月21日（水）	茨木市在住の女性	1名
3月7日（水）	ボランティア体験プログラム	2名

見学

日程	見学者	人数
----	-----	----

5月30日（火）	さくらの家	1名
6月8日（木）	高槻支援学校保護者	12名
8月22日（火）	神戸市保護者	2名
8月28日（月）	大阪北視覚支援学校	1名
9月7日（木）	岩手県社会福祉事業団	2名
9月12日（水）	コミュニティーキャンパス	5名
9月19日（火）	枚岡福祉会	4名
9月20日（水）	早稲田大学大学院	1名
9月27日（水）	大阪北視覚支援学校	6名
9月28日（木）	大阪府障害者福祉事業団	7名
11月9日（水）	砂川厚生福祉センター	4名
11月27日（月）	高槻市障がい福祉課	3名
12月6日（水）	支援センターらいと	1名
12月7日（木）	さくらの家	1名
12月15日（金）	正夢の会	5名
12月20日（水）	アンダンテ加島	1名
1月15日（月）	一羊会	4名
1月18日（木）	国立のぞみの園	2名
1月30日（火）	真柄福祉財団	4名
3月22日（木）	高槻市長	3名
3月27日（火）	大阪保育福祉専門学校	1名

（２）医務栄養

①医務会議：毎月１回開催

- i) 健康、予防プログラムの進捗確認
- ii) リハ加算の進捗確認
- iii) 真野先生巡回相談：年間12回
 - a. 職員向け研修
 - b. ご家族向け研修
 - c. 内科健診
 - d. インフルエンザ予防接種
 - e. リハビリテーション計画面談、更新
 - f. ご家族、職員の相談
- iv) その他医療に関わる案件の検討

②健康診断

i) 利用者健康診断

前期：5月27日（土）9:30～11:30（医療法人桜峰会 香川クリニック）

（内容）身体測定、問診、血圧測定、胸部X線直接撮影、尿検査、血液検査
感染症、アレルギー検査（希望者のみ）

後期：12月2日（土）9:30～11:30（医療法人桜峰会 香川クリニック）

（内容）身体測定、問診、血圧測定、インフルエンザ予防接種（希望者のみ）

ii) 職員健康診断

10月10日（火）～12月13日（金）（愛仁会総合保健センターにおいて実施）

③作業療法

i) 個別セラピー：23名 年間23回実施

ii) 体力測定：21名 年間1回実施

iii) リハビリテーション計画書作成、評価：13名

iv) ポールウォーキング

v) ご家族向け研修：2月19日（月）高血圧について

vi) 内部研修：12月11日（月） 作業療法とは？

④栄養

i) 給食会議：毎月1回実施

a. ご利用者に関する報告

b. 食事のリクエスト

c. 特食（祝日、土曜）メニューの検討

ii) セレクト給食の実施（毎月1回祝日、土曜開所日）

iii) その他

a. ご当地グルメを取り入れた。

b. 乳製品・デザートの変種を豊富にした。

c. 肥満に悩むご利用者の間食について、ご家族に情報提供を行った。

6. グループホームみやた・とんだ

（1）共同生活援助

①みやた会議：毎月開催

i) みやたの各種状況の報告

ii) 内部研修

iii) 復命講習

iv) 各委員会報告

②利用者ミーティング

i) 各ご利用者の情報共有

ii) 個別支援計画の進捗確認、検討

③とんだ世話人会議：毎月1回開催

i) ご利用者の情報共有

ii) 世話人間の連絡調整

iii) とんだ業務全般に関する検討、助言、調整

④保健衛生業務

i) 体重測定（月1回）

ii) 利用者健康診断

内科健診（年2回）基本的に日中活動先で受診

iii) 職員健康診断（年1回 夜勤・宿直者は年2回）

5月15日（月）-6月21日（水）（夜勤・宿直者のみ）

10月4日（水）-12月20日（水）

いずれも愛仁会総合保健センターにおいて実施

⑤保健看護業務

i) 疾病予防

a オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導

（希望者のみ・基本毎月1～2回）

ii) 受診件数（オーラルヘルスケアサービスを含む）

受診科	件数	受診科	件数
内科	15	神経内科	0
外科	4	精神科	48
婦人科	2	形成外科	0
肛門科	1	嚥下外来	0
眼科	2	歯科	(190)
耳鼻科	2	口腔外科	0
皮膚科	11	救急	
泌尿器科	0	救急搬送入院	
消化器科	0	合計	275(190)

(2) 避難訓練

- ① H29年4月～H30年3月まで毎月夜間想定による消防訓練を実施。
- ② 昨年度参加して頂けなかった夜勤者にも参加頂き、通報訓練まで実施できた。
- ③ 回数をこなすことで避難時間はかなり短縮できた。

7 レジデンスなさはら

(1) 共同生活援助会議関係

①レジデンス会議

- ・月1回開催。法人全体の動きの報告や収支報告、レジデンスなさはらの事業計画の進捗状況などを行った。1月にはSW（強み弱み）分析を全職員で行い、現状の組織分析を行ったうえで次年度の事業計画につなげた。

②各館ミーティング

- ・各館（1、2、3番館）ごとに週1回、月3回開催。具体的なケース事例に対し、現状のアセスメントを共有し、支援の方向性について確認と統一を図った。「対応の統一」が図れるメリットはあるものの、決まったことが進んで行かないという課題も新たに生まれた。

③医務会議

- ・月 1 回の開催。季節に応じた課題（熱中症、感染症、アレルギー等）や服薬管理の方法など様々な医務的な課題に応じて検討を行った。

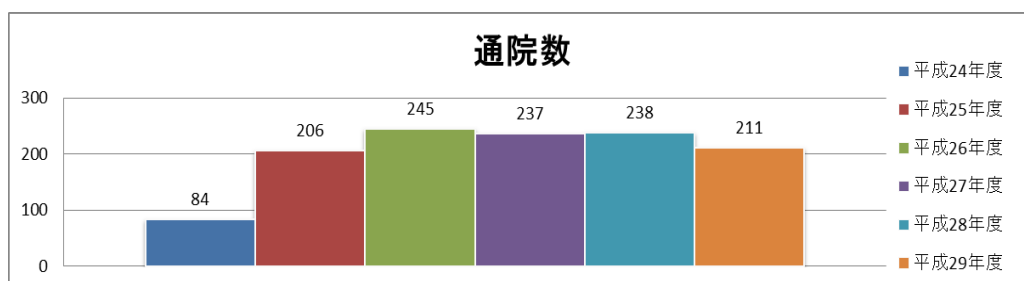
④連携会議（策定会議、意思決定支援会議を含める）

- ・1 人のご利用者につき、年に 2 回、レジデンスなさはらとジョブサイトひむろで実施。お互いの事業所でのご本人の様子や共有の支援の方向性を確認した。

(2) 保険衛生業務

①29 年度通院件数

- ・下記の通り平成 29 年度のレジデンスなさはらからの通院件数は 211 件であった。昨年度から、27 件減少となっているが、要因は、皮膚科通院の減少である。皮膚科通院の減少の理由として、皮膚の状態が悪くなることを防ぐ未病の支援が始まったこと、皮膚の状態がわるくなっても、看護師と連携の基、処置ができるようになってきたことがあがる。



(3) 家族会関連

①なさはら親の会

- ・なさはら親の会は年 2 回開催され、なさはらでのご利用者の様子や「ひやりはっと」報告、満足度調査結果報告等を実施している。

②懇談会

- ・平成 29 年度については、ご家族を対象に懇談会を各番館 1 回ずつ開催した。非常勤職員とご家族とのコミュニケーションの場となり、職員にとってご家庭でのご利用者の様子をお聞きする場となりご家族にとっては安心感につながった。

③満足度・不満足度調査

- ・年 2 回（8 月、1 月）に「満足・不満足調査」を行っている。この結果を事業計画に落とし込み毎年改善を図っている。

(4) 避難訓練

- ・年 2 回（9 月、3 月）に火災を想定した避難訓練（総合訓練）実施した。各館のご利用者の状況としては、比較的スムーズに 2 分以内（館によっては 30 秒程度）での避難を行うことが出来ていた。

(5) 見学対応・講師等の派遣

- ・平成 29 年度は、見学対応件数（57 件）、のべ見学者数（235 名）であった。
- ・講師等の派遣では、大阪府サービス管理責任者研修、大阪府強度行動障がい支援者養成研修、各種全国大会等の主講師や講師、ファシリテーター等の派遣を多数行うことが出来た。十分に社会的な責任やモデル事業所としての役割を果

たすことが出来たのではないかと思います。

8. ふれいすBe通所部門

(1) 知的生活介護Ⅰ (AR4, 7)

今年度は、1 名のご利用者が生活リズムの乱れ、頻繁な外出など不安定な状態が続き、3 か月間入院される事があったが、他 13 名のご利用者については、概ね安定して通所されている。3 月末には、1 名のご利用者が入所施設への移行のため退所された。

日中活動としては、個々の特性やペースなどを考慮しながら、働く事と余暇的な活動をバランスよく実施し、充実した過ごしができるようなプログラムを提供した。また、それらを通してより自立した ADL の獲得や大人としてのマナー、適切な人との関わり方などが身につくような支援を実施していった。

作業面では従来の菓子商品の軽作業を中心に、新しく単発の軽作業も取り入れながら作業の拡充とスキルの向上を図った。昨年度から取り組み始めた、AR3 のバスタオルたたみの作業は定着し、現在のご利用者中心でほぼ自立して取り組めるまでになっている。また、新たにリネンとも連携したタオルケットたたみや病衣干しの作業を提供できるように調整した。ご利用者が参加したい作業を選択する機会が増え、マンネリ化の改善だけでなく、意欲や責任感など働く事への意識が高まっている。

余暇的な活動では、ご利用者からのニーズの高い定期的な工賃でのカフェタイムやピクニック、週 1 回のセレクト余暇、土曜開所日のイベントを昨年度と同様に提供し、社会性や自主性の向上にも繋がっている。

作業面でも余暇活動でも選択肢の幅は広がったが、あまりご利用者が好まない体を動かす機会は減っている。20 代後半のご利用者が増えて来ており、健康面から考えても体力の維持、向上を目的とした活動をどう増やすかが、今後の課題と思われる。

(2) 知的生活介護Ⅱ (AR1, 2, 8)

昨年度途中よりご利用者 1 名が、ご家族の付き添いのもとでなければ通所してプログラムに参加することができない状態に陥ってしまい、現在も通所時間を短くしたうえにお父様が付き添う形での通所が続いている。ご家族の協力のもと、以前のようにご本人だけでプログラム参加ができるようになるように、次年度もご家族や関係者と相談、協力しながら良策を探っていく。また別のご利用者においても通所できる曜日が減り、年度の後半は金曜日だけの通所になっているので、次年度に向けての方策を検討していく。上記 2 名のご利用者以外の方については、新規のご利用者 1 名も含め、概ね元気に通所できている。

プログラム提供においては、ご家族よりのニーズの高い身体を動かすプログラムとして、散歩や空き缶つぶし、ランニングマシーン以外にトランポリンの活動を積極的に多く取り入れたり、掃除のプログラムを提供した。机上の作業のバリエーションにおいても新しい自立課題を提供したり、他グループで受注している軽作業の一部やポスティング作業の一部を受け持ったり、ご家族の要望に沿う形で個別に簡単なドリルの提供をしたご利用者もおられた。

余暇の面では、土曜日プログラム以外にクリスマスリース作りやさつまいもを栽培して焼き芋を作って食べる等のプログラムを提供したり、ソファ等新たに設置し休憩しやすいリラックススペースの充実を図った。

(3) 重身生活介護 (AR3)

重身生活介護部門ではスタッフ育成の為、研修や施設見学を積極的に行い、ご本人・保護者からもニーズを実行できるようにすること、正職員による医療的ケアの実施を進めることを目標にスタートした。今年度は支援学校卒業生4名を加えた20名で開始した。年度初めは、長期自宅療養の方やご家庭の都合で短期入院を利用される方、手術によるリハビリ入院の方がおられたが、ご利用者も増えたことにより1日10名ほど安定して通所された。土曜開所も毎回平均6~7名が利用した。

施設見学については、ご利用者増と新しいスタッフが十分に支援に慣れておらず外部への見学に行くことが出来なかった。研修については、月に1回チームリーダーが中心となって研修を行った。非常勤スタッフも積極的に参加できる体制にすることで、多くのことを伝える事が出来、正職員は自らの支援の振り返りにも繋がった。また、外部から重身の親御さんを招き、直接話を聞くことで保護者の思いに直接触れる事が出来た。今後もスタッフの育成は重要であるが、視野を広げる為にも他施設の見学を行う必要がある。

ご本人と保護者のニーズの実行については、すべてに応える事は出来なかったが、保護者やご本人との面談や日々の会話からニーズを拾い上げ、QOLの向上を目指すし正職員による医療的ケアの実施については、11月より喀痰吸引が必要な方を対象に正職員2名が行えるよう研修を行った。新人職員についても喀痰吸引等3号研修を受講した為、今後行えるようにしていきたい。支援員の医療的ケアの実施により、現場の看護師と話し合う機会ができ、業務の整理を行うことができたことで支援の幅の拡がりに繋がった。今後は、高度医療的ケアの方が増えることや経管栄養の方が増える事が予測される為、支援員でも出来る事を増やし、他職種と連携していく必要がある。日中一時・短期入所は通所ご利用者を中心に定期的に利用があった。短期入所については、2~3名定期利用があった。新人職員への指導を昨年担当した職員が行い、安全に行うことが出来た。また、宿泊に関しては新規ご利用者がいたため、しっかりとご家庭と引き継ぎを行い、安全に行うことが出来た。

(4) 就労継続支援B型 (リネン、AR5,6)

「働くこと」を支援の柱とし、ニーズに合った働く場の提供や模索、社会生活スキルの向上、社会人としての育ちを個々に応じて支援を展開した。特性や課題に合わせ、作業に取り組む目的を明確にしより意欲的・前向きに取り組めるような支援に努めた。こうした作業を軸とした日々の取り組みが、社会生活面や行動面、感情面でのスキルアップ、さらに自己肯定感や仕事への誇りの獲得といった社会人としての基礎の形成につながっており、成人期の充実を意識しながら支援に努めた。

クリーニング作業では、各自治体の災害用毛布の洗濯やタオル類、病衣などの今まで請け負ったことのない商品の仕事を新たに受け入れ仕事の幅を拡げた。その結果、工

賃の向上だけでなく、各ご利用者の新しい力の発見にも繋がった。引き続き納品時にはご利用者に同行して頂き、社会参加の機会を持ってもらうだけでなくその中でいかに社会から必要とされているか、喜ばれているかを実感して頂き、作業への姿勢にも変化が見られている。品質の高さや柔軟な対応については一定以上の評価を頂いており、新規受注に繋がっているためこのまま維持・向上していきたい。

下請け作業を中心とした軽作業も、新規受注先を開拓することができ仕事が途切れることがないようにしていった。引き続きその時々で条件に合致したものを積極的に受注していき工賃の向上だけでなく、各ご利用者のスキルアップに繋げていきたい。カフェ Be での作業も継続して行っており、地域の人たちと交流もしながら仕事に励んで頂いている。施設外就労も継続して 2 箇所と業務委託契約を結ぶことができただけでなく、新しくビルの清掃の業務委託契約を結ぶことができた。それぞれご利用者個々の強みを活かしながら作業に励んで頂いている。

引き続き、ご利用者 1 人あたりの工賃が維持・向上できるためにも、クリーニング事業・軽作業の新規受注に繋がられるように、日々の仕事を研鑽していく。新規受注だけでなく、施設外就労先の新規開拓も行っていきたい。また、作業スキルだけでなく、社会生活スキル向上のため、土曜日開所日を活用し、場に応じた挨拶や他者との適切な距離感、お金の価値など仕事以外のスキルに対してもスキルアップできるように講座を開き、学びを深めていった。

(5) 全体支援チーム

全体支援チームは、医療・保健に関すること、支援方法に関わること、給食のメニューのこと、送迎や車の保守のこと、植栽管理のこと等、幅広く「ぷれいす Be」の業務全体を間接的に支えている。具体的には以下の通りである。

①全体支援チームでの連携

今年度も嘱託医と協力し、看護師、管理栄養士と作業療法士、サービス管理責任者が、生活習慣、運動、栄養の面からご利用者の健康を促進するプログラム（ヘルスプロモーションプログラム）を実施した。支援員とご家族からの協力を得て、ご利用者の体重の減少や健診結果の改善など、健康な生活に寄与することができた。年 2 回のぷれいす Be カフェコンサートにおいて、全体支援チームが準備運営の中心に行った。そして、多くの職員に手伝っていただくことで、施設全体のイベントとして成功を収めることが出来た。

②看護師

毎月の体重測定、血圧測定を行い、全利用者の健康状態の把握に努めた。短期入所、重症心身障害者の新規利用者を中心にフェイスシートを作成して、医療、支援両面でのフォローができるような情報づくりをおこなった。支援員による医療的ケアを施設で行なえるように実地研修を行ない、今年度は 1 名のご利用者に対して、2 名の支援員が喀痰吸引を行なえる体制を整えることができた。また法人内他施設での医療的ケアの実地研修やご利用者の健康状態の把握と施設への共有を行なった。

③管理栄養士

給食メニュー作りや偏食・アレルギーの対応、個別の栄養相談、食事形態の検討などをおこなった。ご利用者及び職員向けの嗜好調査を実施し、給食の向上に取り組んだ。また、相談支援チームや法人内他施設の職員と連携し、栄養面でのサポートが必要なご利用者やご家族に対し、栄養相談および支援を行った。

④作業療法士

障害者総合支援法における生活介護事業のリハビリテーション加算制度に基づき、リハビリテーション計画と実施をおこなった。また、医療的な視点から他部門、他の事業所職員に対する支援方法の相談支援・福祉用具の導入アドバイスをおこない、ご利用者の生活援助及び職員の支援技術向上に寄与した。

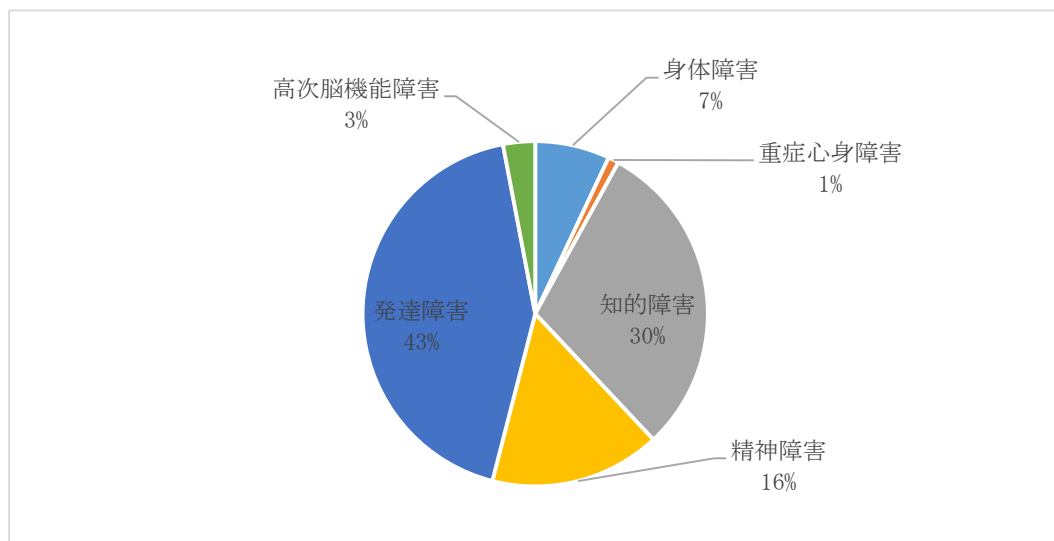
⑤運転士

ご利用者の送迎のほか、車の保守や生産製品の納品、植栽の管理、建物のメンテナンス等をおこなうことで、ご利用者の安全・安息に寄与した。

9. あんだんて

(1) 委託事業について

- ・高槻市知的障害者生活支援事業および島本町知的障害者生活支援事業
＜相談者実人数＞



	実人数	身体	重身	知的	精神	発達	高次脳	その他
高槻市	145	11	2	49	26	72	5	6
島本町	4	0	0	3	0	1	0	0
計	149	11	2	52	37	73	5	7

＜相談支援方法＞（高槻市・島本町合算）

方法	訪問	来所	同行	電話 FAX	メール	個別支 援会議	関係 機関	他	総数
回数	357	503	170	1765	473	114	1472	0	4854

- ・委託事業での相談件数（以下委託相談という）は、新規受付の相談件数及び継続支

援を行っているソーシャルワークニーズの高い相談支援ケース。委託相談扱いのケースでも、半数はサービス等利用計画作成も発展的に実施している。

- ・平成 29 年度の新規相談数は 51 件。このうち、サービス等利用計画作成の依頼相談が 19 件、幅広い相談内容の一般相談が 32 件あった。
- ・新規相談の多くが電話や面談での情報提供で終了するが、そのうち 13 件は何等かの形で継続した委託相談ケースとなっている。
- ・知的障害、発達障害のほか難病や身体障害、精神障害、高次脳機能障害を含み、診断のないケース（発達障害の疑い）もある。4 割が発達障害を占めており、その割合は前年比の倍近い。
- ・発達障害のある方の支援のニーズの多くは、障害理解が中心で、月 1 回程度の定期面談を実施しているケースが多い。

（２）障害支援区分認定調査委託

- ・障害支援区分認定調査実施数 43 件

（３）サービス等利用計画作成

- ・サービス等利用計画（以下計画相談支援）は年度末時点での契約総数 186 件（内、年度内新規契約 8 件、契約終了 5 件。終了理由は介護保険への移行、転居、就労、入所等）。
- ・新規契約数は、サービスの質を維持するために 9 月以降は新規受け入れを一定条件に絞ったため、19 件の計画相談依頼の新規相談があったものの、実際の新規契約は 8 件にとどまった。受け入れができなかったケースについては、委託相談として引き続きサポートをおこなったり他事業所へのつなぎを行った。
- ・委託相談扱いを含めた計画作成は 334 件（前年とほぼ同数）。介護保険への移行、転居、死亡、就労、入所などで 5 件が契約終了。
- ・28 年度に引き続き精神病院からの地域移行を実施（指定地域相談支援）。29 年に無事退院を支援して一人暮らしをスタートすることができ、現在も継続的に支援している

（４）その他

①関係機関との連携強化・発信

- ・wish・あんだんての相談員が集まる相談支援従事者現場会議を継続。円滑な支援のために、情報共有・連携を深めた。
- ・高槻市内相談支援事業所の連絡会「かえるの会」に出席。
- ・自立支援協議会ケアマネ連絡会への出席。
- ・高槻支援学校などで実施されている福祉相談会への出席。
- ・高槻保健所が実施する家族心理教室の運営支援に参加。
- ・就労・生活支援センターとの共有ケースを協議する会議を実施。

②当事者の余暇支援活動

- ・「エンジョイサークル」：高槻市障害者就業・生活支援センターと連携して行っている毎月 1 回の利用者の食事会

③家族支援

- ・相談者へのロングライフサポートの一環として、ゆうちょ財団の金融教育事業を活用した講座「親・きょうだい向けのお金に関するセミナー」を開催。
- ・49名（親45名兄弟1名相談員1名）が参加。
- ・50名の参加者中49名は当事者の親として参加し、8割は50代以上で、60代以上は20名が参加。漠然と何か取り組まないと思っていた方々が具体的に何を取り組むかが見えて安心した、という意見が多数あり、半数の参加者が個別のファイナンシャルプランニングを受けてみたいと回答。反響が大きく引き続き、制度説明や終活セミナーの受講希望があがっている。

10. 生産活動支援部

(1) LaLa-chocolat TAKATSUKI

① LaLa-chocolat 経営会議：毎月1回開催

- ・参加者：主任（高木・中野）、製造リーダー（椿）、販売リーダー（松井・福神）、管理者（木戸）、コンサルタント（関原氏）
- ・会議の内容：
 - LaLa-chocolat 店舗運営についての情報や課題を共有し、課題解決を図ると共に、今後の方向性を検討する。
 - LaLa-chocolat TAKATSUKI 全体の情報や課題を共有し、課題解決を図り、今後の方向性を検討する。

② LaLa 会議：毎月1回開催

- ・参加者：パティシエ、販売スタッフ、支援スタッフ、管理者
- ・会議の内容：
 - 厨房で働いているご利用者の目標の進捗状況の確認と情報共有を行う。
 - 各イベントの事前準備についての報告とコンセプトなどの検討。
 - イベント後に評価点と問題点を挙げ、次回のイベントに向けての課題の整理と対策などを考える。
 - 物販の日程確認と売り上げ目標の確認を行う。

③ ステップ会議：毎月1回開催

- ・参加者：ステップ、施設外就労先（①グリーン特別養護老人ホーム、②レジデンスなさはら）に関わる支援員、管理者、サービス管理責任者。
- ・会議の内容：
 - ステップ、及び、施設外就労先で作業されているご利用者様の支援目標に対する達成度や作業の状況等について職員間で情報交換を図り、目標達成に向けての支援方法の検討や見直しを行った（月次評価）。
 - 施設外就労ご利用者の方に対して、作業能力給支給の為の評価を6カ月に1回実施した（新規ご利用者は、3ヶ月後から作業能力給の支給とな

る)。

- ご利用者様の行動上の問題に対する対応を検討するケース会議やひやりはっと事案の共有を行った。
- 新規受注業務の検討や新しく受注した作業の流れについて検討（エコバック制作など）

④ LaLa 合同会議：毎月 1 回開催

- ・ 参加者：全スタッフ
- ・ 会議の内容：
 - 厨房、施設外就労、出張所で働いているご利用者の目標の進捗状況の確認と情報共有を行う。
 - 次月の勤務の確認

⑤ 販売員ミーティング：不定期開催

- ・ 平成 29 年 8 月 29 日（火）11:00～12:00
 - 集客力向上に向けて、アイデアを出し合い、その優先順位を付けて実施を目指した。
 - 西武高槻店催事販売についてご当地
 - 参加者：高木・松井・福神・鬼頭・村上

⑥ イベント会議：不定期開催

- ・ 母の日、父の日、お中元、ハロウィン、クリスマス、お歳暮、バレンタイン、ホワイトデーなど、ほとんどのイベント毎に会議を開催した。
- ・ バレンタインに関しては、意弁化会議開催の時期は問題なかったものの、話の詰が甘かったところもあったため、次年度は決定事項の期限をきっちり設けて、各担当で責任を持って進めていくこととする。

⑦ ご利用者個々の面談：毎月 2 回実施

- ・ ご利用者全員に月 2 回、担当職員が面談を実施。
- ・ ご利用者ごとに、障がい特性に合わせた個別の面談シートを作成し、面談を実施。面談シートを用いて、個別支援計画の目標の振り返りを行い、目標達成に向けて意欲的に取り組むことができるよう必要な助言や支援等を行う。
- ・ 仕事に関することで、ご利用者が困っていることや悩んでいることがあれば話を聞き、解決するための支援方法を一緒に考えたり、解決策の提案を行う。

⑧ 余暇支援

日程	行き先
6 月 26 日（月）	カラオケ(高槻市内)
7 月 15 日(土)	カラオケ(高槻市内)
10 月 4 日(水)	カラオケ(高槻市内)
10 月 26 日(木)	カラオケ(高槻市内)
3 月 28 日(水)	お疲れさま会(高槻市内)

(2) A 型事業推進室

- ① A型事業推進室会議：平成 29 年 10 月までの毎月 1 回開催
- ・ 参加者：久保・木戸・コンサルタント（関原氏）
 - ・ 会議内容：
 - 就労継続支援 A 型事業の可能性を模索するとともに、就労継続支援 B 型事業での高工賃事業も検討していく。
- ② その他
- ・ 8 月 8 日、「パパの日」（ポップコーンパパ全店でポップコーン全商品を半額にて提供する日）に、久保スタッフが、ご利用者と参加する。
- ③ 余暇支援
- ・ 平成 30 年 3 月 22 日（木）に開催された、株式会社 Dreams の経営計画発表会に、ご利用者 4 名とスタッフ 2 名で参加する。

1 1. ジョブサイトよど

(1) 生活介護事業

①各フロア活動プログラム

i) 5 階

	月	火	水	木	金
AM	ドライブ	散歩	散歩	散歩	散歩
PM		※ エアロビクス			

※エアロビクスは月に 2 回参加。法人全体で実施されたサッカープログラムへも、希望者のみ参加。

ii) 2、4 階

今年度 2 階 4 階では下記の内容にてアンケートによるニーズに基づいて各種取り組みを実施した。

エアロビクスは、事業所全体で参加者を募り、合同で実施。

また、個々のニーズに応じておやつ、ジュースの買物という活動も実施した。

○平日の取り組み

	月	火	水	木	金
第 1 週目	買物	・エアロビクス (毎月 1~2 回)	ウォーキング		スカイクロス
第 2 週目	買物		ウォーキング	カラオケ	
第 3 週目	買物	・創作活動 (毎月 1 回)	ウォーキング		スカイクロス
第 4 週目	買物		ウォーキング	カラオケ	セレクトランチ
第 5 週目					

○土曜開所日の取り組み

	通常作業 オリジン弁当	外食	調理
4 月	23 日		

5 月	21 日	7 日	
6 月			
7 月	16 日		2 日
8 月		20 日	
9 月	3 日		17 日
10 月	8 日	22 日	
11 月		5 日	
12 月	3 日		24 日
1 月	28 日	14 日	
2 月			
3 月		11 日	

iii) 3 階

今年度は作業中心の過ごし方だけでなく余暇プログラムの充実を図ることを目的に以下の通り平日の日中に「選択プログラム」としてフロア毎に様々なプログラムを組み実施した。利用者の方々には、以下のプログラムの中から第三希望まで伺った。

月	火	水	木	金
	エアロビクス (月 1～2 回) ジム (月 1 回)			お茶タイム
プレジャーブック		さをり織り	絵画	お茶タイム
セレクトランチ			ドライブ	お茶タイム
プレジャーブック		さをり織り	ドライブ	お茶タイム

また、土曜開所日についてはより外に出での活動を組み立て、地域にあるお店を活用した。

	カラオケ	外食	調理	おでかけ
4 月		15 日		
5 月	13 日			27 日
6 月				
7 月			8 日	22 日
8 月	8 日	19 日		
9 月	9 日			30 日
10 月			14 日	
11 月				
12 月	23 日	2 日		
1 月			13 日	27 日
2 月		3 日		
3 月	24 日			10 日

iv) エアロビクス

講師に松代和子氏をお招きして、音楽に合わせて楽しく体を動かして体力維持・健康増進・ストレス解消を目的として、昨年 6 月から徒歩で利用のできる場所を年間で予約、2 グループに分け月 2 回第 1、第 3 火曜日午後の約 2 時間実施した。楽しんでおられるご利用者の姿が多くみられた。

会場：dance studio cool

v) サッカー

ジョブサイトよど 5 階から 3 名、ジェイ・ブランチよどから 1 名の計 4 名の利用者が参加した。大会試合には参加できなかったが、事業所合同での練習に参加し、ドリブルやシュートの個別練習や練習試合では、活き活きとした利用者の姿や表情が見られた。

②コロッケ&つくね作業

今年度は売り上げ向上を目指し、フライヤーによる現地での販売、コロッケ弁当の販売、他事業所への内部販売を行った。同時に昨年のコロッケ不足の結果を受けて、製造数を 2 倍にした。売り上げは店舗は昨年度より減少したが、外販の売り上げは増加した。フライヤーは高槻で開催される食の文化祭にて使用し、現地で揚げて販売をした。また、全国生産活動物産展にフライヤーを使用し参加することで 8 万 5 千円の売り上げがあった。つくねはたんぽぽさんの依頼により製造数を減らすこととなったが、つくねに関わることができるご利用者も増えた。

来年度は利用者が自立し厨房作業に取り組めるような構造化が課題である。

③下請け作業

昨年度に引き続いて、数社からの受注作業を確保しつつ、新たな受注も 2 件頂くことができた。受注の仕事は、企業の繁忙期等に左右され安定性に欠けることもしばしばあるが、今年度受注した作業は通年通して安定的に入荷されるため、ご利用者へ安定した仕事の供給と収入に寄与できるのではないかと期待している。

しかし、現状でもご利用者の自立に向けて十分な工賃を支払いできておらず、本年度からは更に工賃額を下げざるを得ない状況となってしまった。今後は、工賃向上に向けた仕事と収入の確保の為に企業との単価交渉も視野に入れてより一層の努力が必要である。

④3 階

今年度は、6 月に新規ご利用者を 2 名受け入れ、合計 12 名となった。

職員体制に大きな変更があったため、ご利用者にも前もって予告を行い安心して通所していただける環境づくりを心がけた。また今年度は事業所から 3 名の職員が P E C S に関する研修に参加する機会があり、絵カードを使ってのコミュニケーション支援にも力を入れて取り組んだ。毎週『お茶タイム』という活動を取り入れ、ご利用者 1 人 1 人に 4 つの選択肢から 1 つ好きな飲み物を選んでいただく機会を設ける等、ご本人の意思決定の場面を意識した。内 1 名は、P E C S ブックを作成し、フェーズ I から順に絵カードでのコミュニケーションの練習を重ね現在はフェーズ V まで進み、絵カードで発信できる部分も増えてきている。

厨房・コロッケ店舗については、今年度新たに 3 名のご利用者がコロッケ店舗での清掃作業や接客作業に取り組まれ、1 名のご利用者が厨房作業に関わる頻度を月 2 回

→毎週に上げる事ができた。一方で、職員体制や店舗内の構造の変化に影響を受け活動の継続が困難になったご利用者もいらっしゃるため、予告支援や構造化、活動に取り組む手順書の作成など、職員が自己研鑽を深めより良い支援が提供できるよう努めていきたい。

⑤ 2，4 階（米戸）

今年度は、1 月に新規ご利用者 1 名を受け入れた。2 月にご利用者 1 名が 5 階フロアに移籍された。両フロア合わせて 11 名となった。

2 階を新設してから 2 年が経過し、両フロアともそれぞれのご利用者の特性に合わせて環境を整えてきた。

今年度は、毎月各フロア 1 回堀内 SV に入っていただき、予期不安軽減のための見通しについての支援やコミュニケーションの特に表出についての支援に注力した取り組みを行ってきた。ご利用者の特性に合わせた視覚的な提示やスケジュールの構成、コミュニケーションカードの活用等を行い、ご利用者が安心して過ごせる環境づくりを目指している。まだまだ、至らない点が多々あるので来年度も継続して取り組みを行いたい。

日中の活動は、授産の作業を中心に組み立てを行った。今年度は改めてご利用者に合った手順書や見本を作り直したことで、作業スピードや仕上がりの向上に繋がった。また、店舗接客に携わることのご利用者の回数が週 1 から週 2 に増えた。店舗接客の仕事にモチベーションを持って取り組まれている。

来年度も日々の関わりを通して利用者のアセスメントや評価を行い、各々が安心して過ごせるように支援方法や環境設定を継続して行っていく。

⑥ 5 階

4 月に 1 名、木曜日のみ利用の新規ご利用者が入られた。2 月に、2 階のご利用者との相性が合わないご利用者 1 名が、環境調整を目的に 5 階にフロア移動になった。両者、情緒の波はある安定して活動されている。

i) ジェイ・ブランチャードグループの報告

ジェイ・ブランチャードでは、新たに 6 名の受け入れを行った。その内訳は、ジョブジョイントおおさかより 1 名、他事業所より 4 名、医療機関より 1 名であった。

また、退所された方は 1 名おられ、平成 30 年 3 月末現在で 23 名の方々が利用されている。

日中活動の組み立ては、主に受注作業と施設外就労で構成しており、ご利用者様のニーズや強みを生かしてそれぞれの活動に参加していただいた。

受注作業については、前年度までの反省を生かし、通年で安定して提供できる作業を中心としてきた。また、同様の基準を満たす作業を 2 件受注し、現在は 6 種類程度の作業を行なっている。発達障害の方の強みである安定した環境で同じ作業を続ける力や経験で学ぶ力等を発揮していただくことで、処理数とともに徐々にではあるが収益の増加に繋がってきている。

施設外就労においては、ビルメンテナンス、コロッケ店舗清掃、津田紙工、かまどや食堂、かまどやチラシポスティング、シュレッダー作業、コロッケ外販などに継続して参加して

いただいた。また、新たに近隣の整骨院の清掃作業や出張デパート（病院で日用品や食品を販売する）の施設外就労を開始した。

双方とも見学会や実習を経て、ご自身の希望により参加していただいております、全員がモチベーションを持って仕事に臨んでおられる。

余暇プログラムについては、施設外就労で不在の方が多いため受注作業が充実していることから平日での実施が難しい為、土曜開所日に設定をしている。

内容としては、外食・図書館・カラオケ・DVD鑑賞会・和紙の創作活動等であり、1回の土曜開所日につき複数の活動を提案し、ご利用者に選択の上、参加していただいている。ご利用者様から「選べるからうれしい。」との声も聞かれ、楽しんで参加されている様子がうかがえた。

余暇活動に対する要望は高い為、次年度以降も活動の幅を広げながらご利用者様のニーズに応えていきたいと考えている。

ジェイ・ブランチなどでは、ご利用様が安心して活動することができるよう施設外就労・事業所内での作業・余暇活動等いずれの場面においても環境を整えとともに、個々の障害特性の理解とそれに基づく支援に努めてきた。まだまだ不十分な点も多々あるので、今後も継続して取り組みを進めていきたい。

課題としては、引き続き作業収益の低さが挙げられる。受注作業や施設外就労の増加に伴い収益は増加傾向にあるものの、目標とする工賃の支給には不十分な額である。工賃の平均額1,0000円を達成することができるよう新規開拓や単価や時間給の交渉、生産性の向上を目指していく必要がある。同時にそれらを達成するために職員の業務の在り方や体制、支援スキル等も併せて改善していかなければならないと考えている。

ii) 施設外就労

(津田紙工)

業務委託契約を結び会社内作業現場での作業を実施して2年半が経過した。新たな施設外就労先（かまどや食堂）が出来たことから、参加ご利用者をかまどや食堂に1名シフトし昨年2月より新たに2名の利用者が参加。通勤方法も公用車で送迎していたが、送迎スタッフ調整が難しくなってきた事と自力通勤も今後の社会生活には必須である事から昨年度2月より最寄り駅（十三駅）より徒歩通勤に変更し現在も継続中である。先方からの信頼度も更に高まり、出来高工賃から時給制への変更交渉をし、了解を得ることが出来た。（変更時期は調整中）

作業スキルも大きく向上し日々の処理数も開始当初に比べ約40%向上した事で工賃UPにつながる実績のひとつとなった。

(POSTかまどや)

大阪北郵便局内POSTかまどや食堂の就労は週4回に増えスタッフ4名が交替で同行し、就労ご利用者は実習終了の1名を新たに加えて5名となった。作業内容は「洗い場」か「拭き・片付け」に固定ではなく、強みを生かして両作業取り組めるよう支援し、うち2名がスキルアップした。

結果、就労日数が増えても対応できている。また下膳の少ない時間帯は洗い場内の美化作

業に取り組んで「ブランチさんが来たらきれいになっている」と現場で喜んで頂いている。暑くて寒い厨房内の仕事だが、社会参加と障害理解のために今後もしっかりと継続していく。

(フルカウント)

29 年度より介護施設や障害者の入所施設に訪問販売している(株)フルカウントより仕事を頂き大阪市大正区にある北斗クリニックの訪問販売を 1 回にご利用者 2 人と職員 1 名で行っている。1 日 2 時間半程度で 5 千円を給料として週 1 回実施している。

iii) ビルメンテナンス

(堀内、カワバタメンテ)

(浜崎メンテ)

今年度も以前より取り組んでいる堀内ビルメンテナンス(月 2 回: 第 2、第 4 月曜日)と河端ビルメンテナンス(毎週月曜日)を継続して実施した。

河端ビルメンテナンスの参加利用者については、年度途中から 2 名を増員し、作業箇所も新たに増やしている。また、個々のスキルに合わせて清掃箇所や作業内容の見直しを行い、より個々のスキルを発揮していただけるように支援を行った。

堀内メンテでも新たに 1 名の利用者の方に参加頂き、従来参加されていた利用者の方は別の施設外就労先へシフトした。今後も、ご利用者がより自立して作業を行えるように、手順書の改訂や、作業環境の調整を行っていく。

iv) かまどやポスティング

本家かまどや店舗がフランチャイズになり、本部通達での配布配分となった。

部数が 800 から 1000 枚で、ほぼ 1 部構成でのポスティングに変更となっている。減少傾向ではあるが、配布エリアを絞り、今年度も継続して活動を行ってきた。工賃収入としては減少だが、地域内で交流できる機会を得る仕事として、またご利用者の強みを生かせる作業なので今後も継続していく。

v) 河端クリニックシュレッダー

河端クリニックより保管期限 5 年を経過したカルテ、検査結果などの書類の細断処理の委託を受け、約 2 年半が経過した。

参加ご利用者も開始当社から変わらず女性 2 名で作業を行っている。

作業分担も書類のホッチキス外し作業、シュレッダー作業(ゴミ袋交換含む)と利用者の得意、不得意で効率の良い方法で分担し定着している。

年度途中から 2 回/月から毎週に回数を増やし少しでも利用者の方の参加機会を増やす事と作業費請求額を増やす事とした。

(3) よどのコロッケ事業

① コロッケ事業の詳細報告

i) 関わる利用者数(総勢 27 名が、コロッケの何らかの仕事に関わった)

a. 生産部門(ジョブサイトよど 4 階厨房)

10 名(毎日 3、4 人がローテーションで生産している。)

b. 販売部門(店舗、外販)

店舗は午前1名、午後5名（月・火・水・木・金）

外販は12名の中から交代で1～2名ずつ参加している。

予約販売配達には12名の中から2～3名ずつ参加している。

c. 店舗へのコロッケ配達、冷凍バッグ引取り

8名（全てのフロアの比較的障害の重い方がメイン）

d. コロッケ配達（予約販売配達4地区）

・淀川地区 ・豊中地区 ・平野区地区 ・高槻地区

12名の中から交代で当番（重度の方がメイン）

e. 店舗清掃（よどのコロッケ店舗にて）

3名の方がローテーションで実施。

ii) 販売形態

a. 店舗

b. 卸販売

c. 福祉施設予約販売

d. 外部販売

e. 内部販売

iii) 販売先

a. 法人内事業所ジョブサイトよどの給食

b. 福祉教育関係（ハーブクラブ、デリカテッセンイーハトーヴ、無門福祉会、そらの風、豊中のぞみ会、第2みらい、NAGOMI、工房モコ、ワークセンター豊中、豊中市役所、糸をかし、加島希望の家、愛光保育園、エルムおおさか、その他）

c. 外販先

（アオクスル祭り、きらきら祭り、十三中学校、十三市、研修センター、マルシェ高槻ジャズストリート（2日間）、豊中支援学校、十三小学校夏祭り、さをり祭り、ヒルトン大阪、みてあーと、カフェBeコンサート、食の文化祭、淀川河川敷フェスティバル西栄寺、御堂筋バザー、大阪医療大学、西区そよかぜ祭り、淀川で踊ろう区民センター、長居障がい者スポーツセンター、全国生産活動、大阪市役所、大阪府庁、博愛社、藍野花園病院、大阪市立中央体育館車椅子バスケットボール大会、第2みらい文化祭、ミディマルシェ、カフェbeコンサート、その他）

d. イベント

日程	イベント名
4月	アオクスル祭り、マルシェ、十三市、研修センター、十三中学校、大阪府庁
5月	高槻ジャズストリート（2日間）マルシェ、大阪府庁、研修センター、御堂筋バザー、ヒルトン大阪、十三中学校、藍野花園病院、きらきら祭り
6月	マルシェ、十三市、大阪府庁、研修センター、十三中学校、博愛社、

7 月	マルシェ、豊中支援学校、十三市、大阪府庁、研修センター、河川敷フェスティバル（プレ）、十三小学校盆踊り
8 月	マルシェ、長居障がい者スポーツセンター、大阪府庁、さをり祭り、
9 月	十三市、研修センター、大阪府庁、十三中学校、大阪役所、御堂筋バザー、カフェ B e コンサート、お月見マルシェ、
10 月	長居障がい者スポーツセンター、十三中学校、研修センター、大阪府庁、マルシェ、食の文化祭
11 月	みてあーと、全国生産活動（2 日間）、藍野花園病院、大阪医療大学、十三中学校、大阪府庁、西区そよかぜ祭り、淀川で踊ろう区民センター、マルシェ、
12 月	研修センター、長居クリスマスのつどい、大阪府庁、十三市、十三中学校
1 月	研修センター、大阪府庁、十三市、十三中学校、
2 月	大阪府庁、十三中学校、大阪市立中央体育館車椅子バスケットボール大会、第 2 みらい、研修センター
3 月	カフェ b e コンサート、大阪府庁、十三中学校、十三市

iv) 利用者への工賃額 498,050 円（山本）

v) 年間売上げ 2,559,760 円（山本）

利用者保健行事

i) 健康診断

前期 平成 29 年 7 月 19 日（水） 13：30～

後期 平成 30 年 2 月 21 日（水） 13：30～

（内容）内科診察、血圧測定、身体測定、血液検査

※血液検査は前期のみの実施

「かわばたレディースクリニック」へ出向き実施した。

ii) レントゲン撮影

平成 29 年 9 月 20 日（水）14：00～

（内容）オリエンタル労働衛生協会に依頼し、ジョブサイトよど玄関前で撮影。

iii) インフルエンザ接種

平成 29 年 11 月 15 日（水）河端レディースクリニックに出向き接種。

iv) 歯科検診、歯石除去

前期 平成 29 年 10 月 12 日（木）13：30～

後期 平成 30 年 3 月 8 日（木） 13：30～

（内容）いずみ歯科医院から来所いただき、アーリーアーク 303 号室で実施。

① 避難訓練実施日

- ・ 8 月 17 日（木）火災想定 ・ 10 月 23 日（月）地震想定
 - ・ 12 月 11 日（月）火災想定 ・ 2 月 22 日（木）地震想定
- 避難場所：ジョブサイトよど→淀川区役所

職員研修

○内部研修

日付	研修内容	講師	対象者
4/6(木)	全体会（事業計画について）	田端	全体
4/12(水)	自閉症の特性と支援方法について	中山 s v	全体
5/10(水)	デマンドの使い方と節電について	日本テクノ	全体
6/14(水)	自立課題①（意味と作成例）	中山 s v	全体
7/12(水)	自立課題②（評価と再構造化）	中山 s v	全体
8/9(水)	P E C S のフィードバック	倉窪/河原/奥平	全体
9/13(水)	コミュニケーション支援の実際	中山 s v	全体
10/11(水)	職員のメンタルヘルスについて	坂下氏	全体
11/8(水)	救命救急/A E D	消防	全体
12/13(水)	就労移行支援から就 B へ来る理由	J J	全体
1/10(水)	衛生講習（食中毒について）	中央フードサー ビス	全体

○内部 SV 研修（堀内さん S V）

日付	午前フ ロア	SV 内容	午後 フロ ア	SV 内容内容
4/3(月)	3F	ご利用者のスケジュールと仕事内容の予告について	3F	ご利用者のスケジュールと仕事内容の予告について
4/10(月)	2F	新規採用職員への障害特性についての説明	2F	授産作業の課題分析について
4/17(月)	2F	トランジションカードの活用の仕方について	2F	コミュニケーションカードの活用について
4/18(火)	3F	言葉の概念の説明と関係機関との連携について	3F	言葉の概念の説明と関係機関との連携について
5/1(月)	4F	視覚情報の整理について	厨房	空間に視覚的な目印を設定することについて
5/8(月)	3F	新規ご利用者の作業・スケジュール準備と評	2F	スタッフボード改善案について

		価の視点		
5/15(月)	ブラン チ	スケジュールの活用について	ブラン チ	スケジュールの活用について
5/22(月)	4F	ご利用者のスケジュール変更について	厨房	ご利用者のスケジュールとワークシステムについて
5/29(月)	3F	新規ご利用者の作業・スケジュール準備と評価の視点	2F	ご利用者のスケジュール変更・資格情報の整理
6/5(月)	ブラン チ	構造化について（個別のケース）	ブラン チ	構造化の具体的な提案
6/12(月)	4F	ご利用者のワークシステム改善・手順書等への助言	厨房	ご利用者のワークシステムと手順書について
6/19(月)	3F	ご利用者のスケジュール改訂について	2F	スケジュールとワークシステムの関係性について
6/26(月)	ブラン チ	職員の利用者対応の仕方について	ブラン チ	職員の利用者対応の仕方について
7/3(月)	4F	ご利用者の買物手順書について	厨房	ワークシステム・交渉の際の視覚提示方法について
7/10(月)	3F	時間の構造化について	2F	作業のジグについて・コミュニケーションカード使用について
7/24(月)	ブラン チ	特定の人に対する興味が強い方の支援について	ブラン チ	再構造化を進めることについて
7/31(月)	4F	ご利用者のスケジュールについて・活動内容追加についての助言	厨房	ご利用者さんのワークシステムについて（作業と作業の流れ）
8/7(月)	3F		2F	声のボリュームを調整するための支援について
8/21(月)	ブラン チ	職員の支援の実際を観察し、それについての助言	ブラン チ	職員の支援の実際を観察し、それについての助言
8/28(月)	4F	ご利用者の作業方法・行動などについての相談・助言	厨房	ご利用者さんのワークシステムについて（作業と作業の流れ）
9/4(月)	3F	ご利用者の意思決定支援について	2F	コミック会話の活用について
9/11(月)	ブラン チ	新盤 K 式発達検査	ブラン チ	検査のフィードバック
9/25(月)	2 階	ご利用者の意思聞き取	厨房	ご利用者さんのワークシステム

		り支援について		について（作業と作業の流れ）
10/2(月)	3F	エリザベスさんへのケース検討に向け相談	2F	作業の課題分析と手順書について
10/23(月)	4F	ご利用者の意思の表出について	5F	Y本さん降所対応、Y井さん対応
10/30(月)	3F	P E C Sでのコミュニケーション支援について	2F	ご利用者の日々の支援についての相談
10/31(火)	ブランチ	新盤 K 式発達検査	ブランチ	検査のフィードバック
11/6(月)	ブランチ	職員の支援の実際を観察し、それについての助言	ブランチ	職員の支援の実際を観察し、それについての助言
11/13(月)	4F	玄関でのこだわり行動改善について	5F	Y井さん他害
11/20(月)	3F	ご利用者に提示した期間のない視覚提示の整理方法	2F	執拗にスタッフの名前を呼ぶご利用者の支援について
12/4(月)	4F	形骸化したスケジュールの見直しについて	2F	相性のよくないご利用者の関係調整について
12/8(金)	ブランチ	新盤 K 式発達検査	ブランチ	フロアにてご利用者相談/検査を保護者へ報告
12/11(月)	3F	スケジュール・ワークシステム・手順書の組み立てについて	5F	Y本さん降所対応
12/18(月)	ブランチ	新盤 K 式発達検査	ブランチ	フロアにて検査の概要をフィードバック
12/25(月)	4F	ご利用者の他害行動についての助言	5F	
1/15(月)	2F	ご利用者のパターン化した行動についての相談	3F	発語やコミュニケーションの概念について
1/22(月)	ブランチ	積極型の方のコミュニケーション支援(コミック会話など)	ブランチ	作業のモチベーションが低下した場合の支援について
1/29(月)	4F	支援計画進捗についての助言等	5F	Y本さん降所対応
2/5(月)	3F	ご利用者の近況報告・スケジュールの作成	2F	ご利用者の体調の表出・スケジュールについての相談

2/19(月)	ブラン チ	1Fフロアご利用者対応 と課題の抽出	ブラン チ	1Fフロアの環境の整理につい て
2/26(月)	4F	ご利用者の行動につい ての助言	5F	Y本さん降所対応、U田さんス ケジュール変更
3/5(月)	3F	ご利用者の現状報告と 手順書の作成について	2F	コミュニケーション・意思決定 についての助言
3/12(月)	ブラン チ	フラッシュバック時の支援 について(スケジュールを活 用)	ブラン チ	ご利用者の相談にのる(気にな るご利用者について)
3/19(月)	2F	ご利用者の現状報告、 助言	5F	実施せず(堀内さん別の依頼で 来られず)
3/26(月)	3F		4F	ご利用者の現状報告、助言

○外部研修

日付	時間	研修内容	講師(主催)	参加者
		ご利用者のスケジュールと 仕事内容の予告について		
		新規採用職員への障害特性 についての説明		
4/18(火)		言葉の概念の説明と関係機 関との連携について		
5/13(土)	14:00～ 16:00	問題行動の理解と対応	中山清司(自閉 症 e サービス)	熊谷・段・宮崎・若 松
5/27(土)	14:00～ 16:00	事例検討①氷山モデル	竹内恒(ふれい す Be)	熊谷・段・宮崎・若 松
6/7(水)	14:00～ 16:00	感染症・食中毒予防対策講習 会	大阪府健康医 療部食の安全 推進課 技師 小林紗江	隅田
6/10(土)	14:00～ 16:00	事例検討②支援の実施	山根和史(萩の 杜)	熊谷・段・宮崎
6/12(月)	14:45～ 17:30	①第4次大阪府障がい者計 画について	大阪府障害福 祉室障がい企 画課調整グル ープ総括主査 北村孝史氏	田端
		②これからの FUKUSI を共に	一般社団法人	

		作る (人材確保、定着、育成)	「FACEtoFUKUS I」 池谷徹氏	
6/17(土)	10:00～12:00	基礎講座「評価から支援へ」	真船亮(自閉症eサービス)	米戸
6/24(土)	14:00～16:00	事例検討③	山根和史(萩の杜)	熊谷・段・宮崎・若松
7/3(月)	12:30～16:30	全国自閉症支援者協会総会 発達障害者支援法の改正を 踏まえての今後の課題と展 望	高木美智代衆 議院議員	田端
7/11 (火)	13:00～16:00	職員の育成・定着について	関西福祉科学 大 学 津田耕一氏	田端
7/7 (金)	14:00～15:30	食品衛生講習		隅田
7/15, 16	終日	PECS ワークショップ	ネグロン 氏	倉窪・河原・奥平
7/24 (月 9)	9:00～18:00	セルフ部会施設見学会研修	社会福祉法人 よさのうみ福 祉会	段
7/29(土)	10:00～12:00	基礎講座「コミュニケーション」	丸田富美代氏	米戸
8/1(火)2(水)	10:00～17:00	てんかん講座	日本てんかん 協会(主催)	倉窪
9/8 (金)	終日	強度行動障害支援者養成研 修	大阪府障がい 者自立相談支 援センター	奥平
9/10, 11	終日	SDMワークショップ	シェア・ニコレ ソン デビー・ノーレ ス	奥平
9/14 (木)	13:00～16:00	食品成分表示	大阪社会福祉 協議会	段・長谷川
9/15 (金)	終日	強度行動障害支援者養成研 修	大阪府障がい 者自立相談支 援センター	奥平
9/26(土)	14:00～16:30	基礎講座「自閉症の特性理 解・ペアレントーク」	中山清司氏	佐伯、松岡、藤原、 米戸

9/29 (金) . 30 (土)	終日	北海道はるにれの里コラボ セミナー	はるにれの里	河原、段
10/3 (火)	13:30 ~ 15:30	第2回職員研修	豊中市社協 勝部麗子氏	河原
10/18(水)	14:00 ~ 18:00	FACEtoFUKUSHI	みらいず	河原、宮崎
10/28 (土)	14:00~ 16:30	基礎講座「構造化のアイデア」	佐々中雄平 氏 (ハニカム)	佐伯、松岡、藤原、 米戸
11/1, 2	終日	全国自閉症支援者協会研究 大会	全国自閉症支 援者協会	奥平
11/8 (木) 9 (金)	10:30 ~ 17:10 9:30 ~ 12:30	全国生産活動・就労支援部会	日本知的障害 者福祉協会	段
11/10 (金)	13:00 ~ 17:00	FACEtoFUKUSHI	みらいず	河原、宮崎
12/1(金)	17:10 ~ 20:00	本人の意見を尊重した個別 支援計画の作成	石田晋司氏	奥平、段、米戸
12/7 (木)	9:00 ~ 16:00	淀川区社会福祉施設連絡会 施設間交流	加島希望の家	米戸
12/4(月)	9:00 ~ 17:30	強度行動障害支援者養成研 修		倉窪
12/12(火)	13:00 ~ 15:00	FACEtoFUKUSHI	みらいず	河原
12/14(木)	8:45 ~ 17:30	事業所間交流研修	ふれいす B	米戸
12/18 (月)	16:00 ~ 18:00	FACEtoFUKUSHI	みらいず	河原
1/23 (月)		FACEtoFUKUSHI	みらいず	河原
1/24 (火)	8:45 ~ 17:30	事業所間交流研修	an	河原
3/1 (木)	8:45 ~ 17:30	事業所間交流研修	ララショコラ	段
3/13 (火)	14:00~ 16:00	食品成分表示	大阪府	藤原・隅田

11. ジョブジョイントおおさか・ジョブジョイントおおさか たかつきランチ

(1) 自立訓練（生活訓練）事業の実施状況の報告

実施したプログラム内容は、下記の通りである。

プログラム名	内容
オフィスワーク	PC入力、オフィス周辺業務
トライワーク	軽作業・清掃・施設外での活動等
マイタイム	①プログラム内での宿題や自分に必要なグッズの作成 ②就職活動に関わる事の準備 (プロフィール、履歴書、職務(実習)経歴書、ジョブマッチングシートの作成等)
体力アップ	就労に必要な体力をつけることを目的としたプログラム
自分を知る勉強会	自閉症スペクトラムの特性理解と得意・苦手なことの整理、自分でできる工夫や対処法の検討、コミュニケーションゲーム等
就活実践講座	ビジネスマナーの学習・ロールプレイ等
リラクゼーション講座	感情についての学習と自分のリラックス法を見つける
ライフスキル倶楽部	社会人としての必要なスキルについて学習（グループワーク）と実践を組み合わせ、楽しみながら学びを深める
土曜クラブ（月1回程度）	3チーム程度に分かれて、レクリエーション活動をする（おでかけ、アート、料理、アウトドア、スポーツ等）
特別プログラム（不定期開催）	企業実習(個別)、企業見学、企業研究講座、プレゼンタイム、面接会対策セミナー、先輩のはなし、おもしろ専門講座

(2) 就労移行支援事業の実施状況の報告

実施したプログラム内容は、下記の通りである。

プログラム名	内容
オフィスワーク	PC入力、オフィス周辺業務
トライワーク	軽作業・清掃・施設外での活動等
自立活動	個別活動（スケジュールをもとに清掃や作業課題、サーキットなどを自立して行う）
体力アップ	就労に必要な体力をつけることを目的としたプログラム
リラクゼーション講座	感情についての学習とプレジャーブックの作成
マナー講座	大人としての基本的なルール・マナーを楽しみながら学ぶ
ライフスキル倶楽部	社会人としての必要なスキルについて学習（グループワーク）と実践を組み合わせ、楽しみながら学びを深める
土曜クラブ（月1回程度）	3チーム程度に分かれて、レクリエーション活動をする（おでかけ、アート、料理、アウトドア、スポーツ等）
特別プログラム（不定期開催）	大人の社会見学、先輩のはなし、おもしろ専門講座

(3) 就労支援に関わる活動報告

①会社見学・大人の社会見学の実施

働くことを具体的にイメージできるよう、就労移行支援の方には「会社見学」を、自立訓練の方には「大人の社会見学」を実施し、たくさんの方の見学の機会を提供した。実施

した内容は以下のとおりである。

平成 29 年度 会社見学			
1	JR 西日本あいウィル	5/23	18 名
2	ダイキンサンライズ摂津	6/28	12 名
3	東京海上ビジネスサポート	8/29	19 名
4	GS ユアサウイング	9/6	13 名
5	SMBC グリーンサービス	11/6	20 名
6	エルアイ武田	11/29	15 名

平成 29 年度 大人の社会見学			
1	インスタントラーメン記念館	5/22	20 名
2	大阪市下水道科学館	6/20	15 名
3	明治工場見学	8/28	21 名
4	ダスキン中央工場	10/30	14 名
5	白洋舎	12/18	7 名
6	アサヒビール工場（十三のみ）	2/27	5 名
7	松栄堂（TB のみ）	2/19	7 名

②ワーク＋サービスの実施

ジョブジョイントおおさかのオリジナルサービスとして、継続的に実施をしてきた。実施状況は下記の通りである。

十三	法人内	39 件（内：単発 15、毎月 24）
高槻	法人内	70 件（内：単発 9、毎月 61）
合同	法人内	6 件（内：単発 4、毎月 2）
十三	法人外	14 件（内：単発 2、受託：12）
高槻	法人外	42 件（内：単発 1、受託 18、施設外 23）
合同	法人外	14 件（内：単発 2、施設外 12）

③職場実習の実施

就労へのイメージづくりと実習先企業からのフィードバックによる利用者の成功の体験、課題の整理と明確化、実体験による新たな気づきを経た自己理解の促進等を実習のねらいとして実施を行った。また、就労移行支援事業の全利用者の方には 1 回以上の実習を提供し、就労への推進に向けて実習の取り組みを強化してきた。実習の実施状況は下記の通りである。

平成 29 年度 職場実習（ジョブジョイントおおさか）		
1	カナエフーズ	製造業務
2	TMBS	事務作業
3	リバース	軽作業
4	リバース	軽作業

5	カナエフーズ	工場
6	トキワ印刷	軽作業
7	シャープ特撰工業	軽作業
8	クロックワークスタジオ	名刺入力・軽作業
9	リバーズ	軽作業
10	クロックワークスタジオ	名刺入力・軽作業
11	FPI	事務作業
12	クロックワークスタジオ	名刺入力・軽作業
13	トライ	事務作業
14	JAE	事務作業
15	ジオリゾーム	事務作業
16	FPI	事務作業
17	エムツープレスト	軽作業
18	のら	野菜の仕分け
19	シャープ特撰工業	軽作業
20	エムツープレスト	軽作業
21	エムツープレスト	軽作業
22	カトレヤ松坂屋高槻店	飲食
23	FPI	事務作業
24	JAE	事務作業・データ入力
25	JAE	事務作業・データ入力
26	クボタ	事務作業
27	クボタ	事務作業
28	アーバンリサーチ	事務作業
29	JAE	事務作業
30	シャープ特撰工業	事務作業・清掃

平成 29 年度 職場実習 (たかつきブランチ)		
1	マラカナ	ユニホームのプリント
2	カナエフード	卵製品の製造補助
3	J F R クリエ	事務軽作業（郵便物仕分け、清掃、リボン作り）
4	J F R クリエ	事務軽作業（郵便物仕分け、清掃、リボン作り）
5	J F R クリエ	事務軽作業（郵便物仕分け、清掃、リボン作り）
6	明治スポーツプラザ	清掃

7	あしすと阪急阪神	事務軽作業
8	JR 西日本あい威尔	事務軽作業（帳合、他）
9	カナエフード	卵製品の製造補助
10	トーマツチャレンジド	事務補助（郵便物仕分け、清掃、PC セットアップなど）
11	トーマツチャレンジド	事務補助（郵便物仕分け、清掃、PC セットアップなど）
12	法人本部	事務補助
13	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
14	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
15	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
16	JAE	事務補助（アンケート入力、他軽作業）
17	カナエフード	卵製品の製造補助
18	クリエ	データ入力、他
19	テルウエル西日本	事務補助
20	スタンハート	PC 入力作業（実績入力等の請求関係の業務）、書類チェック等
21	しんあい	清掃、介助補助等
22	パナソニックエコシステム共栄	製造補助
23	ジオリゾーム	事務補助（データ入力など）
24	LIXIL ビバホーム	バックヤード、品出し、他
25	LaLa ショコラ	軽作業
26	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
27	ドコモ・プラスハーティ	事務所、食堂の清掃
28	FPI	事務仕事
29	FPI	事務仕事
30	Luna	事務仕事
31	J フロンフーズ（たづむら）	洗い場（食器洗浄、食器仕分けなど）
32	寺谷さんのアトリエ	軽作業
33	法人本部	経理の仕事
34	ダイキンサンライズ摂津	部品の製造
35	ダイキンサンライズ摂津	部品の製造
36	リバース	電話機の清掃
37	リバース	電話機の清掃
38	ANA ウィングフェローズヴィ王子	書類の電子化作業
39	トーマツチャレンジド	テープ起こし、PC セットアップ、

		事務補助、他
40	立命館ぶらす	清掃
41	立命館ぶらす	清掃
42	JAE	アンケート入力 (500 件)、他
43	すみでんフレンド	緩衝材詰め、観葉植物の手入れ、他
44	ダイキンサンライズ摂津	部品の製造
45	ダイキンサンライズ摂津	部品の製造
46	はーとびあ	介護補助作業
47	FPI	事務仕事
48	アウトソーシングビジネスサービス	事務仕事
49	ドコモハーティ	清掃業務
50	トキワ印刷	印刷補助
51	積水ハウス	事務補助
52	法人本部	事務仕事
53	ANA ウィングフェローズヴィ王子	書類の電子化作業
54	ANA ウィングフェローズヴィ王子	書類の電子化作業
55	有馬リネンサプライ	洗濯物の仕分けなどリネンサプライ工場内の作業
56	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
57	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
58	エムツープレスト	抜き取り、ゴミ取り、梱包、他
59	JAE	アンケート入力 (100 件)
60	リバーズ	電話機の清掃
61	OTT ロジスティックス	ピッキング

④就職者の状況

就職者の一覧は下記の通りである。

平成 29 年度 就職者 (ジョブジョイントおおさか)		
1	合同会社オフィスぼん	4 月～
2	ANA ウィングフェローズ・ヴィ王子 (株)	4 月～
3	(株) カナエフーズ	6 月～
4	(株) エムツープレスト	7 月～
5	(株) WDI JAPAN	7 月～
6	東京海上ビジネスサポート (株)	8 月～
7	スターマインド (株)	11 月～
8	(株) 良品計画	2 月～
9	(株) Francfranc	3 月～

平成 29 年度 就職者（たかつきブランチ）		
1	トーマツチャレンジド（株）	6 月～
2	（株）ダイキンサンライズ摂津	7 月～
3	テルウェル西日本（株）	8 月～
4	（株）カナエフーズ	8 月～
5	介護老人保健施設しんあい	9 月～
6	（株）LIXIL ビバ ビバホーム伊丹店	9 月～
7	（株）J フロントフーズ 鶴群梅田店	10 月～
8	（株）ドコモ・プラスハーティ	11 月～
9	労働者健康安全機構 関西労災病院	2 月～

④企業向けの意見交換会

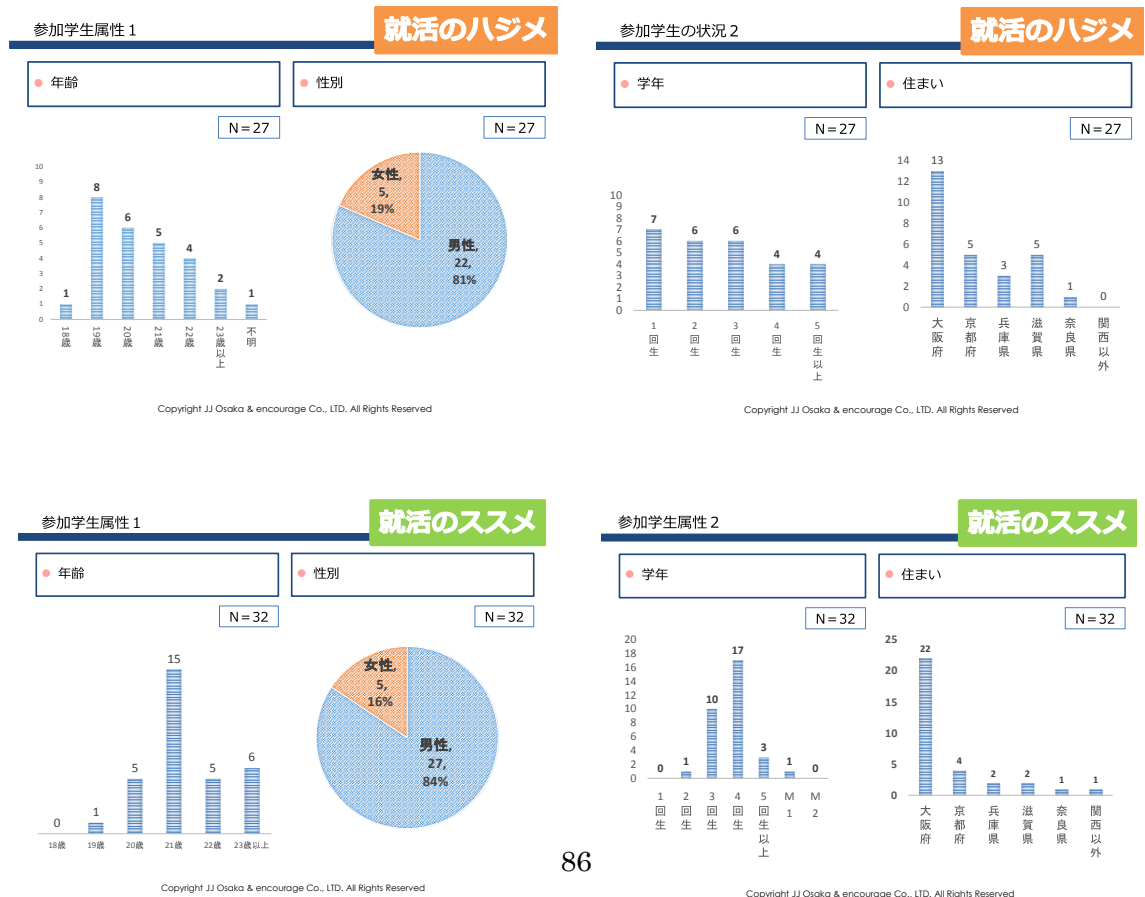
就職先の企業の方を対象に定期実施している意見交換会。実施状況は、一覧は下記の通りである。

平成 29 年度 意見交換会		
1	4 月 17 日	12 名
2	9 月 27 日	15 名
3	2 月 15 日	6 名

（４）発達障がい学生のための就職支援プログラムの実施報告

①参加学生について

以下のとおり、就活のハジメ 32 名、就活のススメ 27 名の学生に参加があった。



参加学生属性 3

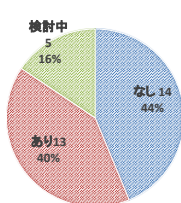
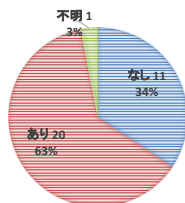
就活のススメ

● 発達障害の診断の有無

● 障害者手帳

N = 32

N = 32



Copyright JJ Osaka & encourage Co., LTD. All Rights Reserved

発達障害学生支援（インターンシップ）のあゆみ

夏・春の長期休暇中に インターンシッププログラムとして実施							2014年度より学生の登録制・年間を通しての プログラムとして実施					
	2012 春 (2012年度)	2012 夏 (2012年度)	2013 春 (2013年度)	2013 夏 (2013年度)	2013 秋 (2013年度)	2014 春 (2014年度)	2014 年度 合計	2015 年度 合計	2016 年度 合計	2017 年度 合計	合計	
実施	33社前さか × インサイト						33社前さか エンカレッジ × インサイト	33社前さか × インポイント				
学生	—	—	—	—	—	—	1期：30名 2期：12名	22名 24名	前年度より27名 33名 37名	前年度より27名 33名 32名	311名	
企業	3社	17名 前年度より10社増	37名 前年度より20社増	20名	7名	10名	16名	14名	23名	25名	22名	
	3社	11社 前年度より2社増	23社 前年度より12社増	15社	6社	10社	16社	14社	19社	22社	20社	
参加学生のうち、インターンシップに参加した人数												159社

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved

②プログラム・インターンシップの概要

下記の通り、1 年間の中で「就活のハジメ」「就活のススメ」それぞれにプログラム提供を行った。

また、毎年実施してきた長期休みを活用したインターンシップを夏休みに実施。22 名の学生が参加し、20 社の企業にご協力いただいた。詳細は以下のとおりである。

働くチカラ342/EC5

発達障害コミュニケーションが苦手な大学生のための

働くチカラPROJECT

全学年対象

E 9 4 回生・院生対象

就活の
ハジメ

就活の
ススメ

働くチカラPROJECTとは・・・

発達障害のある大学生やコミュニケーションの苦手な大学生のための就職必須プログラムです。就職活動に不安を感じている方、働くイメージがつかない方、K 方におすすめる。

働くチカラ342/EC5のポイント

ビジネスマナー・人間関係のルールを学ぶことができます！

社会人になる前に 7 社会人として必要なビジネスマナーを具体的に学ぶことができます。



周りの人とのコミュニケーションの取り方を実践！

コミュニケーションが苦手な方も基本を学んだ上でグループワークやロールプレイを行う練習を行います。



自分に合った仕事を見つけたいための「自己理解」と「企業研究」

インターンシップや講義を通じて自分の得意なことや苦手なことの整理を行います。



仲間ができて！

同じような苦手を持つ仲間とグループワークや協同して活動することで 7 気の合う仲間ができています！



就活のハジメ

全学年 対象

就活のハジメは、これからの就職活動に向けての「準備講座」となっています。社会での基本的なビジネスマナー、ビジネスコミュニケーションを学び、また、自分自身の理解を深め、自分にあった仕事や働き方をみつけていく準備を始めます。

全 3 回			
1回目：コミュニケーション講座	2回目：ビジネスマナー講座	3回目：自己理解講座	
概 要			
日程	1期	2期	
※いずれも土曜日	2017年 ①11/11 ②11/18 ③11/25	2018年 ①2/17 ②2/24 ③3/3	
時間	1コマ 3時間 (14:00～17:00)		
参加者数	15名	12名	
参加費	1期につき 10,800円 (税抜)		
会場	ジョブジョイントおおさか たかつきランチ		

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved

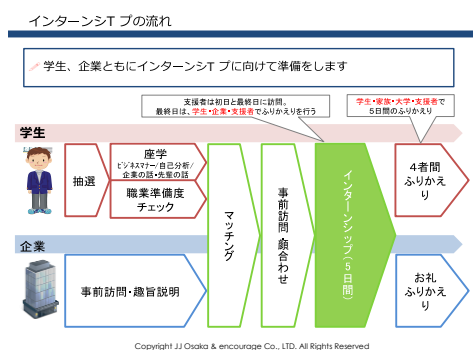
就活のススメ

3・4 回生・院生 対象

就活のススメは、就職活動のための1 基礎講座2 となっています。オプションメニューとして、企業でのインターンシップがあり、1 働くことの実践経験を積むことができます。原学とインターンシップを通して、自分に合った仕事や働き方のイメージを学べます。

メインプログラム (※いずれも14:00～17:00)		オプションメニュー(0・1・255に、加可)	
第3回	6月4日 (土) オリエンテーション、先輩の話・企業の話	7月	職業準備度チェック
第4回	7月9日 (土) ビジネススキル講座	8月	インターンシップ (7日間)
第5回	8月6日 (土) 自己理解講座	9月	
第6回	9月3日 (土) 面接対策講座	10月	ふりかえり面談・進路相談
第7回	10月1日 (土) コミュニケーション講座		企業見学 (東京府とビジネス、大阪府とビジネス)
第8回	11月19日 (土) キャリアプランニング・修了式		オアシスメンバーシップ、バカ、バカ式
対象	3・6 回生・院生・短大・専門学校卒業生		
参加者数	39 名		
参加費	32,400円 (税込)		
会場	第3 回 エルおおさか (大阪市内)		
第4 回～	京都・高槻・本町 (各会場に分かれて実施)		
条件	会員登録制		
対象	オアシスメンバーシップを希望する方 (0 か 255に、加可)		
参加者数	22名 6名		
参加費	21,600円 (税込) 2,160円 (税込)		
参加条件	オアシスメンバーシップに加入している方		
参加費	オアシスメンバーシップに加入している方		

Copyright JJ Osaka & encourage Co., LTD. All Rights Reserved



企業の業種、インターンシップの業務内容（一例）

～ 企業の業種 ～

環境活性化学、神社・仏閣用振与品製造販売、電子機器・部品製造販売、たい
焼き製造販売、レンタル着物、IT教育事業、生活介護事業、電気工事・コンサ
ルタンW・メンテナンス業、ボトブローン製造販売、清掃管理・ビルメンテナ
ンス、お弁当販売、鉄道の特例子会社、WEB・システム開発 など

～ インターンシップの業務内容 ～

データ入力、伝票整理、FE イリング、発送準備、値付け、入力確認、原稿校
正、社内便仕分け、集配サポートW、バリエーション、部品の検品、清掃、グラフ作
成、総務事務、電話対応、宛名書き、名刺仕分け、名刺入力、バリエーション、た
い焼き製造、着物のアイロン、デブラシル作成、プログラミング、仕様書の
作成、リサーチ業務、データ分析 など

Copyright JJ Osaka & encourage Co., LTD. All Rights Reserved

評価表の記入

評価基準
5:セールスポイント 4:できる 3:努力が必要 2:サポートが必要 1:できない
*評価できる場面がなかった場合は、「-（評価なし）」

ソフトスキル評価
（挨拶、マナー、清潔感、態度など）

業務スキル評価
（実際にあった業務に対する評価）

総合評価
（5日間を通しての評価）

Copyright JJ Osaka & encourage Co., LTD. All Rights Reserved

ソフトスキルの評価項目

4分野、合計14の評価項目から「現在の職業準備性」を双方から評価

スタミナ・生産性	スタミナ	社会性	身だしなみ
	生産性の安定		マナー・ルールの遵守
	集中力		チームワーク
職業行動	意欲	コミュニケーション	あいさつ・返事
	時間・スケジュールの意識		指示理解
	精度の維持		報告・質問
	作業効率の意識		言葉遣い

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved

（５）その他の活動に関わる報告

①見学会の開催

下記の通り、新規利用者確保に向けて、十三・高槻で毎月1回の頻度で事業所の見学会を開催した。

平成29年度 事業所見学会			
【十三】		【高槻】	
日付	参加者	日付	参加者
4月25日	9名	4月11日	6名
5月23日	2名	5月9日	4名
6月27日	11名	6月13日	2名
7月25日	0名	7月11日	12名
8月29日	7名	8月8日	4名
9月27日	6名	9月12日	6名
10月24日	3名	10月10日	0名
11月28日	7名	11月14日	4名
12月26日	5名	12月12日	4名
1月23日	6名	1月9日	7名
2月27日	13名	2月13日	2名
3月27日	12名	3月13日	2名

②就職者（OB）向けのソーシャルクラブの実施

OB同士の交流や意見交換が行えるよう、OB向けのソーシャルクラブ（ジョイふるJJ）を実

施した。

今期は、新しい企画として夕方から夜まで事業所を解放して溜まり場的に集まってもらえるよう「じょぶよる」と題して実施。軽食とお酒・ジュース等を用意し、ゲームをしたり、雑談をしたりと自由に過ごしてもらえる機会を提供した。

平成 29 年度 ジョイふる JJ		
日付	内容	参加者
4/15	MT：上半期の予定	14 名
5/12	じょぶよる	11 名
5/20	生駒山遊園地	14 名
6/17	好きなもの・趣味の発表	16 名
7/1	カラオケ	13 名
8/5	花火大会	18 名
9/9-10	キャンプ（1 泊 2 日）	10 名
9/16	プラネタリウム	8 名
10/13	じょぶよる	8 名
10/28	MT：下半期の予定	17 名
12/16	忘年会	19 名
1/20	趣味の発表、アナログゲーム	15 名
2/3-4	城崎温泉旅行（1 泊 2 日）	16 名
3/3	今年度の振り返り	12 名

③家族ミーティングの実施

ご利用者のご家族を対象に、家族間の交流と勉強会を兼ねて家族ミーティングを定期的に開催した。毎回、20～25 名程度のご家族にご参加いただき、お父さんのご参加も一定数あった。実施内容は下記の通りである。

平成 29 年度 家族ミーティング			
	日付	テーマ	参加人数
1	5/30	J J おおさかについて	20 名
2	7/22	障がい特性について	17 名
3	9/16	就労支援の仕組みについて	22 名
4	1/20	お子さんの生活面、将来について	26 名
5	3/3	障がい特性について	23 名

④利用者保健行事の実施

i) 健康診断

【十三】

前期 平成 29 年 10 月 4 日（水）13：30～@ジョブジョイントおおさか
参加利用者：17 名

後期 平成 30 年 3 月 14 日（水）13：30～@ジョブジョイントおおさか
参加利用者：13 名

※かわばたレディースクリニックに委託

(内容) 内科診察、血圧測定、身体測定、血液検査

【高槻】

前期 平成 29 年 9 月 28 日 (木) 29 日 (金) 10:15～@愛仁会

参加利用者：25 名、20 名

※レントゲン、内科診察、血圧測定、身体測定、血液検査

後期 平成 30 年 3 月 23 日 (金) 13:30～@たかつきブランチ

参加利用者：35 名

※香川クリニックに委託

(内容) 内科診察、血圧測定、身体測定、血液検査

ii) レントゲン撮影 (十三のみ)

平成 28 年 10 月 19 日 (水) 13:00～@淀川健康管理センター

⑤防災訓練の実施

【十三】

前期 平成 29 年 9 月 27 日 (水) 10:30～、火災、19 名

後期 平成 30 年 2 月 28 日 (水) 13:30～、火災、17 名

【高槻】

前期 平成 29 年 10 月 11 日 (水) 11:00～、火災、31 名

後期 平成 30 年 2 月 28 日 (水) 11:00～、地震、26 名

(実施内容) ・各活動場所からの避難経路と手順の確認をした

・集合後の利用者の安全確保と指示命令系統の確認をした

・通報訓練 (冷静に必要な事項を伝える練習を行う) をした

⑥内部研修の実施

全スタッフを対象に以下の内部研修を実施した。

日付	研修内容	講師
4/26	事業計画・アクションプラン	星明
7/19	行動指針の検討 (第一回)	星明
9/6	行動指針の検討 (第二回)	星明
11/15	ノースカロライナの報告	星明
3/7	システムティックインストラクション	坂本、本部
3/28	行動指針の検討 (第三回)	星明

正規職員を対象に星明ゼミ (勉強会) を開催した。

日付	研修内容	講師
11/8	個別支援計画の作成	星明
12/19	障害福祉制度の理解	星明
1/10	障がい者雇用制度と助成金	星明
1/24	会議・ミーティングの進め方	星明
2/7	東大ゼミ (障がい者のリアルに迫る)	星明

3/28	定着支援事業と報酬改定	星明
------	-------------	----

13. アクトおおさか

(1) 相談支援

①発達障がい児（者）及びその家族等に対する相談・発達支援と情報提供

実支援人員 982 人 延支援件数 1,605 件

個別支援のための調整会議 延実施回数 15 回 延参加機関数 31 機関

②発達障がい者及びその家族等に対する、就労に関して必要な相談等による支援

実支援人員 256 人 延支援件数 1,089 件

個別支援のための調整会議 延実施回数 52 回 延参加機関数 149 機関

(2) 機関コンサルテーション

①相談支援に関する機関コンサルテーション：399 件

②就労支援に関する機関コンサルテーション：41 件

(3) 関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修

実施回数 39 回 延参加者数 1,937 人

(4) 連絡協議会及び調整会議の開催

発達障がい者支援センター連絡協議会 延実施回数 2 回 延参加機関数 33 機関

関係機関との調整会議 延実施回数 14 回 延参加機関数 183 機関

(5) 発達障がい者地域支援マネージャー事業

市町村名	訪問回数	参加機関数（延べ）	参加人数（延べ）
豊中市	6	72	101
高槻市	7	71	93
岸和田市	5	43	57
門真市	6	54	136
羽曳野市	10	127	222
摂津市	5	41	82
太子町	9	49	105
泉佐野市・田尻町	6	99	103
計	54 回	556 機関	899 人

(6) 大阪府ペアレント・サポート事業

①ペアレント・トレーニングインストラクターの養成

i) 養成研修

日程	講師
1 クール目 9 月 25 日（月） 9 月 29 日（金）	プール学院大学 教授 永井 利三郎 氏 畿央大学教育学部現代教育学科 准教授 古川 恵美 氏 社福）北摂杉の子会児童発達支援部 部長 谷岡 とし子 氏
2 クール目 11 月 17 日（金）	

11月24日(金)	
-----------	--

ii) 養成研修受講者数

	市町村	受講者数		市町村	受講者数		市町村	受講者数
1	枚方	4名	7	交野	1名	13	高槻	1名
2	泉佐野	2名	8	河内長野	1名	14	松原	1名
3	茨木	2名	9	熊取	1名	15	富田林	1名
4	東大阪	2名	10	四條畷	1名	16	羽曳野	1名
5	豊中	2名	11	吹田	1名	17	太子	1名
6	柏原	1名	12	泉大津	1名	18	島本	1名

②ペアレント・メンター事業

i) 今年度活動実績：21件

	派遣日	派遣依頼元	対象	派遣メンター (所属団体)
1	6月19日(月)	大阪府立砂川厚生福祉センター総務企画課	支援者	福田 啓子 氏 (一社)大阪自閉スペクトラム症協会)
2	7月4日(火)	アクトおおさか	支援者	佐々木 知美 氏 (ポレポレネットワーク) 石田 絹子 氏 (のびのびキッズ)
3	9月15日(金)	アクトおおさか	支援者	野村 路代 氏 (オアシス)
4	10月2日(月)	豊中市こども未来部こども相談課	ご家族	平川 亜希 氏 (SONET)
5	10月19日(木)	茨木市こども育成部保育幼稚園総務課	支援者	磯崎 忍 氏 (おたふく会)
6	10月26日(木)	豊能町教育委員会教育支援課	ご家族	馬場 直美 氏 (ピュア)
7	10月30日(月)	松原市福祉部子ども未来室	支援者	古川 直子 氏 (はぐくみ)
8	11月16日(木)	豊能町教育委員会教育支援課	ご家族	竹澤 澄子 氏 (おたふく会)
9	11月20日(月)	アクトおおさか	支援者	伊藤 雅子 氏 (はぐくみ)
10	11月24日(金)	寝屋川市福祉部障害福祉課	ご家族	石田 絹子 氏 (のびのびキッズ)

11	11月29日(水)	大阪府立砂川厚生福祉センター	支援者	加藤 多美子 氏 (はなしのぶ)
12	12月4日(月)	大阪府立砂川厚生福祉センター	支援者	奥 美貴子 氏 (オアシス)
13	12月6日(水)	大阪府立砂川厚生福祉センター	支援者	加藤 多美子 氏 (はなしのぶ)
14	1月17日(水)	豊中市こども未来部こども相談課	ご家族	よつば もこ 氏 (一社)大阪自閉スペクトラム症協会)
15	1月22日(月)	アクトおおさか	ご家族 支援者	古川 直子 氏 (はぐくみ)
16	2月8日(木)	大阪府／社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	支援者	加藤 多美子 氏 (はなしのぶ)
17	2月14日(水)	四條畷立児童発達支援センター	支援者	植木 嘉代 氏 (おたふく会)
18	2月26日(月)	大阪府／社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	支援者	野村 路代 氏 (オアシス)
19	2月26日(月)	泉佐野市・田尻町基幹相談支援センターあいと	支援者	古川 直子 氏 (はぐくみ)
20	2月27日(火)	大阪府／社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	支援者	福田 啓子 氏 (一社)大阪自閉スペクトラム症協会)
21	3月7日(水)	池田市子ども・健康部	ご家族	加藤 多美子 氏 (はなしのぶ)

ii) ベーシック研修、交流会、スキルアップ研修の実施

日程	実施内容	講師
7月4日(火) 7月11日(火)	ベーシック研修 (新規メンター養成) ※4日午後は公開講座 として実施	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 人間教育専攻臨床心理士養成コース 准教授 小倉 正義 氏 大阪大学キャンパスライフ健康支援 センター 准教授 望月 直人 氏
2月24日(土)	スキルアップ研修	大阪大学キャンパスライフ健康支援 センター 准教授 望月 直人 氏
2月24日(土)	メンター交流会	

iii) ペアレント・メンター事業運営委員会の実施

第1回目：7月20日(木) 第2回目：2月20日(火)

平成29年度大阪府ペアレント・メンター事業運営委員会 名簿

	所 属	氏 名
--	-----	-----

メンター（関係団体）代表	大阪 LD 親の会「おたふく会」	石本 アツ子
	一般社団法人 大阪自閉スペクトラム症協会	福田 啓子
	自閉症の人のバリアフリーを考える親の会はぐくみ	古川 直子
学識経験者	プール学院大学 教授	永井 利三郎
	大阪大学キャンパスライフ健康支援センター 准教授	望月 直人
発達障がい者支援センター	大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか	松上 利男
		柳屋 美香
		岩城 望
行政	大阪府福祉部障がい福祉室地域生活支援課	田中 忠
		岡本 勝之
		丸山 奈緒

14. 児童発達支援部

【こども相談支援センターwish】

（1）計画相談の報告

① 計画相談の実数

延べ 97 件（内新規ケース 7 ケース、相談事業所の変更受け入れ 3 ケース）

② 意思決定支援への取り組み

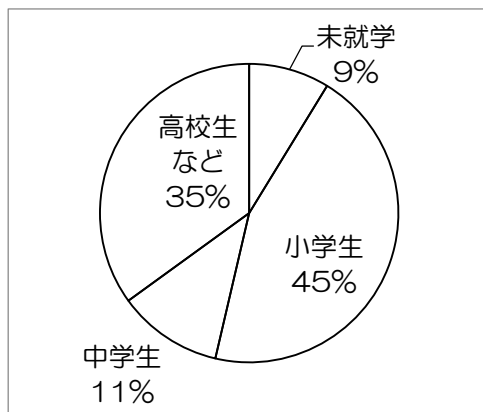
- ・ご本人にサービス担当者会議に参加して頂いての会議を実施。会議に参加して頂くにあたり、事前に見通しを持てるよう確認を行った。
- ・ご本人が会議に参加することが難しいケースにおいては、事前にご本人の意向を確認し、保護者のニーズのみならず、ご本人のニーズとして会議に反映することができた。

（2）障がい児相談の報告

① 平成 29 年度の相談実数

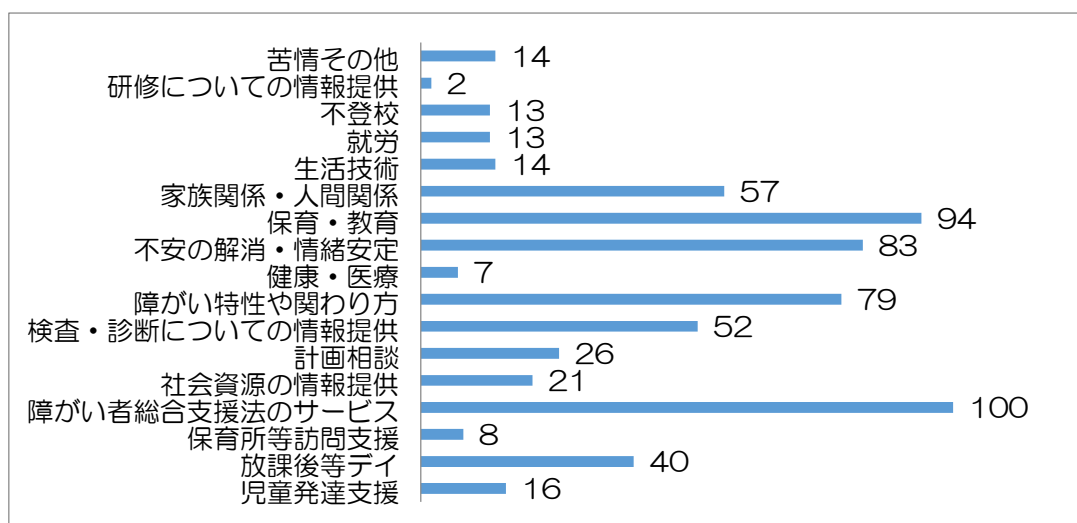
実人員 127 名、343 名（延べ支援人数）

【相談対象者】



障がい種別については、発達障がいの診断を受けている方が、半数を占めている。未診断の方の相談は、3 割程度占めている。

【支援内容】



・相談の内容は、学校での相談が多く、学校でのトラブルや支援方法、学校への伝え方についての相談が主であった。学校で上手く過ごすために学校との調整等、発達障がいへの理解や支援方法についての周知が地域の課題として挙げられる。

・相談者は、保護者からの相談が 3 分の 2 を占めているが、関係機関、学校や事業所からの相談が 3 分の 1 占めた。

② 今後の課題

・相談のニーズから、やはり学校との連携や支援方法についての相談が多いため、いかに教育との連携の強化が図れるよう、地域課題として市にあげていきたいと考えている。

(3) 連携強化

① 高槻市の自立支援協議会への参画及び市との連携

i) こどもワーキング

・年間 5 回参加

・子どもを取り巻く関係者の連携の構築ができていない、地域の学校との連携が課題としてあがり、夏休みに支援学校（高槻・茨木・摂津）の先生を対象に、福祉制度やサービスについての研修会を実施。先生たちに福祉制度を知ってもらういい機会となり、平成 30 年度も引き続き行う予定である。

・連携を図るための連携シートを作成。連携シートの活用においては、平成 30 年度にモデルケースで実施して検証を図る。

ii) ケアマネジメント連絡会

・児童の地域課題として、「通学支援」「不登校」「医ケアの支援」について上がったが、「医ケアの支援」以外は個別の課題という結果となり、地域での取り組みまで進まなかった。引き続き、地域での課題を抽出し、ご本人や保護者が過ごしやすいよう検討を進めていく必要がある。

・情報共有チームにも所属し、相談支援事業所として必要な研修について企画検討し、年 2 回、相談支援事業所のスタッフに向けての研修を実施した。

iii) 高槻市障がい児相談支援事業所連絡会

・月 1 回、子ども未来課児童発達支援事務所と障がい児相談支援事業所を含めた連絡会を実施。市の動向や放デイの情報等共有を図った。

② 相談支援事業所との連携

・月 1 回、障がい児相談支援事業所と勉強会を実施。ケース検討や放デイ等の地域の情報交換、地域課題に向けての検討等を行った。相談支援は孤立してしまいがちな点があるため、法人を超えて同じ悩みの共有が図れ、横のつながりの大切さを実感し、今後もネットワークを深めていきたい。

③ 法人内事業所との連携

・あんだんと隔月に 1 回のペースで、会議を実施。18 歳以降の引継ぎのケース、サービス提供事業所の情報共有等を行っている。

・新澤伸子氏による年 4 回ケース検討の SV を実施。ケースを進めるにあたり、第 3 者の意見を聞けること、的確なアドバイスを頂けることで、メンタル面におけるサポートにも繋がり、相談支援を進めていくにあたり心強かった。

④ その他

・高槻市保健所主催の家族教室の協力事業所として、年間通して家族教室の運営や進め方について学ぶ機会を得た。

【サポートセンターPASSO】

(1) 申込み及び利用者の状況について

①新規申込み及び新規利用決定者の数（定員 10 名程度）

市町村名	29 年度新規申し込み者				29 年度新規利用決定者				
	学齢児		中高生		学齢児		中高生		決定者数
	男	女	男	女	男	女	男	女	
大阪市	4	1	0	2	3	0	0	1	4
高槻市	2	0	5	0	2	0	1	0	3
吹田市	2	0	1	0	1	0	0	0	1
茨木市	1	0	1	0	1	0	1	0	2
豊中市	0	0	2	0	0	0	0	0	0
箕面市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
枚方市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寝屋川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堺市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
守口市	0	0	1	0	0	0	1	0	1
松原市	0	0	1	0	0	0	1	0	1

合計	9	1	13(2)	計 23	7	0	4	1	計 12
----	---	---	-------	------	---	---	---	---	------

平成 29 年度療育事前申し込み住居別一覧

市町名	人数	%	市町名	人数	%
大阪市	22	45.8%	寝屋川市	1	2.1%
高槻市	13	27.1%	東大阪市	1	2.1%
茨木市	3	6.3%	守口市	1	2.1%
枚方市	2	4.2%	合計	49	
門真市	2	4.2%			
吹田市	1	2.1%			
箕面市	1	2.1%			
豊中市	1	2.1%			
堺市	1	2.1%			

① 29 年度利用者(新規利用者+継続利用者の数)

市町村名	新規利用決定者				継続利用者				利用者総数
	学齡児		中高生		学齡児		中高生		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
大阪市	3	0	0	1	1	0	6	3	14
島本町	0	0	0	0	0	0	2	0	2
高槻市	2	0	1	0	1	0	9	4	17
吹田市	1	0	0	0	0	0	2	0	3
茨木市	1	0	1	0	0	0	1	1	4
豊能町	0	0	0	0	0	0	1	1	2
豊中市	0	0	0	0	0	0	1	0	1
箕面市	0	0	0	0	0	0	1	2	3
枚方市	0	0	0	0	1	0	0	0	1
寝屋川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
藤井寺市	0	0	0	0	0	0	1	0	1
泉大津市	0	0	0	0	0	0	2	0	2
守口市	0	0	1	0	0	0	0	0	1
松原市	0	0	1	0	0	0	0	0	1
高石市	0	0	0	0	0	0	0	1	1

合計	7	0	4	1	3	0	26	12	計 53
----	---	---	---	---	---	---	----	----	-------------

② 利用者の所属機関(53 名)

小学校	中学校	支援学校 中等部	支援学校 高等部	高等支援 学校	公立・私立 高校	単位制・通信 制高校
9	23	2	6	4	7	2

③利用終了者で本人相談を利用している方

市町村	男	女	合計
高槻市	3	0	3
島本町	1	0	1
泉大津市	1	0	<u>1</u>
			合計 5 名

④利用終了者で本人相談を利用している方の所属先

支援学校高等部	就労継続 B 型	専門学校	大学	在宅
1	1	1	1	1

(2) 療育の利用率

【契約内容】

	児童発達	放デイ	全体
契約定員（名）	0	53	53
年間延べ回数	0	954	954
年間必要回数	上限（一人：18 回以上）		
1 日定員	上限（1 日 10～12 名）		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達（名）	放課後デイ （名）	全体（名）	利用率 （%）
4 月	0	60	60	98%
5 月	0	69	69	96%
6 月	0	92	92	102%
7 月	0	96	96	95%
8 月	0	92	92	101%
9 月	0	87	87	109%
10 月	0	93	93	92%
11 月	0	99	99	94%
12 月	0	69	69	117%
1 月	0	87	87	102%
2 月	0	87	87	97%
3 月	0	83	83	115%
年間合計	0	1014	1014	

月平均	0	84.5	84.5	102%
-----	---	------	------	------

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) PASSO くらぶ 参加者

	男	女	合計
科学発見 くらぶ	2	1	3
料理製作 くらぶ	0	6	6
合計	2	7	9

(4) 就労準備プログラム 参加者

	男	女	合計
JJ 実習体験	2	3	5
企業実習体験	2	1	3
合計	4	4	8

(5) 保護者研修について

①入門講座 年間プログラム (12名)

■日 時：全5回、2017年6月から12月まで実施

■会 場：大阪市淀川区民センター

	開催月	テーマ	参加者
第1回	6月	自閉症の特性の理解と支援	9
第2回	7月	家庭で大切にしてほしい支援 PASSO療育より	12
第3回	9月	思春期をどう乗り越える？ 医療、友人関係、性、進路を考える	10
第4回	11月	自己理解と告知について考えよう	11
第5回	12月	自立支援と就労（キャリア教育！就労準備前訓練） ～将来を見据えて今、大切な事～福祉制度を知ろう	12

■ 保護者研修「入門講座」参加率表

	参加予定	参加者	出席率 (%)
--	------	-----	---------

6 月	11	9	82%
7 月	12	12	100%
9 月	12	10	83%
10 月	12	11	92%
11 月	12	12	100%
年間利用率	71	54	91%

②フォローアップ講座 年間プログラム (20 名)

■ 日 時：全 6 回、2017 年 7 月から 12 月まで実施

■ 会 場：大阪市淀川区民センター

	開催月	テーマ	参加者
第 1 回	7 月	人とのかかわりやコミュニケーションにおける課題について～講義とグループワーク～	18
第 2 回	9 月	人とのかかわりやコミュニケーションにおける取り組み～P A S S O 実践紹介とグループワーク～	16
第 3 回	11 月	進路選択や自己理解支援について①～講義とグループワーク～	19
第 4 回	12 月	進路選択や自己理解支援について②～実践紹介とグループワーク～	15
第 5 回	1 月	～公開講座～性教育と先輩お母さんお話	15
第 6 回	2 月	茶話会～学校との連携～	15

■ 保護者研修「フォローアップ講座」参加率表

	参加予定	参加者	出席率 (%)
6 月	20	18	90%
9 月	20	16	80%
11 月	20	19	95%
12 月	20	15	80%
1 月	20	15	75%
2 月	20	15	75%
年間利用率	120	98	83%

(6) 療育相談について

【来所相談件数】

※学校など関係機関が PASSO 来所され相談された件数含む(費用は保護者負担)

相談者	利用児	外来一般相談	合計
保護者	33	25	58
小学校	(5) * 先生も来所	0	(5)

中学校	(9) *先生も来所	0	(9)
高校	(4) *先生も来所	(2) *先生も来所	(6)
本人	72	22	94
合計	105	47	<u>152</u>

(7) 発達検査について

【検査件数】

	利用児	外来検査	合計
TTAP	11	5	16
VinelandⅡ	5	0	5
PEPⅢ	0	0	0
WAISⅢ	0	0	0
合計	16	5	<u>21</u>

(8) 訪問相談

相談者	療育児	合計
小学校	0	0
中学校	0	0
高校・大学	0	0

(9) 紹介状作成

相談者	療育児	一般相談
中学生	0	0
高校生	0	0

(10) 普及啓発事業

①研修実施状況

実施日	内容	対象者
2018. 1. 22	「公開講座」～先輩お母さんの話～ 「性教育と進路選択」	29年度療育保護者/一般 21名/10名 → <u>合計 31名</u>

②見学受入状況（療育児以外）

保護者	学校職員	施設職員	大学生	合計
5	0	0	0	<u>5</u>

(11) 学校など関係機関連携加算件数(制度を使つての療育見学と支援目標の共有)

相談者	療育児	合計
小学校	5	5
中学校	10	10

高校・高等部	2	2 総合計 17
--------	---	----------

【 PASSO 公益事業 】

(1) 教育委員会より委託研修

講師派遣先		累計件数
研修先	高槻市小学校・中学校・教職員研修	18 件
	摂津市小学校・中学校・教職員研修	23 件
	豊能町小学校・中学校・教職員研修	6 件
研修合計		47 件

① 高槻市教育委員会

i) 巡回相談

小学校 2 校、中学校 1 校、延 11 回

ii) 4 回連続講座 29 年 5 月 26 日、6 月 16 日 6 月 23 日、7 月 7 日

iii) テーマ別実技研修「自立課題作り」「自立活動」29 年 8 月 4 日午前・午後

iv) 実践報告会 30 年 2 月 16 日

③ 摂津市教育委員会

i) 巡回相談

小学校 4 校、中学校 2 校 延 18 回

ii) 基礎講座 「自閉スペクトラム症の特性とわかりやすい環境」

「自立課題を作ろう」

29 年 5 月 12 日、6 月 30 日

iii) テーマ別実技研修「自立課題」29 年 8 月 3 日、10 月 6 日 2 講座

iv) 実践報告会 30 年 2 月 23 日

④ 豊能町教育委員会

i) 巡回相談

小学校 1 校、延 4 回

ii) 基礎講座 「自閉スペクトラム症の特性と自立活動」 29 年 6 月 28 日

iii) テーマ別実技研修 「自立活動」 29 年 7 月 28 日

(2) 講師派遣単発研修

講師派遣先		日程
研修先	主催：大阪府立東淀川支援学校 対象：教員（東淀川・淀川・西淀川区内の市立幼・小・中・高）（40 名） 内容：自閉スペクトラム症の子どもたちが得意なこと、苦手なこと	7 月 25 日
	主催：高槻市立阿武野中学校 対象：教員（20 名） 内容：自閉スペクトラム症の生徒の理解とその支援	8 月 23 日

	主催：大阪府立吹田高等学校 対象：教職員(30名) 内容：発達障がいについて 発達障がいを持つ学生の支援についての事例	11月21日
研修合計		3件

(3) 淀川区子育て支援事業(平成29年度 大阪市淀川区委託事業)

■会場：大阪市淀川区役所

① 親子講座

	開催月	テーマ	参加者
第1回	7月	夏休みの宿題といえど！工作に楽しくチャレンジ♪ ～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	1
第2回	8月	いっしょにあそぼう★おやこで楽しめたのしく、リトミック♪ ～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	5
第3回	12月	メリー★クリスマス おやこで楽しく、クリスマス会 ♪～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	5
第4回	1月	おやこで楽しく、お正月遊び ～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	2

●ピアカウンセリング

- ① 実施回数：41回実施
- ② 実施期間：5月26日～3月16日
- ③ 実施曜日：金曜日

●一時保育

- ① 施回数：12回実施（ピアカウンセリング・親子講座・座談会の時に実施）
- ② 実施期間：6月30日～3月2日
- ③ 実施曜日：金曜日

【児童デイサービスセンターan】

①利用決定者内訳

	利用決定者	
市町村名	未就学児	学齢児
大阪市	53	27
合計	53	27

②療育の利用率

【契約内容】

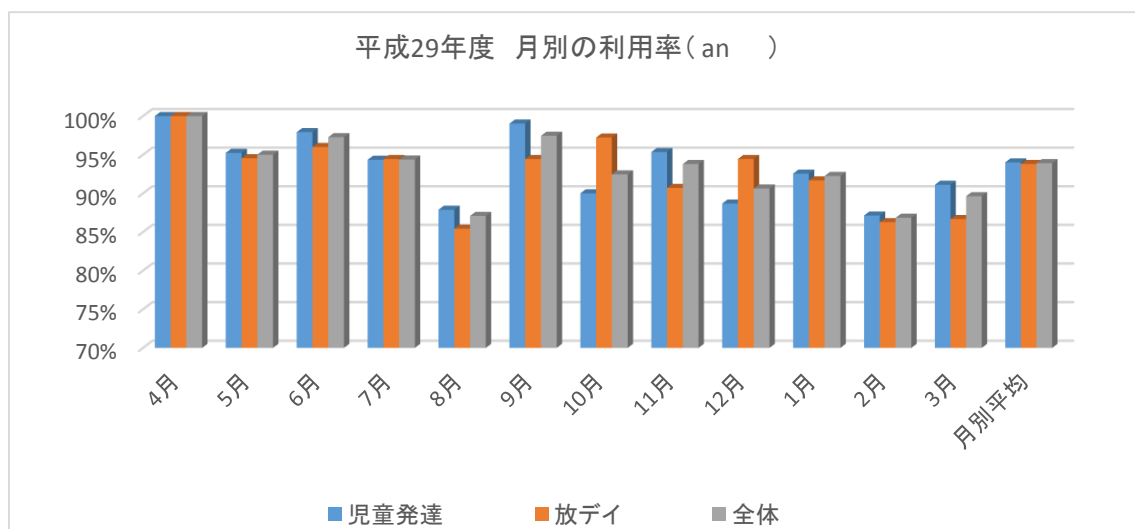
	児童発達(名)	放課後デイ(名)	全体(名)

契約定員（名）	53	27	80
年間延べ回数	1060	540	1600
年間必要回数	上限（一人：20回）		
1日定員	上限（1日10～12名）		

【月別・事業別の利用率表】

延べ人数	児童発達（名）	放課後デイ（名）	全体（名）	利用率（％）
4月	53	27	80	100%
5月	100	52	152	95%
6月	47	24	71	97%
7月	100	51	151	94%
8月	87	41	128	87%
9月	102	51	153	97%
10月	63	35	98	92%
11月	82	39	121	94%
12月	94	51	145	91%
1月	87	44	131	92%
2月	88	44	132	87%
3月	82	39	121	90%
年間合計	815	415	1483	92%
月別平均	67	35	124	94%

【月別・事業別の利用率グラフ】



（3）保護者研修について

①年間プログラム（80名）

■日 時：月1回、全10回、2017年5月から2018年3月まで実施

■会 場：淀川区民センター・日本研修センター

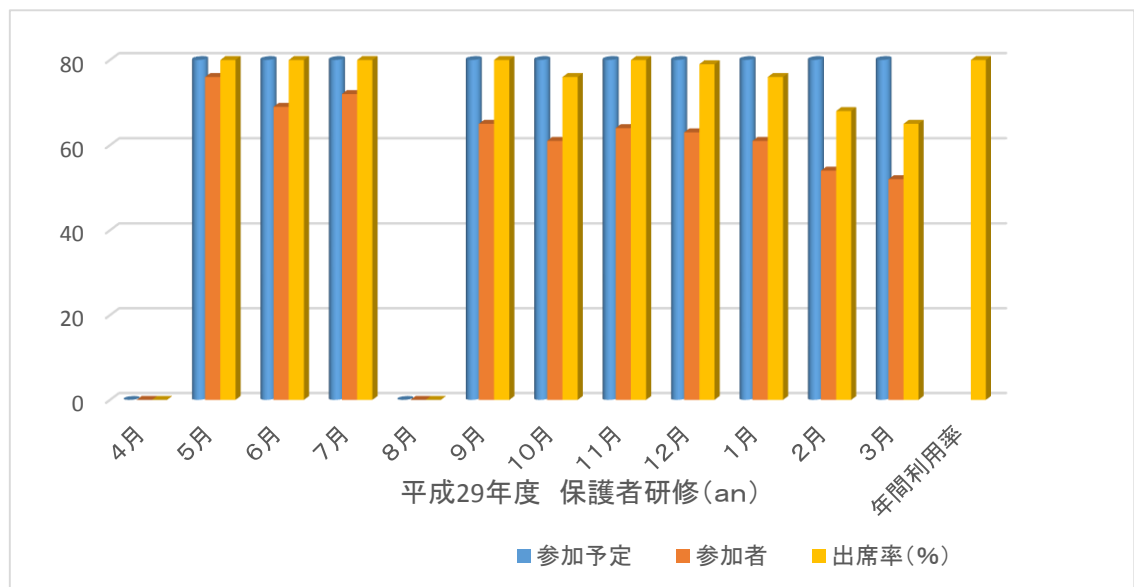
	開催月	テーマ	研修内容
第1回	5月	オリエンテーション	療育や保護者研修の進め方や、目的などを知っていただくために、画像などを用いて説明を行った。また、自閉症の特徴について知っていただくため、動画鑑賞などを行った。
第2回	6月	自閉症の特性理解～社会性・コミュニケーション～	自閉症の特性の中でも、社会性とコミュニケーションの特性や、特性に基づいた支援についての講義を及び体験ワークショップを行った。
第3回	7月	自閉症の特性理解～感覚の特徴・注意のむけ方の違い～	自閉症の特性の中でも、感覚の特徴と、注意の向け方の違いについて特性を説明し、必要な支援について講義を行い、体験して頂いた。
第4回	9月	子どものいいところを見つけよう	保護者同士で、我が子のいいところ、強み・長所を小グループで発表し合う場を設けた。
第5回	10月	子どもたちにわかりやすく伝えるには～構造化～	視覚支援（構造化）の支援方法について理解を深められるように、講義を行った。
第6回	11月	身辺自立やお手伝いの力を育てるには～単位行動～	課題分析の手法について、基本的な概要を講義で説明した。
第7回	12月	身辺自立やお手伝いの力を育てるには～構造化～	課題分析の手法について、実際に実習を交え、家庭での取り組みにつながるよう事例画像を提示しながら講義を行った。
第8回	1月	困った行動の原因を考えてみよう	お子さまの行動上の問題について、お子様の特性から行動上の問題を振り返るため、行動上の問題への介入の基礎について講義を行った。
第9回	2月	取り組みでうまくいったこと	療育や家庭での支援の実践について、保護者同士で共有し、実践方法のアイディアの収集や家庭での支援の達成感を保護者様に感じて頂くように、実践内容の発表会を行った。
第10回	3月	発表～1年間を振り返って～	療育と保護者研修への参加を通して、我が子と保護者自身にどのような変化があったか振り返り、小グループに分かれて意見交換を行った。

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0

5月	80	76	0.95	95
6月	80	69	0.86	86
7月	80	72	0.90	90
8月	0	0	0.00	0
9月	80	65	0.81	81
10月	80	61	0.76	76
11月	80	64	0.80	80
12月	80	63	0.79	79
1月	80	61	0.76	76
2月	80	54	0.68	68
3月	80	52	0.65	65
年間利用率			0.82	82.8

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等（関係機関連携加算の件数含む）】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児	0	5	2	3	0	0	0	10
それ以外	8	0	0	0	0	0	0	8
合計	8	5	2	3	0	0	0	18

(5) 療育相談利用人数

【療育相談利用件数表】

月	療育相談利用人数
1 2 月	1 名
2 月	1 名
3 月	4 名

(6) 普及啓発事業

①実施状況

(i) 療育終了児を対象にしたフォローアップ研修 (平成 29 年度実施なし)

(ii) 公開講座 参加人数内訳 (平成 29 年度実施なし)

【こども発達支援センターaz】

①利用決定者内訳

	利用決定者	
市町村名	未就学児	学齢児
大阪市	10	30
合計	10	30

②療育の利用率

【契約内容】

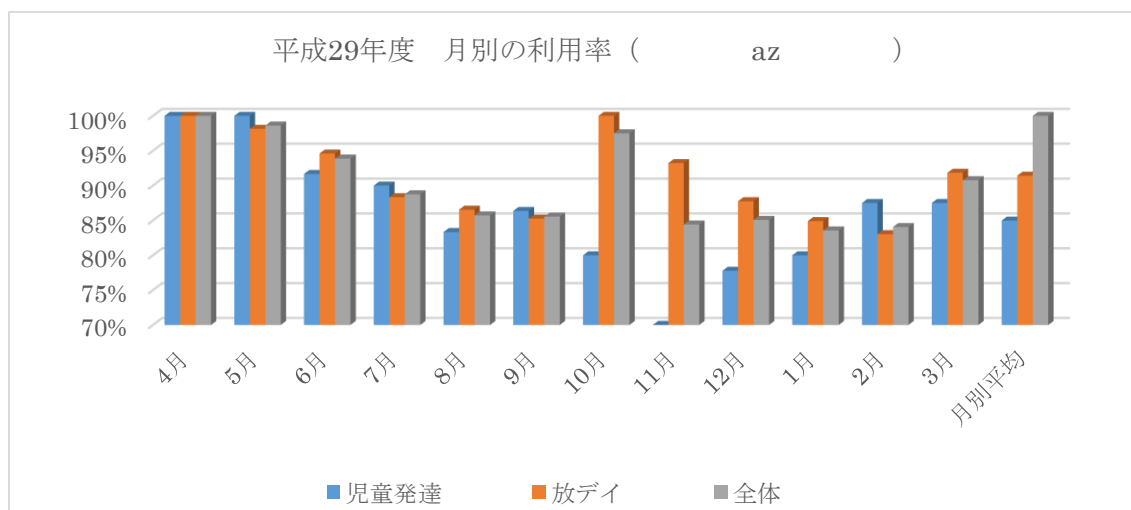
	児童発達 (名)	放課後デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	10	30	40
年間延べ回数	200	600	800
年間必要回数	上限 (一人 : 20 回)		
1 日定員	上限 (1 日 10 名)		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放課後デイ	全体
4 月	100%	100%	100%
5 月	100%	98%	99%
6 月	92%	95%	94%
7 月	90%	88%	89%
8 月	83%	87%	86%
9 月	86%	85%	86%
10 月	80%	103%	98%
11 月	56%	93%	84%
12 月	78%	88%	85%
1 月	80%	85%	84%
2 月	88%	83%	84%
3 月	88%	92%	91%

月別平均	85%	91%	91%
------	-----	-----	-----

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) 保護者研修について

①年間プログラム (40 名)

■日 時：月 1 回、全 1 0 回、2017 年 5 月から 2018 年 3 月まで実施

■会 場：長居障がい者スポーツセンター

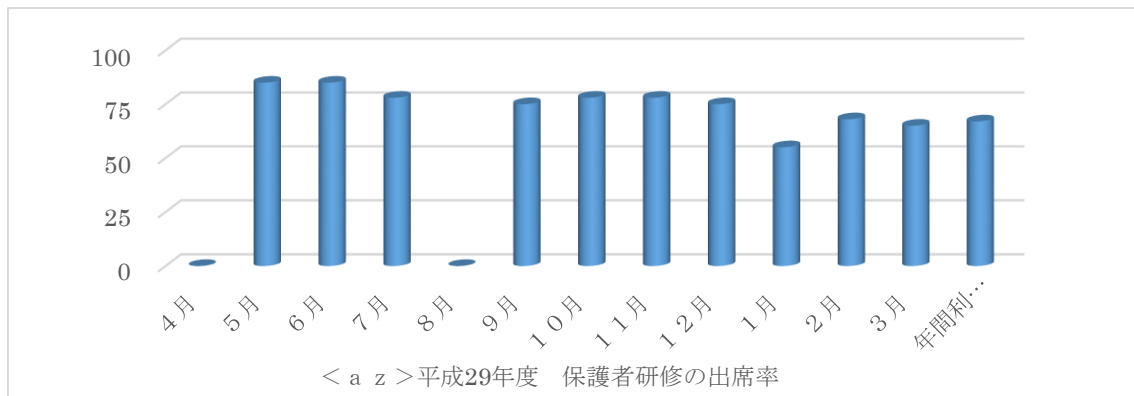
	開催月	テーマ	研修内容
第 1 回	5 月	自閉症の特性の理解①	自閉症の大まかな特徴について理解を得られるよう動画を使用して講義を行った。さらに、療育の内容や考え方についての説明を行った。
第 2 回	6 月	自閉症の特性の理解②	自閉症の特性の中でも、社会性とコミュニケーションの特性や、特性に基づいた支援についての講義を及び体験ワークショップを行った。
第 3 回	7 月	自閉症の特性の理解③	自閉症の特性の中でも、感覚の特徴と、注意の向け方の違いについて特性を説明し、必要な支援について講義を行い、体験して頂いた。
第 4 回	9 月	グループトーク	保護者同士で、我が子のいいところ、強み・長所を小グループで発表し合う場を設けた。
第 5 回	10 月	物理的構造化とスケジュール	視覚支援（構造化）の支援方法について理解を深められるように、講義を行った。
第 6 回	11 月	課題分析①	課題分析の手法について、基本的な概要を講義で説明した。

第7回	12月	課題分析②	課題分析の手法について、実際に実習を交え、家庭での取り組みにつながるよう実例画像を提示しながら講義を行った。
第8回	1月	実践発表	お子さまの行動上の問題について、お子様の特性から行動上の問題を振り返るため、行動上の問題への介入の基礎について講義を行った。
第9回	2月	行動上の問題の理解と対応	療育や家庭での支援の実践について、保護者同士で共有し、実践方法のアイディアの収集や家庭での支援の達成感を保護者様に感じて頂くように、実践内容の発表会を行った。
第10回	3月	一年間のまとめ	療育と保護者研修への参加を通して、我が子と保護者自身にどのような変化があったか振り返り、小グループに分かれて意見交換を行った。

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	40	34	0.85	85%
6月	40	34	0.85	85%
7月	40	31	0.78	78%
8月	0	0	0.00	0%
9月	40	30	0.75	75%
10月	40	31	0.78	78%
11月	40	31	0.78	78%
12月	40	30	0.75	75%
1月	40	22	0.55	55%
2月	40	27	0.68	68%
3月	40	26	0.65	65%
年間利用率	400	296	0.74	74%

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等（関係機関連携加算の件数含む）】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児		1		2	2	6		11
それ以外	3							3
合計	3	1		2	2	6		14

(5) 療育相談利用人数

【療育相談利用件数表】

8月利用 1件のみ

【こども発達支援センターwill】

①利用決定者内訳

	利用決定者	
市町村名	未就学児	学齢児
高槻市	1 9	1 9
茨木市	4	2
摂津市	3	1
島本町	8	
合計	3 4	2 2

②療育の利用率

【契約内容】

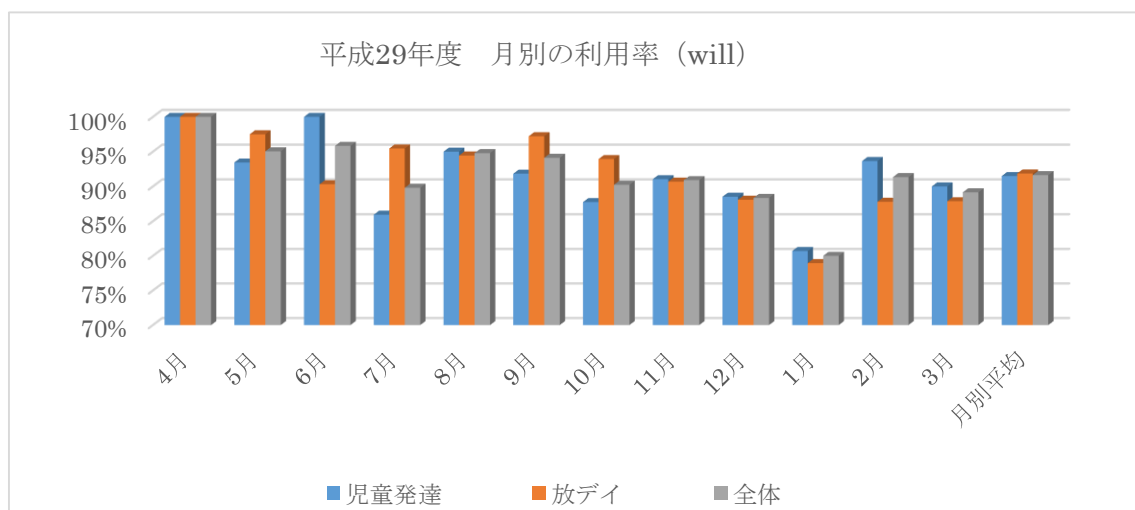
	児童発達 (名)	放課後デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	34	22	56

年間延べ回数	680	440	1120
年間必要回数	上限（一人：20回）		
1日定員	上限（1日10～12名）		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放課後デイ	全体
4月	100%	100%	100%
5月	93%	98%	95%
6月	100%	90%	96%
7月	86%	95%	90%
8月	95%	94%	95%
9月	92%	97%	94%
10月	88%	94%	90%
11月	91%	91%	91%
12月	89%	88%	88%
1月	81%	79%	80%
2月	94%	88%	91%
3月	90%	88%	89%
月平均	91%	92%	92%

【月別・事業別の利用率グラフ】



（３）保護者研修について

①年間プログラム（６５名）

■日 時：月１回、全１０回、２０１７年５月から２０１８年３月まで実施

■会 場：高槻現代劇場

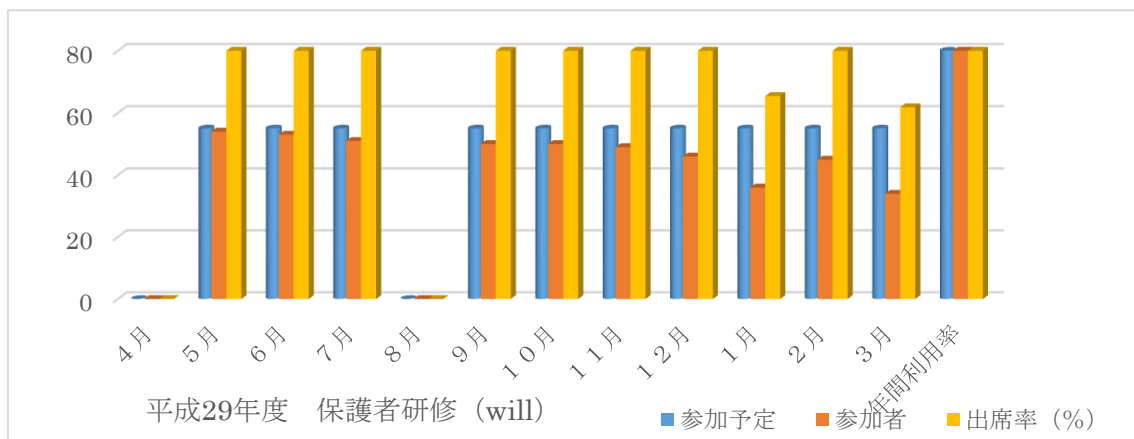
	開催月	テーマ	研修内容
第１回	５月	自閉症の特性の理解①	自閉症の人たちの世界の疑似体験、 自閉症の特性 DVD 鑑賞、自己診断シート

第2回	6月	自閉症の特性の理解②	講義『自閉症の特性の理解～社会性・コミュニケーション～』、
第3回	7月	自閉症の特性の理解③	講義・グループワーク 『自閉症の特性の理解～感覚の特徴～』
第4回	9月	グループトーク	子どものいいところを見つけよう！
第5回	10月	物理的構造化とスケジュール	講義『子どもに分かりやすく伝えるには～構造化～』
第6回	11月	課題分析①	講義『身近自立やお手伝いの力を育てるには～単位行動～』
第7回	12月	課題分析②	講義『身近自立やお手伝いの力を育てるには～評価～』
第8回	1月	実践発表	グループワーク 『取り組みでうまくいったこと』
第9回	2月	行動上の問題の理解と対応	「困った行動の原因を考えてみよう！」
第10回	3月	一年間のまとめ	「一年間を振り返って」

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	55	54	0.98	98
6月	55	53	0.96	96
7月	55	51	0.93	93
8月	0	0	0	0
9月	55	50	0.91	91
10月	55	50	0.91	91
11月	55	49	0.89	89
12月	55	46	0.84	84
1月	55	36	0.65	65
2月	55	45	0.82	82
3月	55	34	0.62	62
年間利用率	550	468	0.85	85

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等（関係機関連携加算の件数含む）】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児		1	7	6	1			15
それ以外	23							23
合計	23	1	7	6	1	0	0	38

(5) 普及啓発事業

①実施状況

(i) 療育終了児を対象にしたフォローアップ研修

実施日	テーマ	内容	参加者数
平成29年 9月15日	脳科学から見る 自閉症	専門家による「脳科学からみる 自閉症の特性」講義	14
平成29年 10月27日	作業療法士から 学ぼう！	手先の不器用さ・身体の使い方	11
平成29年 11月6日	思春期講座	思春期で何が違って、何が変 わらないの？今から必要なこ とを考えてみよう	11

(5) 平成29年度 大阪府委託事業

①通所支援事業者育成事業

<従事者研修>

日 時	場 所	内 容	参加事 業所数	参 加 人数
-----	-----	-----	------------	-----------

1	2017 年 6 月 16 日、30 日 10:30～12:00	高槻現代劇場 207 号室	講義① 「自閉症の特性の理解～ 社会性・コミュニケーション～」	28	51
2	2017 年 7 月 14 日、28 日 10:30～12:00	高槻現代劇場 207 号室	講義② 「自閉症の特性の理解～ 感覚の特徴～」	30	54
3	2017 年 10 月 6 日、20 日 10:30～12:00	高槻現代劇場 207 号室	講義③ 「子どもにわかりやすく 伝えるには ～構造化～」	30	51
4	2017 年 11 月 10 日、24 日 10:30～12:00	高槻現代劇場 207 号室	講義④ 「身辺自立やお手伝いの 力を育てるには～単位行動～」	30	53
5	2017 年 12 月 1 日、15 日 10:30～12:00	高槻現代劇場 207 号室	講義⑤ 「身辺自立やお手伝いの 力を育てるには～評価～」	30	49
6	2018 年 2 月 9 日、23 日 10:30～12:00	高槻現代劇場 207 号室	講義⑥ 「困った行動の原因を考 えてみよう！」	27	44
合 計				145	302

<機関支援>

○全体件数

実事業所数	8
延べ事業所数	94

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	実習受入	(電話相談)
実事業所数	23	0		
延べ事業所数	94	0		

○見学受入

実事業所数	0
延べ事業所数	0

平成29年度通所支援事業者育成事業 事業報告（機関支援）				
	事業所名（市）	事業種別	日 時	訪問/来訪
1	デイサービスなかよし（茨木市）	放課後等デイサービス	2017年7月31日 15:30～17:30	訪問
			2018年1月29日 15:30～17:30	訪問
			2018年3月19日 16:30～17:30	訪問
2	わくわくクラブ（茨木市）	放課後等デイサービス	2017年6月6日 10:30～12:30	訪問
			2017年8月10日 15:30～17:30	訪問
			2017年9月16日 10:00～12:00	訪問
			2017年10月19日 10:00～12:00	訪問
			2017年12月11日 10:00～12:00	訪問
			2018年1月11日 10:30～12:30	訪問
			2018年2月7日 10:00～11:00	訪問
3	スリーケア真砂（茨木市）	児童発達支援	2017年5月22日 10:30～17:30	訪問
4	きらり茨木校（茨木市）	放課後等デイサービス	2017年5月26日 10:00～11:00	訪問
5	放課後デイサービス輝茨木館（茨木市）	放課後等デイサービス	2017年6月5日 10:00～11:00	訪問
			2017年12月14日 10:00～11:00	訪問

6	パルケあゆむ(茨木市)	放課後等デイサービス	2017年6月1日 13:00～13:30	訪問
			2017年11月28日 13:30～14:30	訪問
7	放課後デイサービス plus (茨木市)	放課後等デイサービス	2017年6月6日 16:00～17:30	訪問
			2017年7月11日 16:00～17:30	訪問
			2017年11月1日 16:00～17:30	訪問
			2017年12月7日 10:30～13:00	訪問
			2018年3月20日 15:30～17:00	訪問
8	ばら親子教室(茨木市)	児童発達支援	2017年6月13日 10:00～12:00	訪問
			2017年7月18日 10:00～12:00	訪問
			2017年8月29日 10:00～12:00	訪問
			2017年9月26日 10:00～12:00	訪問
			2017年11月14日 10:00～12:00	訪問
			2017年11月21日 10:00～12:00	訪問
			2017年12月5日 10:00～12:00	訪問
			2018年1月23日 10:00～12:00	訪問
			2018年2月13日 10:00～12:00	訪問
			2018年2月20日 10:00～12:00	訪問
9	あけぼの学園(茨木市)	福祉型児童発達支援センター	2017年7月18日 13:00～15:30	訪問
			2017年8月31日 10:00～12:00	訪問

			2017年10月24日 10:00～12:00	訪問
			2017年11月29日 10:00～12:00	訪問
			2017年12月19日 9:50～11:50	訪問
			2018年2月22日 9:50～11:50	訪問
10	藍野療育園（茨木市）	医療型児童 発達支援セ ンター	2017年7月18日 10:00～11:30	訪問
			2017年8月21日 13:20～15:20	訪問
			2017年10月12日 11:30～13:00	訪問
			2017年10月18日 13:20～15:00	訪問
			2017年11月15日 13:20～15:00	訪問
			2018年1月18日 10:40～12:00	訪問
			2018年2月5日 13:20～15:00	訪問
11	学童デイホーム遊 育園（摂津市）	放課後等デ イサービス	2017年6月13日 15:00～17:00	訪問
			2017年7月25日 15:00～17:00	訪問
			2017年9月26日 16:00～18:00	訪問
			2017年9月28日 16:00～18:00	訪問
			2017年11月30日 16:30～18:30	訪問
			2018年1月17日 15:30～17:30	訪問
12	ココリス（摂津市）	児童発達支 援	2017年6月28日 10:30～11:30	訪問
			2017年11月1日 10:30～11:30	訪問

			2017年12月6日 10:30～11:30	訪問
13	かいか（摂津市）	放課後等デ イサービス	2017年5月12日 11:00～12:30	訪問
14	おかえりホーム(摂 津市)	放課後等デ イサービス	2017年5月16日 10:00～11:30	訪問
15	ともだちホームお おね（高槻市）	放課後等デ イサービス	2017年4月17日 13:30～14:30	訪問
16	こども教室きらり 富田校（高槻市）	放課後等デ イサービス	2017年5月26日 11:30～12:30	訪問
17	すまいるベース(高 槻市)	放課後等デ イサービス	2017年7月4日 15:00～17:00	訪問
			2017年7月10日 15:00～17:00	訪問
			2017年10月5日 16:00～17:30	訪問
			2017年1月25日 15:30～17:00	訪問
			2017年3月13日 15:30～17:00	訪問
18	放課後デイスervi ス輝高槻館（高槻 市）	放課後等デ イサービス	2017年6月5日 14:00～15:00	訪問
			2017年7月5日 13:00～14:00	訪問
			2017年8月3日 15:00～17:30	訪問
			2017年9月8日 15:00～16:30	訪問
			2017年11月6日 15:00～17:00	訪問
			2017年12月14日 15:00～17:30	訪問
19	生活支援センター 光（高槻市）	放課後等デ イサービス	2017年5月19日 15:00～18:00	訪問
			2017年6月21日 13:30～15:00	訪問
			2017年11月29日	訪問

			14:30～15:30	
20	ふらっと（高槻市）	放課後等 サービス	2017年6月15日 15:30～17:00	訪問
			2017年7月4日 17:30～18:00	訪問
			2017年9月11日 15:30～16:30	訪問
21	玉川橋 fun パーク （高槻市）	放課後等デ イサービス	2017年6月1日 10:00～11:00	訪問
			2017年6月22日 14:00～15:00	訪問
			2017年12月18日 14:00～15:30	訪問
22	よつば放課後デ イサービス（高槻市）	放課後等デ イサービス	2017年4月27日 16:00～18:30	訪問
			2017年5月19日 15:00～18:00	訪問
			2017年6月2日 13:00～14:00	訪問
			2017年6月9日 13:30～14:30	訪問
			2017年6月21日 13:30～15:00	訪問
			2017年7月4日 14:30～15:00	訪問
			2017年8月7日 9:30～12:00	訪問
			2017年9月12日 14:30～16:30	訪問
			2017年11月29日 14:30～15:30	訪問
			2018年2月28日 15:30～17:00	訪問
23	りとるまーち（高槻 市）	放課後等デ イサービス	2017年4月17日 15:00～18:30	訪問

			2017年7月3日 15:00～18:00	訪問
			2017年7月4日 13:30～14:00	訪問
			2017年8月25日 15:00～18:00	訪問
			2017年10月23日 15:00～18:00	訪問
			2018年3月16日 15:00～18:00	訪問

<圏域連絡会>

	日 時	場 所	内 容	参加事業所数	参加人数
1	2017年11月29日 10:00～12:00	高槻現代劇場 205号室	①平成28年度の大阪府支援者育成事業の報告とこれからの圏域連絡会の持ち方（案）について ②圏域連絡会企画実行委員の募集・決定 ③人材育成における連携企画（案）を考える（グループワーク）	19	22
2	2017年2月16日 9:30～11:30	高槻現代劇場 305号室	①実践報告会 ②ポスターセッション	34	67
3	2018年3月8日 15:30～17:30	あけぼの学園	実践報告会	16	54
合 計				69	143

◆高槻市委託事業__巡回支援専門員整備事業実施状況報告書

1) 実施状	巡回した日数 週 3 日
--------	--------------

況

巡回した施設・場	施設数		述べ巡回回数	助言など支援の対象児童数	対象児童に対する助言等支援の述べ回数
保育所	3	か所	7回	11人	13回
幼稚園	3	か所	3回	* 5人	6回
子育て支援拠点施設	3	か所	28回	* 110人	177回
児童厚生施設		か所	回	人	回
集団検診		か所	回	人	回
その他(子育て広場)	13	か所	145回	* 400人	623回
(認定こども園)	1	か所	4回	3人	6回
合計	23	か所	187回	529人	825回

*複数個所で支援した人(8人)は最初の場合でカウントした。うち7人(0-5歳児)は支援センターと子育てひろばを利用(4名が支援センター、3名が子育てひろばでカウント)、幼稚園とひろば利用の1名も同様の理由により広場でカウントした。また年齢が2段階にわたっている対象児34名は開始時の年齢の施設でのみカウントした。

◆助言等支援の対象児童数の年齢別内訳 ()内は延べ人数

年齢	(人)
0歳	80人(95)
1歳	179人(264)
2歳	153人(259)
3歳	73人(129)
4歳	22人(41)
5歳	17人(30)
6歳以上	5人(7)
年齢不明	0人
合計	529人(825)

◆助言等支援の対象児童、施設の支援を担当する職員や対象児童の保護者に対する支援方法

児童：主に遊びや会話に関わりながらの観察

職員：プログラムへの参加、報告、訪問時以外の日常の親子の様子や他の情報の確認

子どもの像の共有

	支援方法の確認と共有 訪問時に不在の児童について支援の相談 ケースの多角的な検討 医療・保健・福祉などの機関情報や専門的知識の提供 プログラムの進め方の検討 保護者：面談による聞き取りと観察時の子の様子などを統合して子ども像の共有、 具体的関わり方の提案 支援機関情報・発達に関係する情報の提供 保護者のエンパワーメント 親子行事への参加
--	--

2) 事業実施の効果について	①発達障がいに関心のある支援者の増加と子どもへの合理的配慮への視点のひろがり。 ②具体的支援についての情報や助言の受け入れ 環境的配慮（物理的空間的支援の工夫）がすすんできていること 視覚的刺激の有効さを体験し利用しようとしてくださること 家族と協力して子の発達を援助してくださること。 援助して下さった結果間違っって学習した行動の改善が見られること。 対人相互遊びの必要な子どものための、楽しみ集中できる遊びの工夫 （子どものリズムや特性を捉えて、注意が向けられそうな絵本や歌遊びを選び、集中維持をたすける小道具） 継続利用者の多い広場で子どもの遊び道具の設定や切り替えのための環境を具体的に整えられている。 発達に応じた玩具の備え 発達に応じた教材の工夫 コミュニケーション育成のための工夫（先生に訴えてからもらうなど） スタッフ間での情報の共有と継続的見守り より年齢の低いこどもの対人疎通性への関心 気になる子どもの利用状況への配慮 ③具体的支援についての情報や助言の積極的要請 （例えばどういう環境でなら子どもが集中できるか） ④他機関からの情報の意味を子のありように応じて説明することで肯定的に受けとめられるようになること ⑤相談しやすいような環境作り ・タイミングのよい声かけや雰囲気づくり ・幅広い年齢層に会えるような配慮。 ・お母さんの特性にあわせた適切な助言や援助の体制を組んでくださる ・相談中のお母さんの子を支援者和其他のおかあさんたちによるみまもり ・相談者の相談の切れ目を見計らって相談。
----------------	---

	・困った時に助けを求めることへの抵抗が減少 ⑥育てにくい子を持つ母のしんどさや母の思いへの共感のひろがり ⑦支援者自身の視点の修正 ① 相談支援機関や所属機関などについての取り巻く状況への幅広い関心
--	---

3) 事業実施 の 評価 に つ いて	A 保育所等の巡回支援先の感想 ●「(孤立が気になっている) お母さんと話してもらえてよかった」「不安なお母さんなので話を聞いてもらえてよかった」。 ●「支援のヒントがもらえてよかった」 予定提示の具体的方法や興味関心の利用については「明日からの支援に役立つヒントがもらえた」 ● (CP からお母さんの思いや考えを代弁後)、支援機関についての相談があったときに「迷っているなら利用を」と積極的に支持した。 ●助言により作成された貼紙 (写真での内容提示と移動経路に子どもの興味を引くキャラクターの貼紙) が「役立ってよかった」。 ●ルーティンで行動する子どもに次の行動を示すための写真提示・乱暴な行動のある子どもについて、1対1の時間に絵を用いてふりかえり肯定的評価を示す場とするという助言にやってみるとのこと。 ●攻撃的な行動のある子ども；言語理解・手順理解・相手の立場に立つことなどに弱さ+注意の転導性がありそうなことを観察と情報の検討から確認。明確な指示・困ったときの援助・褒める機会をもつことなどの提案にやってみますとのこと。 ●行き渋りの子ども；園での良かったところから情報交換をお勧めしたところやってみるとのこと。 ●感情コントロールの難しい子ども：自由度のある時間に混乱が多いとのことから、予定表の提示、座る場所や並び方のフォーメーションの変化を予告すること、避難場所、感情を和らげるグッズの利用などを提案したところ実行し、視覚提示（絵や図を描いて説明）により子どもが予定で引っかかることがなくなり、子どもがどういう理由で混乱したのかがよくわかるようになった。
	B・保護者の感想 ●具体的方法の提案に効果があったとの報告 ・言語発達に課題のある子どものお母さんから「前回の助言のように（動きに合わせて）かかわったら発声が増えた」 ・ASD 疑いのある子どものお母さんから「助言通りに（予定を写真提示）したら、（児童発達支援の事業所に）行くのを嫌がらなくなった」 ・排泄が成功しないと相談のあったおかあさんから、（本人の排泄の間隔をお母さんがつかんでおられる

	ので一日一回でもトイレでできたらよしにしようとお話した次の回に) 家と広場で排泄できるようになったと報告。 ・視覚情報 (子ども向けキャラクターを用いた案内板) を具体的に示すと計測室への移動と計測が無事でき「初めて計測できた」 ・前回の提案 (予定を知らせる) で子どもの拒否感が減少したことを報告『親の予定で振り回さないで』ということだったんですね」 ●対応に苦慮する行動への具体的提案に「やってみる」「とりいれられそう」 ・偏食の強い子への対応について、状況を聞き取ったのちの様々な提案の中から、色の似たものと同じサイズに切って試みるといった提案に「やってみます」「相談してよかった」 ・まぜたものより食材そのものが味わえる方が楽しめるかもに「それでやってみます」 ・好みの食べ物について硬さや食材や調理法を吟味検討する中で「子どもにとりいれられそうな方法が見つかりよかった」 ・あずかり保育の時は食べるとのこと。園での様子を詳しく聞いてみる (食事までの流れや食材の切り方・食事の勧め方など) の提案に「やってみます」。 ・就寝時間が遅いという相談: 朝起きるまで寝かせているとのこと、早い時間にカーテンを開けて光を浴びるようにとの提案に「やってみる」 ・行動を先延ばしにする子に怒ってしまうと悩むお母さんは絵で予定を示すことに「とりくんでみます」。 ・子どもの特性が理解できるが怒ってしまうというお母さん、時間をかけてお聞きした後、具体的な相談機関と支援の場の提示に「連絡してみます」 ●子どもの気になる行動を悪意や拒否など否定的に把握していたが、詳しい検討の中で別の視点や理由にきづくと、代替行動や対応法の提示に同意 ・「小さい子に対して意地悪」; いくつかの場面の行動を振り返ると、状況によって同じ行動でも意味が異なる (大きい子へむけるとときと小さい子へむけるとときで) ことや、同じ行動が本人の良い面から出ている可能性とそれを生かすための方策 (本人が興味を持ちそうなお手伝いの例) に「やってみます」 ・「気に入らないときに物を投げる」; 本人にとっての困難、本人の気持ち (スプーンでうまく掬えない)、本人ができること (具体物で次を提示するとわかる) に気づかれ、具体的援助 (すくってあげる、掬いやすいものでは容器を支えてあげる) について「試してみる」 ・「気に入らないときに物を投げる」; もういらない、おわりたいのではとの予測のもとに、空き箱を示すと自分で納めることができたことを目の前で確認し、「やってみます」。 ●困りごとの検討に問題解決に至らなかった場合も詳しく聞くことで「話せてよかった」 「思いを聞いてもらったことが良かった」「お話できて少しすっきりした」 2歳になり、大変な年齢を超えて少し楽になったでしょうと言われることが多い中で「大変さを聞いてもらったことが良かった」。 ●その他 肯定的反応 ・社会的資源の利用についてのいくつかの提案に「整理できた」 ・食事を食べないことに悩むお母さんに保育所メニューを提供すると「どういった調味料を使ってよいかがわかり参考になった」 ・求めに応じて今後の方向性、将来の見通しについての情報提示後、「積極的な仲間がほしい」
--	---

	●一方で 1 年ぶりの来所時「他児との差がショックで引きこもっていた」と乗り越えてから以前の体験を振り返られた報告もある。
4) 今後の課題について	<u>生活における子どもの困難と家族への支援</u> ●睡眠に問題のある子どもの保護者への支援： 疲弊している母への支援と混乱している子どもへの支援について、見立てと具体的支援の在り方が課題。睡眠相談を受ける機会は多いが、就眠しづらさや頻回の夜泣きが環境調整のみでなく子ども自身の特性から生じていると推測される場合がある。 ・『周囲の刺激の制御が不十分』（TV・スマホ・PC などに長時間曝露、視野内におもちゃ）、 ・『適切な就眠儀式形成の失敗』 ・『眠気を眠さとして感じない』寝かしつけがむずかしい。 ・『音や触覚やにおいや身体感覚の過敏さなどの感覚の過敏さ』 ちょっとした音で起きる、とてつもなく早い起床、布団に下ろすとおきてしまう ・『同一性保持傾向から特定のあるいは複雑な就眠儀式を必要とする』 「だっこ」「自転車の上・車でゆれる」「母の腕を枕にする」といった方法でないと眠れない ・『みとおしがもてない』そのために遊びが終了できない ・『感情や衝動のコントロールが難しい』眠気で抑制が取れ過剰に動き回る 特性と環境の両者を分けがたいケースもある（環境の変化を受け入れにくい特性のため家族が刺激制御にふみきれないなど）。このような場合、母の心理的負担は軽減しにくい。周囲に支援者（祖父母など）がいない場合、母の負担はさらに大きくなる。早急な支援が望まれるが睡眠障害外来へのハードルは高い。 ●食に問題を抱える子どもと家族への支援 ●低年齢では「睡眠と食」両方の困難を同時に抱えていることも多い。対人疎通性や感覚面もあわせてアセスメントしながら、睡眠・食に具体的な助言を提供していくことの必要。 ●テンションの上がりやすい子どもの感情調整。 ●周囲の刺激に引きずられやすい子どもへの支援・生活の組み立て。 <u>家族への支援</u> ●お母さんへの支援： ①基本的な生活習慣や言語の獲得について子の発達に即した対応（主として非言語的なかわり）のむずかしい母（自身の関与の必要性を感じていないように見えたり、年齢より数段上の行動を求めたり、過剰に言語指示が多いなど）への対応。 ②対人的な対応に苦手さを感じている母への支援 ③自身の課題（特性や知的な問題）が大きい母への支援。 ④ASD 傾向のある父親・古い価値観にしばられた父親を配偶者に持つ母への支援。 ⑤母子分離が難しく一時預かり保育の利用が難しい子どもの母のレスパイト。 ⑥身体的虚弱さを抱えるおかあさんへの支援

	⑦健診や教室にマイナスの印象を持っておられる方への対応。 ⑧広場を利用する熱心さがあり、育児についても関心が高いが、子育てが難しい子どもで育児そのものに自信失っておられるお母さんへの支援（いやいや期と言う年齢特有の課題に加えて刺激に引きずられやすいタイプの子どもの悩みは深い） ⑨出産時および出産後の一時保育が必要な家族への支援。 ⑩DV、虐待的対応が危惧される家族への支援 ⑪発達に苦手さを持つ子どもの就労中の母への支援 ●一時保育の利用について（母の特性からの子育てのむずかしさがある場合）： まずは子どもの診断、相談・療育へと進み、安心できる状態をつくることから支援は始まると考えられるが、母の負担を早急に減らすことが子どもにとってもよい結果をもたらすと考えられる場合もある。積極的に保育を利用することが必要だろう。その場合、様々な場所の一時保育を単発で利用するより、特定の機関を継続的に利用できる方が子どもの安定や家族の負担の軽減には役立つと考えられる。 ●双子およびそのお母さんへの支援。 ●日本語以外の母国語を話す人への支援、同じ母国語を話すお母さんのサークルがあれば。 ●スマホの制限と上手な利用法 情報提供の在り方 ・市が提供できる医療機関情報は？ ・保健センターや福祉サービス機関が提供できる範囲；月に何回程度の面談が可能か・子どもを連れでの相談が可能かなど。 ・福祉サービスの頻度 ・各機関とどの程度の情報共有が可能か ・巡回相談と市のサービス、求められた時の文書提供、情報の記載と開示 専門機関について ●健診で指摘された場合、1歳半から2歳までの継続的な相談機関や専門療育に至るまでの時間が長い。 ●1歳半健診で指摘されなかったが発達にかたよりがありそうで養育に困難を抱えているケースへの継続的支援。めばえ教室には（いっぱい？）入れない2～3歳児への支援も昨年にひきつづき課題である。 ●医療機関；診断待ちの期間がいずれの機関も長い ●医療機関診断時に特性の説明や家族の疑問に適切に伝えていただけること ●診断や健診後の不安への対処。 広場の在り方について ●子どもの育てにくさを感じる養育者（母等）について、支援者側の理解に差がある ●ひろば同士の情報の共有（場の設定やおもちゃなど）が互いに見学会を持つなどでなされてきた。 ●支援センターや各ひろばの中での積極的情報共有と親子行事や子ども向けのサービスの際の合理的配慮（環境の調整や子どもに合った伝え方や道具の選択、子どもにわかりやすく示された空間の使い方、年齢に応じた手作り玩具など）のあり方はまだばらつきがある。 ●こども中心の生活リズムを確立すること。ひろばが孤立しがちな母たちの集いの場としての役割はは
--	--

	たされているが、初期の参加時（特に数か月で利用された場合）には孤立感を抱きやすく丁寧な対応が望まれる。 <u>社会システムの問題</u> ●妊娠中のお母さんなどが通所する際の交通手段。自転車に乗れない、子どもがバスでじっとしていないなどのばあい。 ●保育所入所の為の待機の増加 ●3歳児に幼稚園に落ちる子の出現 ●社会的偏見の存在⇒支援機関に所属することへのハードルの高さ、それでも社会的サービスに向かい合おうとする方が増加しているという印象 ●よりわかりやすい機関情報の提供 <u>早期発見と支援システム</u> ●発達に課題があり、かつ集団回避的な年少の子どもへの支援：システムとしての個別療育。 ●知的能力に問題はなさそうだが対人相互性に課題のある子どもの早期の支援 ●一歳半健診までに遅れが気づかれた場合の対応 ・1歳以前の子どもの発達に不安や疑問があるときの対応 ・細切れにしか眠らない4-12か月児への対応。 ・乳児期に過剰な緊張を示し緊張が緩むころには対人的状況のずれを示す子どもへの対応。（受け身タイプの ASD か） ・運動発達や低緊張・過緊張など0-1歳の身体発達に課題がありそうな子どもへの対応（爪先歩き・身体を反る乳児） ●気になる子どもで、パング教室やめばえ教室などにつながるにはいらず、自発的な相談もなく、ひろばや支援センターの継続利用も無く、出前広場などの頻度の低い利用にとどまる方への支援。 ●小学生年齢で担任とうまくつながらない時の支援。 ●プレ幼稚園またはプレ幼稚園に準ずる組織の質の担保、個別的配慮はどうか ●排泄や睡眠の難しさ・偏食や満腹感の乏しさと発達障がい特性との関連の有無、mal treatment によるものかどうかの見極めと支援。感覚過敏と歩行、集団参加などとの関係。特性による養育のむずかしさが mal treatment を引き起こす可能性にも配慮を要する。 ●1歳半までに対人疎通性の問題や過敏さが見られる子どもの診断・評価と対応を早急に。 ●より早期に診断が受けられ、すぐに家族ができるとりくみ、子どもへの直接支援、家族が学べる場、自立まで長期にわたって継続的な相談や専門的個別的な療育などの援助がうけられるシステムの構築。ペアレントメンターや手帳など社会的なシステムも含め、情報を伝えられるような環境の提供が望まれる。
--	---

【自閉症療育センターLink】

①利用決定者内訳

	利用決定者	
市町村名	未就学児	学齢児
A 市	26	7
B 市	10	0
C 市	6	1
D 市	0	3
合計	42	11

②療育の利用率

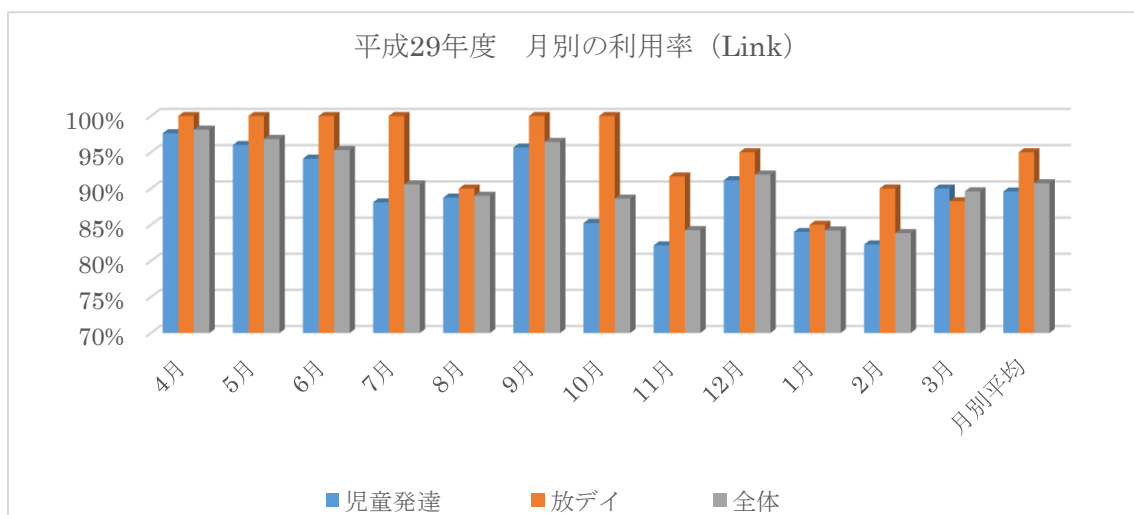
【契約内容】

	児童発達（名）	放デイ（名）	全体（名）
契約定員（名）	42	11	53
年間延べ回数	840	220	1060
年間必要回数	上限（一人：20 回）		
1 日定員	上限（1 日 10～12 名）		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放デイ	全体
4 月	98%	100%	98%
5 月	96%	100%	97%
6 月	94%	100%	95%
7 月	88%	100%	91%
8 月	89%	90%	89%
9 月	96%	100%	96%
10 月	85%	100%	89%
11 月	82%	92%	84%
12 月	91%	95%	92%
1 月	84%	85%	84%
2 月	82%	90%	84%
3 月	90%	88%	90%
月別平均	90%	95%	91%

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) 保護者研修について

①年間プログラム (53 名)

■日 時：月 1 回、全 1 0 回、2016 年 5 月から 2017 年 3 月まで実施

■会 場：枚方市民会館

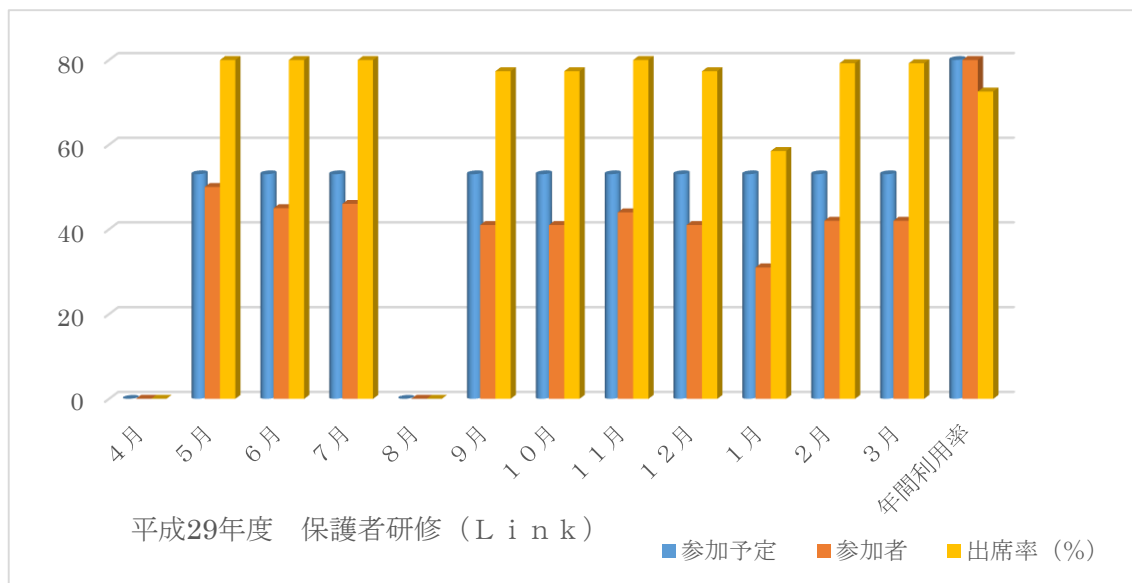
	開催月	テーマ	研修内容
第 1 回	5 月	自閉症の子供たち、療育の概要説明	自閉症の大まかな特徴について理解を得られるよう動画を使用して講義を行った。さらに、療育の内容や考え方についての説明を行った。
第 2 回	6 月	自閉症の特性理解～社会性・コミュニケーション～	自閉症の特性の中でも、社会性とコミュニケーションの特性や、特性に基づいた支援についての講義を及び体験ワークショップを行った。
第 3 回	7 月	自閉症の特性理解～感覚の特徴・注意のむけ方の違い～	自閉症の特性の中でも、感覚の特徴と、注意の向け方の違いについて特性を説明し、必要な支援について講義を行い、体験して頂いた。
第 4 回	9 月	子どものいいところを見つけよう	保護者同士で、我が子のいいところ、強み・長所を小グループで発表し合う場を設けた。
第 5 回	10 月	子どもたちにわかりやすく伝えるには～構造化～	視覚支援（構造化）の支援方法について理解を深められるように、講義を行った。
第 6 回	11 月	身近自立やお手伝いの力を育てるには～単位行動～	課題分析の手法について、基本的な概要を講義で説明した。
第 7 回	12 月	身近自立やお手伝いの力を育てるには～構造化～	課題分析の手法について、実際に実習を交え、家庭での取り組みにつながるよう事例画像を提示しながら講義を行った。

第 8 回	1 月	困った行動の原因を考えてみよう	お子さまの行動上の問題について、お子様の特性から行動上の問題を振り返るため、行動上の問題への介入の基礎について講義を行った。
第 9 回	2 月	取り組みでうまくいったこと	療育や家庭での支援の実践について、保護者同士で共有し、実践方法のアイディアの収集や家庭での支援の達成感を保護者様に感じて頂くように、実践内容の発表会を行った。
第 10 回	3 月	発表～1 年間を振り返って～	療育と保護者研修への参加を通して、我が子と保護者自身にどのような変化があったか振り返り、小グループに分かれて意見交換を行った。

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4 月	0	0	0	0
5 月	53	50	0.94	94 %
6 月	53	45	0.85	85 %
7 月	53	46	0.87	87 %
8 月	0	0	0.00	0
9 月	53	41	0.77	77 %
10 月	53	41	0.77	77 %
11 月	53	44	0.83	83 %
12 月	53	41	0.77	77 %
1 月	53	31	0.58	58 %
2 月	53	42	0.79	79 %
3 月	53	42	0.79	79 %
年間利用率	530	423	0.79	79 %

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等（関係機関連携加算の件数含む）】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児		4	2	1				7
それ以外	18					8		26
合計	18	4	2	1		8		33

②通所支援事業者育成事業

<従事者研修>

実施場所：枚方市民会館 第3会議室

*各事業所2名以内に制限

	日 時	内 容	参加事業 所数	参加人 数
1	H29/ 6/1(木) 9:45-11:15	講義：発達障がい児の特性の理解 ～社会性・コミュニケーションについて～	54 か所	83 名
2	H29/ 7/ 7(金) 9:45-11:15	講義：発達障がい児の特性の理解 ～感覚について 作業療法士の立場から～	51 か所	83 名

3	H29/ 11/2(木) 9:45-11:15	講義：わかりやすく過ごしやすい環境とは? ～場所について、時間について～	37 か所	58 名
4	H29/ 11/24(金) 9:45-11:15	講義：身体の使い方と支援の工夫 ～作業療法士の視点から、 感覚面をふまえて～	40 か所	65 名
	合 計		182 か所	289 名

<機関支援事業所での職員研修>

実施場所：事業所

	日 時	事業所名	内 容	参加 人数
1	H29/10/13(金) 15:00～16:30	守口市立 わかくさ・わかすぎ 園 くまぐるーぷ (1年間の個別療育) (守口市)	療育半ば（折り返し点）での 個別の特性理解に基づいて 後半に繋げるための質疑応答	30 名
2 ～ 5	H29/4/ ～ H30/3/ 療育見学終了後 1 時間 又は 翌日の午前の 1 時間	守口市 四條畷市 枚方市 の 放課後等 デイサービス事業所	療育半ば（折り返し点）での 個別の特性理解に基づいて 後半に繋げるための質疑応答	3 ～ 18 名

<機関支援> 訪問支援

○全体件数	(4 月～3 月)	
実事業所数	14 か所	(守口市)・児童発達支援センター わかくさ・わかすぎ園 くまぐるーぷ (個別療育) ＜訪問 4 回・来訪 0 回＞
延べ事業所数	87	(門真市)・児童発達支援センター こども発達支援センター療育グループ ＜訪問 5 回・来訪 0 回＞
合 計		(四條畷市)・児童発達支援センター 通園グループ＜訪問 7 回・来訪 2 回＞

(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス キッズ・トーン＜訪問 6 回・来訪 2 回＞
(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス 児童デイ スバル・ぷりずむ＜訪問 8 回・来訪 3 回＞
(守口市) 放課後等デイサービス オールケア大日＜訪問 5 回＞
(門真市) 放課後等デイサービス ジェイ・エス ステージ ジュニア＜訪問 6 回・来訪 1 回＞
(門真市) 児童発達支援/放課後等デイサービス キッズ・レインボー＜訪問 5 回・来訪 1 回＞
(枚方市) 放課後等デイサービス スマイルゲート星が丘 重心 改めスマイルゲート 春日＜訪問 5 回＞
(枚方市) 児童発達支援/放課後等デイサービス らっかせい＜訪問 8 回＞
(枚方市) 放課後等デイサービス くれせんとクラブ御殿山＜訪問 6 回＞
(枚方市) 児童発達支援/放課後等デイサービス くれせんとクラブ釈尊寺＜訪問 5 回＞
(寝屋川市) 放課後等デイサービス オールケア 寝屋川＜訪問 3 回・来訪 0 回＞
(四條畷市) 放課後等デイサービス ぽっぷこーん＜訪問 5 回＞

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	実習受入	(電話相談)
実事業所数	14	5	0	0
延べ事業所数	78	9	0	0

○見学受入（来訪支援；療育見学・Link 施設見学）

実事業所数	14
延べ事業所数	17

< A 圏域交流会・B 圏域センター等交流会 >

場所：A;枚方市民会館 第3・第4集会室・ラポール枚方研修室1と和室

B;ラポール枚方 研修室3

	日 時	内 容	参加事業 所数	参加人数
--	-----	-----	------------	------

1 (B)	平成 29/ 7/21(金) 15:00～16:30	北河内圏域内各市の 児童発達支援センターと 公立の児童発達支援事業所を対象に 情報交換と交流 〈大阪府障がい福祉課より 3名ご来席〉	7 機関 (5 市)	9 名
2 (A)	平成 29/ 9/22(金) 9:45～11:15	北河内圏域内すべての障がい児 通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 (各事業所 2 名以内)	29 機関	40 名
3 (B)	平成 30/ 1/26(金) 15:00～16:30	北河内圏域内各市の 児童発達支援センターと 公立の児童発達支援事業所を対象に 情報交換と交流	7 機関 (5 市)	9 名
4 (A)	平成 30/ 2/ 8(木) 9:45～11:15	北河内圏域内すべての障がい児 通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 (各事業所 2 名以内)	20 機関	31 名
	合 計		63 機関	89 名

②通所支援事業者育成事業

＜従事者研修＞

実施場所：枚方市民会館 第3会議室

*各事業所 2 名以内に制限

	日 時	内 容	参加事業 所数	参加人 数
1	H29/ 6/1(木) 9:45-11:15	講義：発達障がい児の特性の理解 ～社会性・コミュニケーションについて～	54 か所	83 名
2	H29/ 7/ 7(金) 9:45-11:15	講義：発達障がい児の特性の理解 ～感覚について 作業療法士の立場から～	51 か所	83 名

3	H29/ 11/2(木) 9:45-11:15	講義：わかりやすく過ごしやすい環境とは? ～場所について、時間について～	37 か所	58 名
4	H29/ 11/24(金) 9:45-11:15	講義：身体の使い方と支援の工夫 ～作業療法士の視点から、 感覚面をふまえて～	40 か所	65 名
	合 計		182 か所	289 名

<機関支援事業所での職員研修>

実施場所：事業所

	日 時	事業所名	内 容	参加 人数
1	H29/10/13(金) 15:00～16:30	守口市立 わかくさ・わかすぎ 園 くまぐるーぷ (1年間の個別療育) (守口市)	療育半ば（折り返し点）での 個別の特性理解に基づいて 後半に繋げるための質疑応答	30 名
2 ～ 5	H29/4/ ～ H30/3/ 療育見学終了後 1 時間 又は 翌日の午前の 1 時間	守口市 四條畷市 枚方市 の 放課後等 デイサービス事業所	療育半ば（折り返し点）での 個別の特性理解に基づいて 後半に繋げるための質疑応答	3 ～ 18 名

<機関支援> 訪問支援

○全体件数	(4 月～3 月)	
実事業所数	14 か所	(守口市)・児童発達支援センター わかくさ・わかすぎ園 くまぐるーぷ (個別療育) ＜訪問 4 回・来訪 0 回＞
延べ事業所数	87	(門真市)・児童発達支援センター こども発達支援センター療育グループ ＜訪問 5 回・来訪 0 回＞
合 計		(四條畷市)・児童発達支援センター 通園グループ＜訪問 7 回・来訪 2 回＞

(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス キッズ・トーン＜訪問 6 回・来訪 2 回＞
(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス 児童デイ スバル・ぷりずむ＜訪問 8 回・来訪 3 回＞
(守口市) 放課後等デイサービス オールケア大日＜訪問 5 回＞
(門真市) 放課後等デイサービス ジェイ・エス ステージ ジュニア＜訪問 6 回・来訪 1 回＞
(門真市) 児童発達支援/放課後等デイサービス キッズ・レインボー＜訪問 5 回・来訪 1 回＞
(枚方市) 放課後等デイサービス スマイルゲート星が丘 重心 改めスマイルゲート 春日＜訪問 5 回＞
(枚方市) 児童発達支援/放課後等デイサービス らっかせい＜訪問 8 回＞
(枚方市) 放課後等デイサービス くれせんとクラブ御殿山＜訪問 6 回＞
(枚方市) 児童発達支援/放課後等デイサービス くれせんとクラブ釈尊寺＜訪問 5 回＞
(寝屋川市) 放課後等デイサービス オールケア 寝屋川＜訪問 3 回・来訪 0 回＞
(四條畷市) 放課後等デイサービス ぽっぷこーん＜訪問 5 回＞

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	実習受入	(電話相談)
実事業所数	14	5	0	0
延べ事業所数	78	9	0	0

○見学受入（来訪支援；療育見学・Link 施設見学）

実事業所数	14
延べ事業所数	17

＜ A 圏域交流会・B 圏域センター等交流会 ＞

場所：A;枚方市民会館 第3・第4集会室・ラポール枚方研修室1と和室

B;ラポール枚方 研修室3

	日 時	内 容	参加事業 所数	参加人数
--	-----	-----	------------	------

1 (B)	平成 29/ 7/21(金) 15 : 00～16 : 30	北河内圏域内各市の 児童発達支援センターと 公立の児童発達支援事業所を対象に 情報交換と交流 〈大阪府障がい福祉課より 3 名ご来席〉	7 機関 (5 市)	9 名
2 (A)	平成 29/ 9/22(金) 9 : 45～11 : 15	北河内圏域内すべての障がい児 通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 (各事業所 2 名以内)	29 機関	40 名
3 (B)	平成 30/ 1/26(金) 15 : 00～16 : 30	北河内圏域内各市の 児童発達支援センターと 公立の児童発達支援事業所を対象に 情報交換と交流	7 機関 (5 市)	9 名
4 (A)	平成 30/ 2/ 8(木) 9:45～11:15	北河内圏域内すべての障がい児 通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 (各事業所 2 名以内)	20 機関	31 名
	合 計		63 機関	89 名

III. 資料編

1. 利用者の概要

(1) 萩の杜

①年齢別・性別人員構成

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
男	0	0	8	28	1	0	37
女	0	0	4	5	3	0	12
合計	0	0	12	33	4	0	49

②障害支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	37	11	1	0	0	0	0

③療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計

人数	47	2	0	49	4	2	1	1	1	2	11
----	----	---	---	----	---	---	---	---	---	---	----

(2) ジョブサイトひむろ

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	10	14	9	2	1	36
女	0	6	5	4	0	0	15
合計	0	16	19	13	2	1	51

② 障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	28	17	6	0	0	0	0

③療育手帳取得状況

	療育手帳			身障手帳						
障害程度	A	B	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
合計	48	3	51	3	2	1	0	2	0	8

(3) グループホームみやた

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	2	4	6	3	1	(男性12名・女性4名)

②障害区分別

(共同生活援助)

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	3	7	3	2	0	0	1

(4) レジデンスなさはら

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	2	8	9	1	(男性13名・女性7名)

②障害区分別

(共同生活援助)

区分	6	5	4
人数	17	3	0

(5) ぷれいすB e

①年齢別・性別人員構成

【生活介護】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

男	0	27	6	0	1	1	35
女	5	12	3	0	0	0	20
合計	5	39	9	0	1	1	55

【就労継続支援 B 型】

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
男	1	14	4	1	0	0	20
女	1	6	5	0	0	0	12
合計	2	20	9	1	0	0	32

②障害支援区分

【生活介護】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	25	20	8	2	0	0	0

【就労継続支援 B 型】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	0	1	5	14	7	0	5

③療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
人数	65	15	3	83	20	4	1	0	0	0	25

(6) LaLa-chocolat TAKATSUKI

①年齢別・性別人員構成

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
男	1	3	4	2	0	0	10
女	1	5	1	3	0	0	10
合計	2	8	5	5	0	0	20

① 障害支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	0	2	7	6	0	0	5

② 療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
人数	9	8	3	20			2		1		3

(7) ジョブサイトよど・ジェイブランチよど

ジョブサイトよど

①年齢別・性別人員構成

10 代	20 代	30 代	40 代	合計
1	19	15	1	男性：30 名 女性：6 名

②障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1
人数	12	14	6	4		

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳
障害程度	A	B	計	計
合計	24	9	33	3

ジェイブランチよど

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
	13	6	2	2	男性：18名 女性：5名

②障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1
人数			3	5	3	1

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳
障害程度	A	B	計	計
合計	2	14	16	9

(8) ジョブジョイントおおさか

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
0	20	4	2	(男性17名・女性9名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	
合計	0	6	6	8	12	20	0

ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
3	36	4	0	(男性32名・女性11名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	
合計	1	14	15	14	13	27	1

2. 職員配置（常勤換算） 平成 30 年 3 月 31 日現在

(1) 法人本部（総務部）

	基準職員数	実配置職員数
正職		10.5
嘱託		2.0
パートタイマー		5.0
計		17.5

(2) 萩の杜

	基準職員数	実配置職員数
正職		20.0
嘱託		4.0
パートタイマー		23.3
計	30.0	47.3

(3) ショートステイセンターぶれす

	基準職員数	実配置職員数
正職	基準がなく、萩の杜と一体で支援に支障のない数	2.0
嘱託		1.0
パートタイマー		1.9
計		4.9

(4) ジョブサイトひむろ

	基準職員数	実配置職員数
正職		7.0
嘱託		3.0
パートタイマー		20.9
計	28.5	30.9

(5) グループホームみやた

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.3
嘱託		3.0
パートタイマー		2.2
計	8.8	8.7

(6) レジデンスなさはら

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.4
嘱託		8.0
パートタイマー		9.9

計	18.8	22.3
---	------	------

(7) ふれいすBe通所部門

	基準職員数	実配置職員数
正職		13.5
嘱託		4.8
パートタイマー		22.8
計	28.2	41.1

(8) あんだんて

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0
パートタイマー		0
計	2以上	3.0

(9) LaLa-chocolat TAKATSUKI

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.5
嘱託		2.0
パートタイマー		10.0
計	4.0	15.5

(10) A型事業推進室

	基準職員数	実配置職員数
正職		1.5
嘱託		0
パートタイマー		0
計		1.5

(11) ジョブサイトよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		4
嘱託		4
パートタイマー		8
計	15.5	16

(12) ジョイ・ブランチよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		2
嘱託		2
パートタイマー		3
計	2.4	7

(13) ジョブジョイントおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		2.0
パートタイマー		3.2
計	5.7	8.2

(14) ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		2.0
パートタイマー		6.1
計	8.2	12.1

(15) アクトおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		5.0
嘱託		2.0
パートタイマー		0
計		7.0

(16) 児童デイサービスセンターan

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.6
嘱託		0
パートタイマー		2.4
計	4.0	7.0

(17) こども発達支援センターwill

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.4
嘱託		1.0
パートタイマー		1.0
計	4.0	4.4

(18) 自閉症療育センターLink

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.2
嘱託		0
パートタイマー		1.3
計	4.0	4.5

(19) PASSO 公益事業

	基準職員数	実配置職員数
正職		0.2
嘱託		0
パートタイマー		0
計		0.2

(20) こども発達支援センターaz

	基準職員数	実配置職員数
正職		1.8
嘱託		2
パートタイマー		0
計	3.0	3.8

(21) サポートセンターPASSO

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		0.5
パートタイマー		2.3
計	4.0	4.8

3. 採用状況

平成 29 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	池口 涼子
平成 29 年 4 月 1 日	ふれいす Be	岡 沙織
平成 29 年 4 月 1 日	ジョブジョイントおおさか	岡本 晴菜
平成 29 年 4 月 1 日	グループホームみやた	鎌田 蒔子
平成 29 年 4 月 1 日	萩の杜	坂元 伶奈
平成 29 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	清水 美影
平成 29 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	高岡 愛
平成 29 年 4 月 1 日	こども発達支援センターaz	田中 茉里
平成 29 年 4 月 1 日	ふれいす Be	野間 早智
平成 29 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	松本 早代
平成 29 年 4 月 1 日	萩の杜	村上 捷斗
平成 29 年 4 月 1 日	ジョブサイトよど	米戸 詩歩
平成 29 年 4 月 1 日	ふれいす Be 短期入所	及川 光貴
平成 29 年 4 月 1 日	たかつきランチ	安田 麻美
平成 29 年 11 月 10 日	ふれいす Be	吉崎 歩

4. 退職

平成 29 年 4 月 20 日	ジョブサイトひむろ	中田 菖子
平成 29 年 5 月 15 日	LaLa-chocolat	山本 泰葉

平成 29 年 9 月 10 日	アクトおおさか	東島 尚子
平成 30 年 1 月 31 日	ジョブサイトひむろ	池口 涼子
平成 30 年 3 月 20 日	萩の杜	堀田 大樹
平成 30 年 3 月 31 日	ふれいす Be	内藤 逸己
平成 30 年 3 月 31 日	総務部	中西 小百合
平成 30 年 3 月 31 日	こども発達支援センターaz	山口 雄大

5. 正職員の主な資格取得状況

資格の名称	人数
社会福祉士	46
介護福祉士	33
保育士	21
精神保健福祉士	13
臨床発達心理士	5
臨床心理士	3
准看護師	1
看護師	1
作業療法士	2
管理栄養士	1
日商簿記 3 級	5
日商簿記 1 級	1
クリーニング師	1
製菓衛生師	1

6. 平成 29 年度実習受け入れ状況

実習校名	施設名	人数	期間
島根県さくらの家	なさはら	1	5 月 29～31 日
佐賀県サポートセンターはる	なさはら	1	6 月 15～17 日
社福) 桃林会	ふれいす Be	1	6 月 26 日～6 月 29 日
藍野大学	ふれいす Be	2	7 月 10 日～7 月 12 日
藍野大学	ジョブサイトひむろ	1	7 月 11 日、7 月 12 日
大阪こども福祉専門学校	萩の杜	2	7 月 24 日～8 月 4 日
関西学院大学人間福祉学部	ジョブサイトよど	1	8 月 1 日～9 月 7 日
阿武野高校	ふれいす Be	3	8 月 17 日
龍谷大学短期大学部	萩の杜	2	8 月 29 日～9 月 11 日
龍谷大学短期大学部	ふれいす Be	1	8 月 29 日～9 月 11 日
大阪総合福祉専門学校	ふれいす Be	1	9 月 4 日～10 月 6 日

龍谷大学	Link	1	9月4日、9月8日
神戸大学大学院	an	1	9月5日、9月6日、9月20日
全国自閉症者協議会発達障害 支援SV実務者研修	ジョブサイトよ ど、ジェイ・ブラ ンチよど	11	9月14日、11月16日
京都医療福祉専門学校	ジョブサイトひむろ	1	9月18日～9月29日
大阪府立大学	ふれいす Be	2	9月20日
足羽学園	萩の杜	3	9月25日～27日
藍野大学	ジョブサイトひむろ	2	10月4日
藍野大学	ふれいす Be	2	10月4日
日本知的障害者福祉協会	ふれいす Be	1	10月10日～11月10日
藍野大学	ふれいす Be	2	10月11日
藍野大学	ふれいす Be	2	10月25日
日本精神科看護協会	あんだんて	1	10月30日
京都医療福祉専門学校	ジョブサイトひむろ	1	10月30日～12月1日
阿武野中学校	ジョブサイトひむろ	4	10月31日～11月1日
藍野大学	ふれいす Be	2	11月1日
高槻第二中学校	ふれいす Be	2	11月9日～11月10日
福井県あすわ福祉会	なさはら	1	11月14～16日
足羽学園	萩の杜	3	11月15日～17日
龍谷大学	will	1	12月1日、12月7日、1月26日
島根県さくらの家	なさはら	1	12月6～8日
龍谷大学短期大学部	萩の杜	2	12月19日～12月27日
高槻市民後見人養成講座	ふれいす Be	1	1月12日、1月15日、1月18日、1月29日
高槻ライフケア協会	ジョブサイトひむろ	1	1月19日～1月22日
大阪保育福祉専門学校	ふれいす Be	1	1月29日～2月13日
滋賀短期大学	ふれいす Be	1	2月5日～2月16日
関西学院大学	a z	2	2月7日、2月8日、2月28日
花園大学	Link	1	2月8日、2月15日、2月23日
龍谷大学	will	1	3月1日、3月7日
大阪府立大学	a z	1	3月8日
武庫川女子大学	an	1	3月12日

福井県あすわ福祉会	なさはら	1	3月12～14日
-----------	------	---	----------

平成29年度：実地団体数 団体、実習人数 のべ73人

7. 職員研修・研究会

(1) 外部研修参加

開催 月	研修会・研究会の名称
4	平成29年度福祉フォーラム
	高槻市啓発デーシンポジウム
	自閉症啓発デーinOSAKA シンポジウム（大阪府）
	サービスマナーセミナー
	在宅栄養ケアフォローアップ研修会
	言葉の概念の説明と関係機関との連携について
	ヒラタ夏のイベント展示会
5	喀痰吸引等研修(第3号研修)
	PECS レベル1 ワークショップ
	高槻集団給食研究会定時総会
	食中毒予防研修会
	TEACCH プログラム研究会大阪支部
	「地域の家」勉強会
	災害研修
	食中毒研修
	ビジネスマナー研修 初級編
	就労について考える連続セミナー
	大人の ADHD セミナー
	高槻集団給食研究会
	問題行動の理解と対応
	日本 PWS 協会総会
6	喀痰吸引等研修(第3号研修)
	超!入門自閉症支援講座
	発達障害者支援センター全国連絡協議会 実務者研修会
	TEACCH プログラム研究会大阪支部
	京都市発達障害者支援センターかがやき視察
	富田林市障がい者支援ねっとわーく「来る間」研修会
	食中毒研修
	ビジネスマナー研修 中級編
	ダウン症講座

	たかつきしまもと就労支援ネットワーク会議
	就労について考える連続セミナー
	感覚と運動の問題への対応
	医療と福祉の連携強化シンポジウム
	関西感染症フォーラム
	家族心理教室研修会
	感染症・食中毒予防対策講習会
	第4次大阪府障がい者計画について
	これからの FUKUSI を共に作る(人材確保、定着、育成)
	基礎講座「評価から支援へ」
	ヒラタフードフェア in 神戸 2017
	第30回 PWS 支援者ネットワーク定例会
	大阪府相談支援従事者専門コース発達障がい支援コース
	家族心理教育研修(高槻市保健所)
	指定障がい児支援事業所集団指導
7	超!入門自閉症支援講座
	発達障害セミナー2017
	TEACCH プログラム研究会大阪支部
	高機能自閉症・アスペルガー症候群セミナー2017(京都府自閉症協会)
	ファシリテーター研修
	レクレーション研修
	PECS 研修
	就労移行支援タウンミーティング
	就労支援基礎講座
	アクトおおさか公開講座 自閉スペクトラム症の理解と対応
	高機能自閉症アスペルガー症候群セミナー2017
	日本知的障害者福祉協会全国施設長会議
	在宅医療・介護連携推進事業
	自閉スペクトラム症の理解と対応
	全国自閉症支援者協会総会 発達障害者支援法の改正を踏まえての今後の課題と展望
	職員の育成・定着について
	食品衛生講習
	セルフ部会施設見学会研修
	基礎講座「コミュニケーション」
	HEADS 主催 SWEETS 展示会・懇親会
8	P E C S ワークショップ スタンダード

	強度行動障がいの方を支援する職員の基本姿勢や心得
	高槻市民間社会福祉施設連絡会新任職員研修会
	発達障害者地域支援マネジャー研修会（基礎研修）
	福祉医療費行政説明会
	第二回ダウン症支援セミナー
	障がい児者施設過程（主任クラス）研修会
	対人援助専門職講座
	てんかん基礎講座
	精神・発達障害者 就労定着支援フォーラム
	就労定着支援フォーラム
	自閉症カンファレンス
	高槻市民間社会福祉施設連絡会新任職員研修会
	サービス管理責任者（就労分野）研修
	組織開発研究会
9	大阪府 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
	喀痰吸引等研修(第3号研修)
	意思決定支援ワークショップ
	超!入門自閉症支援講座
	「応用行動分析を使った学習支援」ワークショップ
	福祉管理者に求められる役割
	SDM ワークショップ 2日 day
	コラボセミナー研修
	服薬調整の実務
	自殺予防対策とソーシャルワーク(PSW)
	就業生活支援基礎講座
	市民公開講座シンポジウム P S W 研修
	メンタルヘルスセミナー
	意思決定支援 (SDM) ワークショップ
	発達障がい者の地域支援を考える会
	とことん自閉症支援セミナー
	強度行動障害支援者養成研修
	食品成分表示
	基礎講座「自閉症の特性理解・ペアレントトーク」
	北海道はるにれの里コラボセミナー
	発達障がい者の地域支援を考える会（アクトおおさか主催）
	TEACCH プログラム研究会大阪支部：「幼児期・学齢期 実践報告」
	bon: 自閉症・発達障害の人への支援「放課後等デイサービスから成人期への移行支

	援」
	自閉症 e サービス 基礎講座『特性理解とペアレント・トレーニング
10	ジョイントセミナー(北海道)
	平成 29 年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修【基礎研修】
	超!入門自閉症支援講座
	PECS レベル 2 ワークショップ
	福祉施設、事業所等における感染症予防等に係る研修会
	発達障害者地域支援マネジャー研修会（応用研修）
	ノースカロライナ視察研修
	福祉講演会 利用者本位の福祉をどう実現するか～意思決定支援と権利擁護について
	感染症予防
	生活保護制度について
	相談従事者初任者研修 2 日間
	SDM ワークショップ 1 日
	衛生講習会
	介護支援専門員実務研修
	利用者本位の福祉をどう実現するか～意思決定支援と権利擁護について
	くまもと障がい者就業支援研究会・TEACCH 研熊本支部合同研修会
	自閉症 e サービス就労支援セミナー
	JC-NET ジョブコーチセミナー
	ADHD がある人の特徴と支援
	アクトおおさか 15 周年記念事業
	相談・就業支援セミナー
	第 2 回職員研修
	FACEtoFUKUSHI
	基礎講座「構造化のアイデア」
	サービス管理責任者（就労分野）研修：2 日間
	関西デザート・スイート&ベーカリー展
	第 31 回 PWS 支援者ネットワーク定例会
	相談支援者従事者研修（5 日間）
	PECS:Level1 ワークショップ
	自閉症 e サービス基礎講座『構造化のアイディア』
11	第 31 回 全日本自閉症支援者協会研究大会(新潟)
	e サービス分野別講座
	P E C S ワークショップ スタンダード
	超!入門自閉症支援講座

	高槻事業所連絡会研修「高槻市第5期障がい福祉計画について」
	介護保険関連施設給食部会研修会
	奈良県発達障害支援センターでいあー視察
	発達障害者就労支援者育成事業 近畿ブロック第1回
	リスクマネジメント研修
	権利擁護・虐待防止研修
	発達障害をより深く考えるための高槻フォーラム
	冬季感染症について
	発達障害者の地域支援を考える会
	介護支援専門員実務研修
	第4次高槻市障害者計画
	TTAP 入門講座
	TEACCH プログラム研究会
	自閉症 e サービス基礎講座
	ジョブコーチ養成研修
	重症心身障害児者を守る会近畿ブロック研修会
	大阪精神医療人権センター講演会
	医療的ケア児支援者研修会
	おおさ知的障害福祉協会新任職員研修
	発達障がいの理解と支援に関する研修会
	いい働く場をつくろう！フォーラム 2017
	全国生産活動・就労支援部会
	FACEtoFUKUSHI
	ヒラタ展示会（バレンタイン&ホワイトデー）
	PWS セミナー
	かえるの会（相談支援事業所勉強会）
	ケアマネジメント情報共有チーム 事例についてのワークディスカッション
	相談支援者従事者研修（5日間）
12	発達障がいの理解と支援について
	平成29年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修【実践研修】
	平成29年度障がい者虐待防止・権利擁護研修
	防災・減災の研修
	発達障害者支援センター 近畿ブロック研修会
	平成29年度グループホーム世話人等研修
	介護支援専門員実務研修
	たかつきしまもとネットワーク会議
	淀川区事業研修会

	学術研究会
	成年後見制度研修
	本人の意見を尊重した個別支援計画の作成
	淀川区社会福祉施設連絡会 施設間交流
	FACEtoFUKUSHI
	事業所間交流研修
	組織開発勉強会
	かえるの会（相談支援事業所勉強会）
	進路就労ワーキングセミナー
	ケアマネジメント情報共有チーム 事例についてのワークディスカッション
1	介護支援専門員実務研修
	「9つの重要なコミュニケーションスキルを教える」ワークショップ
	意思決定支援と個別支援研修
	事例から学ぶ 就労支援基礎研修
	日中活動 生産活動・就労支援部会
	発達障がい者の地域支援を考える会
	ワークライフバランスを考える会
	関西学生フォーラム
	就労支援基礎研修
	発達障害のある大人のライフスキルについて
	FACEtoFUKUSHI
2	北摂杉の子会 20周年記念講演会
	アメニティーフォーラム 22
	意思決定支援研修会
	TEACCH コラボレーションセミナー2018
	給食施設栄養業務担当者研修会
	日本職業リハビリテーション学会近畿ブロック研究会研修
	発達障害者就労支援者育成事業 近畿ブロック第2回
	こころの健康ネットワーク大東 2018
	自閉症 e サービス高機能ワークショップ
	職リハ学会近畿ブロック研究会
	発達障害就労支援者育成事業
	たかつきしまもとネットワーク会議
	第32回 PWS 支援者ネットワーク定例会
	かえるの会（相談支援事業所勉強会）
	大阪府相談支援従事者研修権利擁護研修
3	アンガーマネジメント研修

	働くチカラプロジェクト 実践報告会
	人権研修
	たかつきしまもとネットワーク会議
	JC-NET 会議
	自閉症 e サービス実践報告会
	北摂施設長会議
	大阪府重症心身障害児・者を支える会セミナー
	食品成分表示
	ヒラタ展示会

平成 29 年度：参加研修会（研究会）221 数

（２）内部講師の研修

①グループホームみやた

月	担当講師	テーマ
4 月	鎌田 原田	「サービスマナーセミナー」復命講習 スーパービジョンについて
5 月	伊名岡	意思決定支援
6 月	鎌田 原田	食中毒について 個別支援計画について
7 月	勝本	メンタルヘルスケア
8 月	鎌田	ご利用者の薬について
9 月	山縣	「強度行動障がい支援者養成研修：基礎」復命講習
10 月	勝本	生活習慣病
11 月	竹内、石田、中山 松本 山縣 原田	ダウン症 コミュニケーションについて 感染症 生活保護制度
12 月	松本 原田	「強度行動障がい支援者養成研修：実践」復命講習 クレドを深める
2 月	原田	気づきについて
3 月	原田	気づきの後の業務の進め方

②レジデンスなさはら

月	担当講師	テーマ
4 月	伊名岡	「自閉症の基礎講座」、事例発表
5 月	伊名岡	「意思決定支援」× 3 回
6 月	水川、京極	「ビジネスマナー講座」× 3 回
7 月	研修受講者	復命講習（15 分研修）× 3 回

8 月	研修受講者	復命講習（15 分研修）× 2 回
9 月	研修受講者	復命講習（15 分研修）× 3 回
10 月	黒木 研修受講者	「PECS 研修復命講習」 復命講習（15 分研修）× 2 回
11 月	竹内	「基本的価値観について」 復命講習（15 分研修）× 1 回
12 月	研修受講者	復命講習（15 分研修）× 2 回
1 月	竹内・石田	「知的障害者支援と精神科医療を考える」
3 月	伊名岡	「会議について」 「SW 分析での課題解決方法について」 「休憩の定義」

(3) 交流研修参加

①グループホームみやた

月	テーマ	受講者数 (延べ)
5、12 月	レジデンスなさはら	2 名

②レジデンスなさはら

月	テーマ	受講者数 (延べ)
4 月	自閉症の基礎講座（萩の杜）	10 名
1、2 月	GH みやた 3 日間	2 名

(4) 外部講師研修（レジデンスなさはら）

月	担当講師	テーマ
8 月	佐藤氏 (はるにれの 里)	「強度行動障害の方を支援する支援者の基本姿勢」

(5) 真野 Dr 巡回相談（レジデンスなさはら）

月	担当講師	テーマ
4 月 17 日	真野先生	29 年度巡回の打ち合わせ
5 月 22 日	真野先生	K さんの高齢化について
6 月 19 日	真野先生	熱中症
8 月 7 日	真野先生	K 式検査報告
10 月 23 日	真野先生	感染症と予防接種
11 月 20 日	真野先生	てんかんについて（3 ケースに添って研修）
12 月 18 日	真野先生	生活習慣病
1 月 22 日	真野先生	花粉症
3 月 12 日	真野先生	自閉性スペクトラム障害とお薬

3 月 19 日	真野先生	応急処置（家庭医学のウソ、ホント）
----------	------	-------------------